

東通原子力発電所

温排水影響調査結果報告書

令和 7 年度報

令和 8 年

青 森 県

ま え が き

青森県及び東北電力株式会社は、東通原子力発電所の温排水が施設前面海域及び周辺海域に与える影響を把握するため、「東通原子力発電所温排水影響調査実施計画」に基づき、平成 15 年 4 月から、海洋環境と海生生物の調査を実施しています。

なお、海洋環境調査項目（取放水温度、水温・塩分、流況、水質、底質）では、温排水の影響による水温上昇域の把握と取放水に伴い海洋環境が変化していないかを確認することを、海生生物調査項目（卵・稚仔、プランクトン、海藻草類、底生生物）では、温排水の影響により発電所前面海域において海生生物が変化していないかを確認することを目的としています。

本報告書は、青森県及び東北電力株式会社が令和 7 年 4 月から令和 8 年 3 月までの令和 7 年度において実施した原子力施設前面海域及び周辺海域における水温・塩分等の海洋環境と卵・稚仔等の海生生物の調査結果をとりまとめたものです。

令和 8 年 8 月
青森県

目 次

1. 調査概要

(1) 調査機関	1
(2) 調査期間	1
(3) 調査項目	1
(4) 調査位置	2
(5) 調査方法及び分析方法	10
(6) 調査結果の概要	13

2. 東通原子力発電所周辺海域における海域環境調査結果

[青森県実施分]

(1) 水温・塩分	16
-----------------	----

3. 東通原子力発電所前面海域における海域環境調査結果

[東北電力(株)実施分]

(1) 取放水温度	32
(2) 水温・塩分	35
(3) 流 況	51
(4) 水 質	56
(5) 底 質	61

(6) 卵・稚仔	64
(7) プランクトン	69
(8) 海藻草類	75
(9) 底生生物（メガロベントス）	77
(10) 運転状況・調査スケジュール	79

1. 調査概要

(1) 調査機関

青森県・地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所
東北電力株式会社

(2) 調査期間

青 森 県 ： 令和 7 年 6 月 13 日～令和 8 年 3 月 10 日
東北電力(株)：令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日

なお、令和 7 年度の調査は発電所停止中に実施したものである。

注 1) 発電所停止中とは、発電所稼働前や定期検査等の理由により、調査時の電気出力が 0kW と
なっていることを示す。

注 2) 発電所稼働中とは、調査時の電気出力が確認されていることを示す。

(3) 調査項目

調査項目を表－1.1～1.2 に示す。

表－1.1 調査項目 [青森県実施分]

調 査 項 目		調 査 目 的	調査点数	調 査 水 深
海洋環境	水温・塩分	温排水の影響による水温 上昇域を確認する。	5 点	表層, 10, 20, 30, 50m

表－1.2 調査項目〔東北電力(株)実施分〕

調 査 項 目		調 査 目 的	調査点数	調 査 水 深
海 洋 環 境	取放水温度		取水口および放水口	
	水温・塩分		19 点	0.5m、1～10mまで1m間隔、 15m、20m、海底上2m
	流 況 (流向・流速)		2 点	2m
	水 質	水素イオン濃度 (pH)	8 点	0.5m、5m、 水深21m未満の場合は海底上1m、 水深21m以深の場合は海面下20m
		化学的酸素要求量 (COD)		
		溶存酸素量 (DO)		
		塩 分		
		透明度		
		浮遊物質 (SS)		
		水 温		
		全窒素 (T-N)		
		全リン (T-P)		
	底 質	化学的酸素要求量 (COD)	3 点	海 底
		強熱減量 (IL)		
		全硫化物 (T-S)		
		粒度組成		
海 生 生 物	卵・稚仔		6 点	0.5m、5m
	プ ラ ン ク ト ン	動物プランクトン	6 点	0～5m、 水深21m未満の場合は5m～ 海底上1m、水深21m以深の 場合は5～20m
		植物プランクトン		0.5m、5m
	海藻草類、底生生物 (メガロベントス)		4 測線	水深20m以浅

(4) 調査位置

調査位置図を図－1.1～1.7 に示す。調査海域は、東通原子力発電所から南偏した調査地点を設定した。

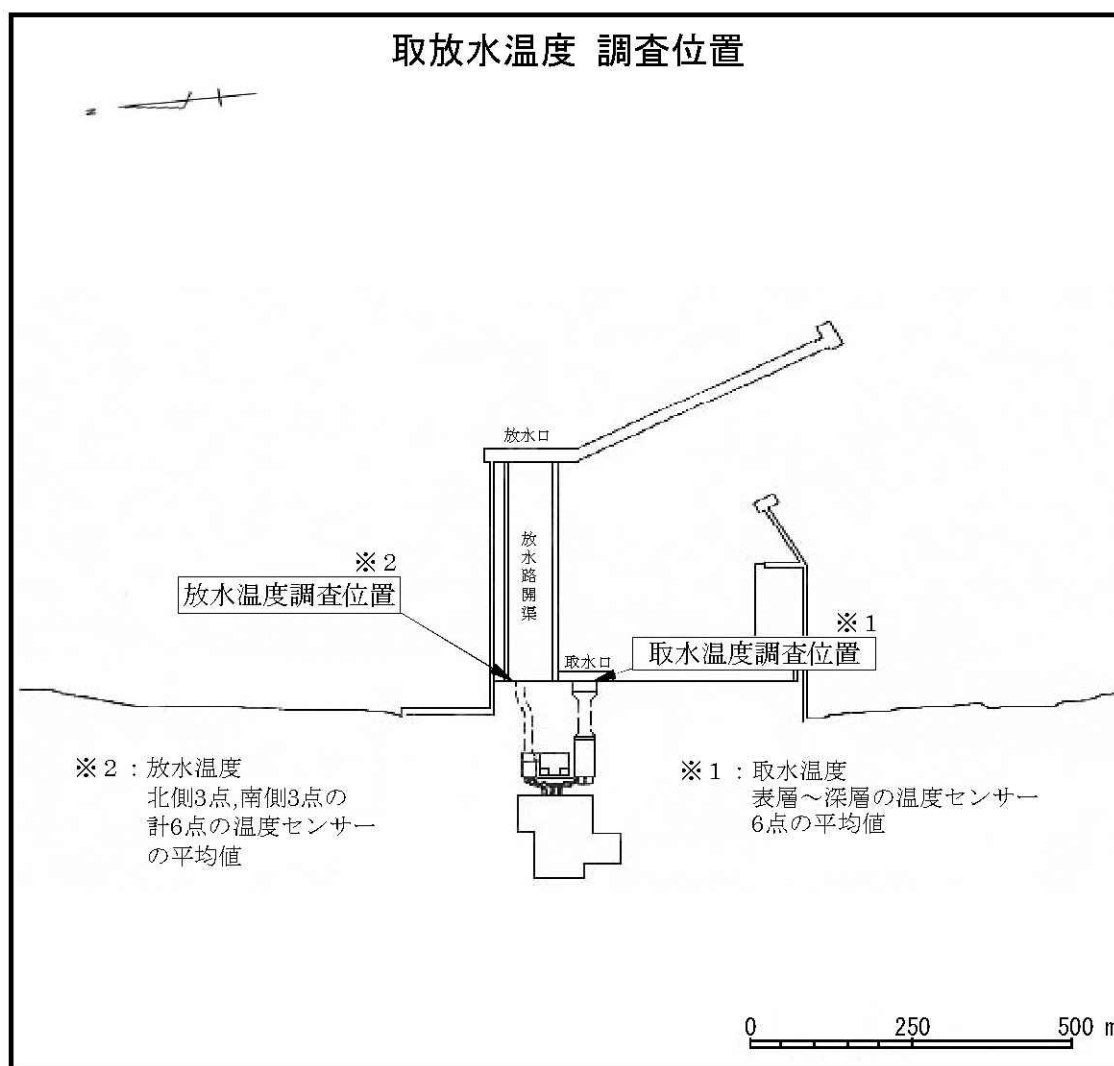


図-1.1 取放水温度 調査位置

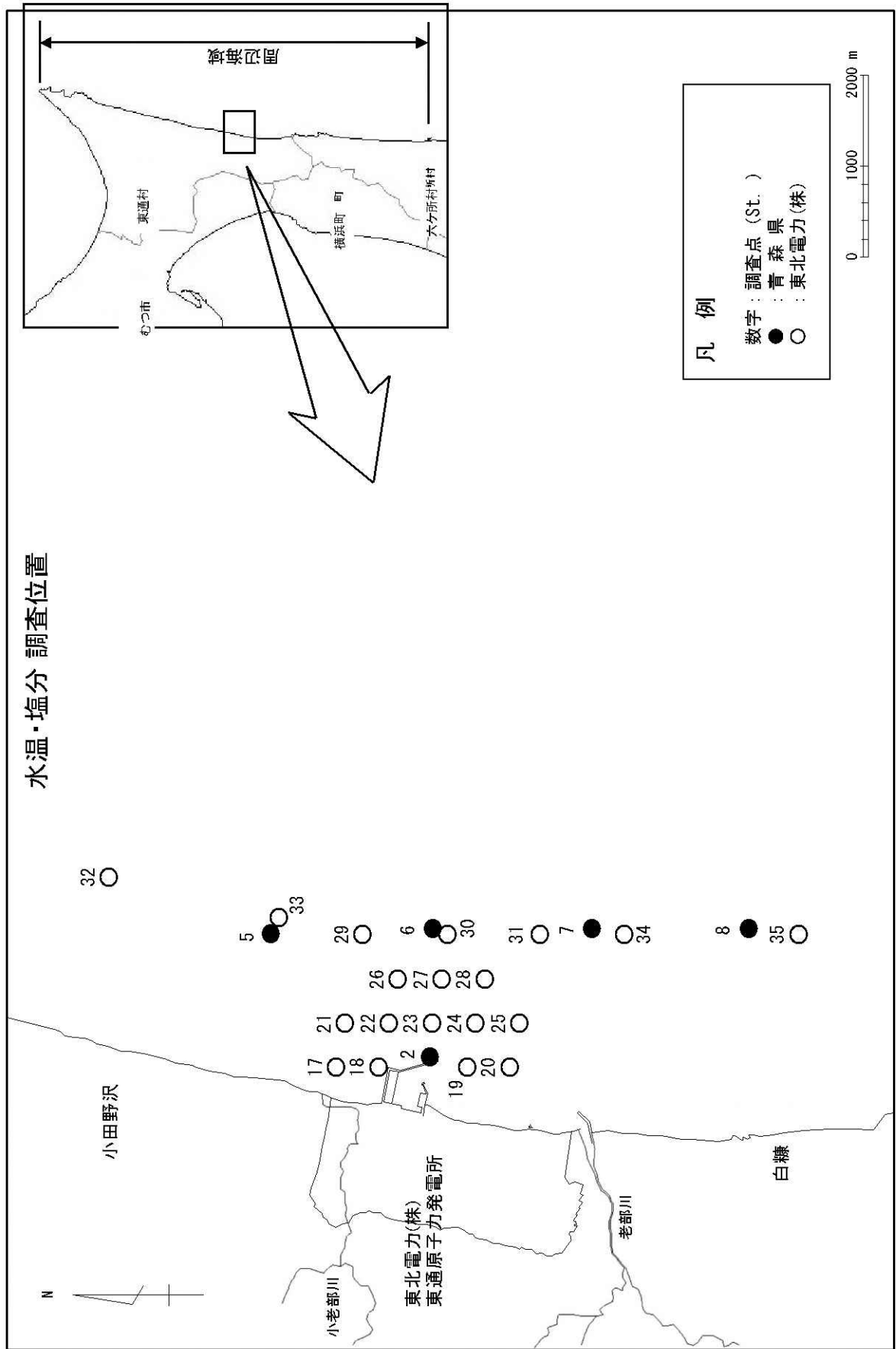


図-1.2 水温・塩分 調査位置

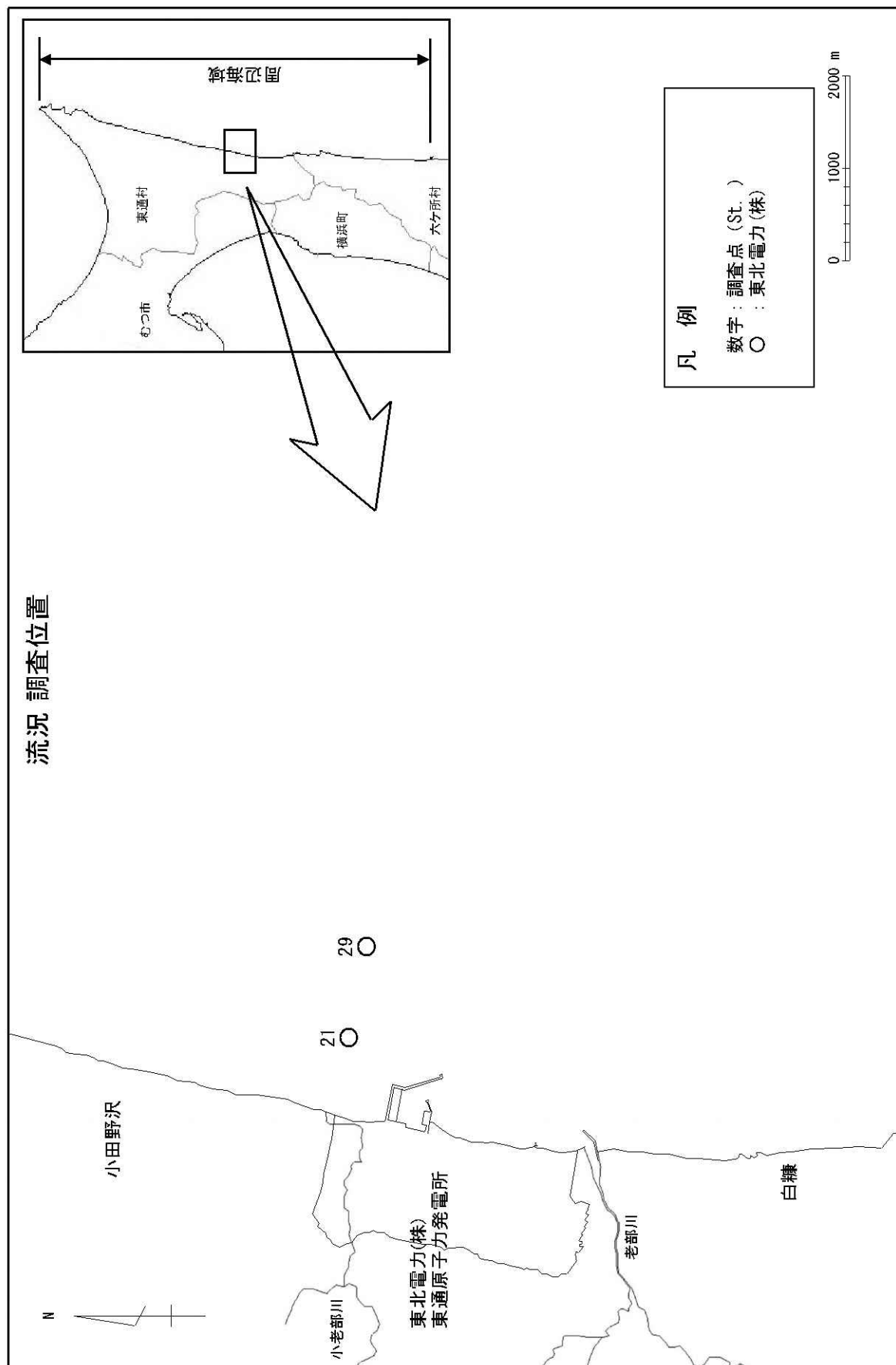


図-1.3 流況 調査位置

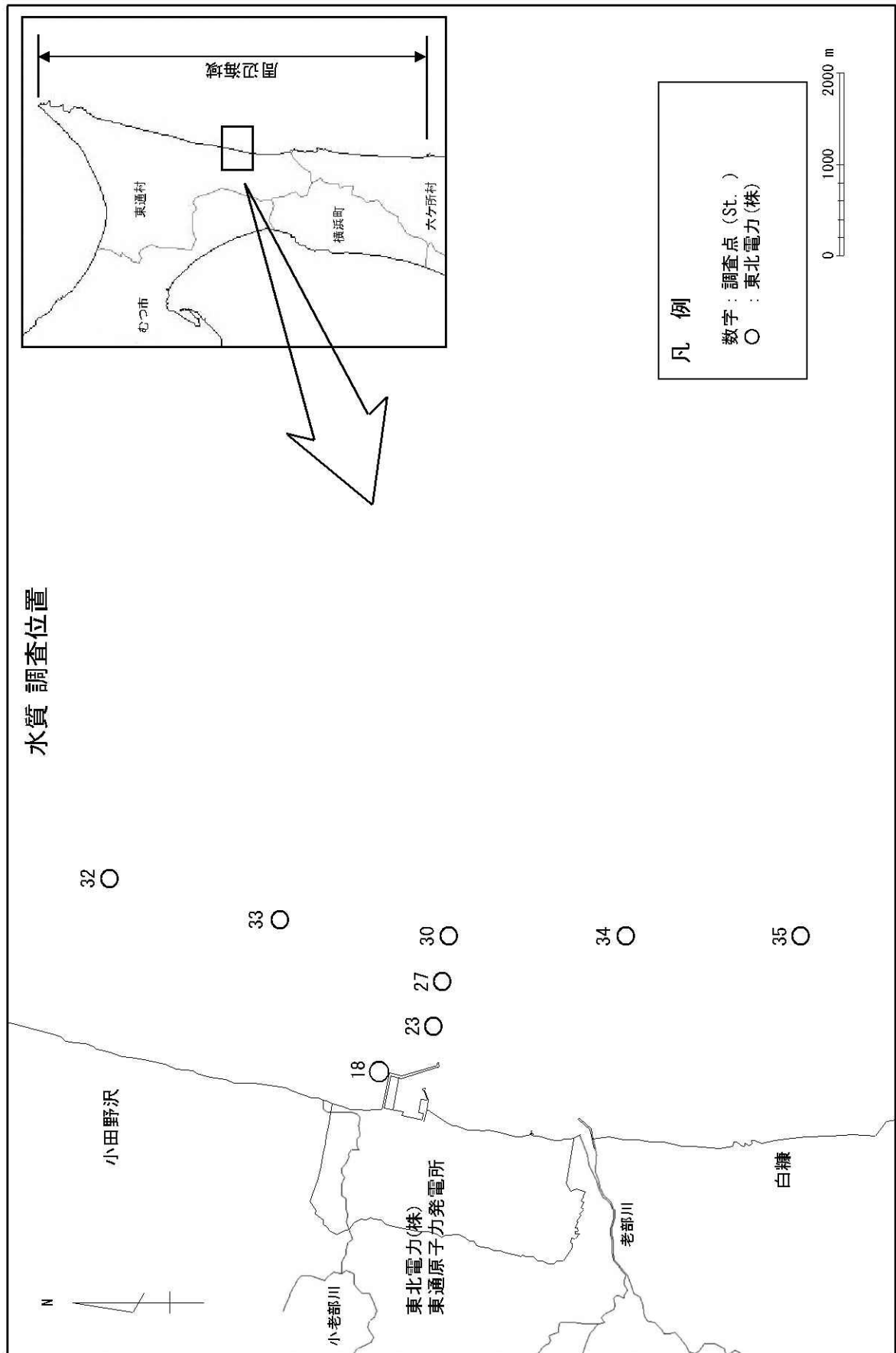


図-1.4 水質 調査位置

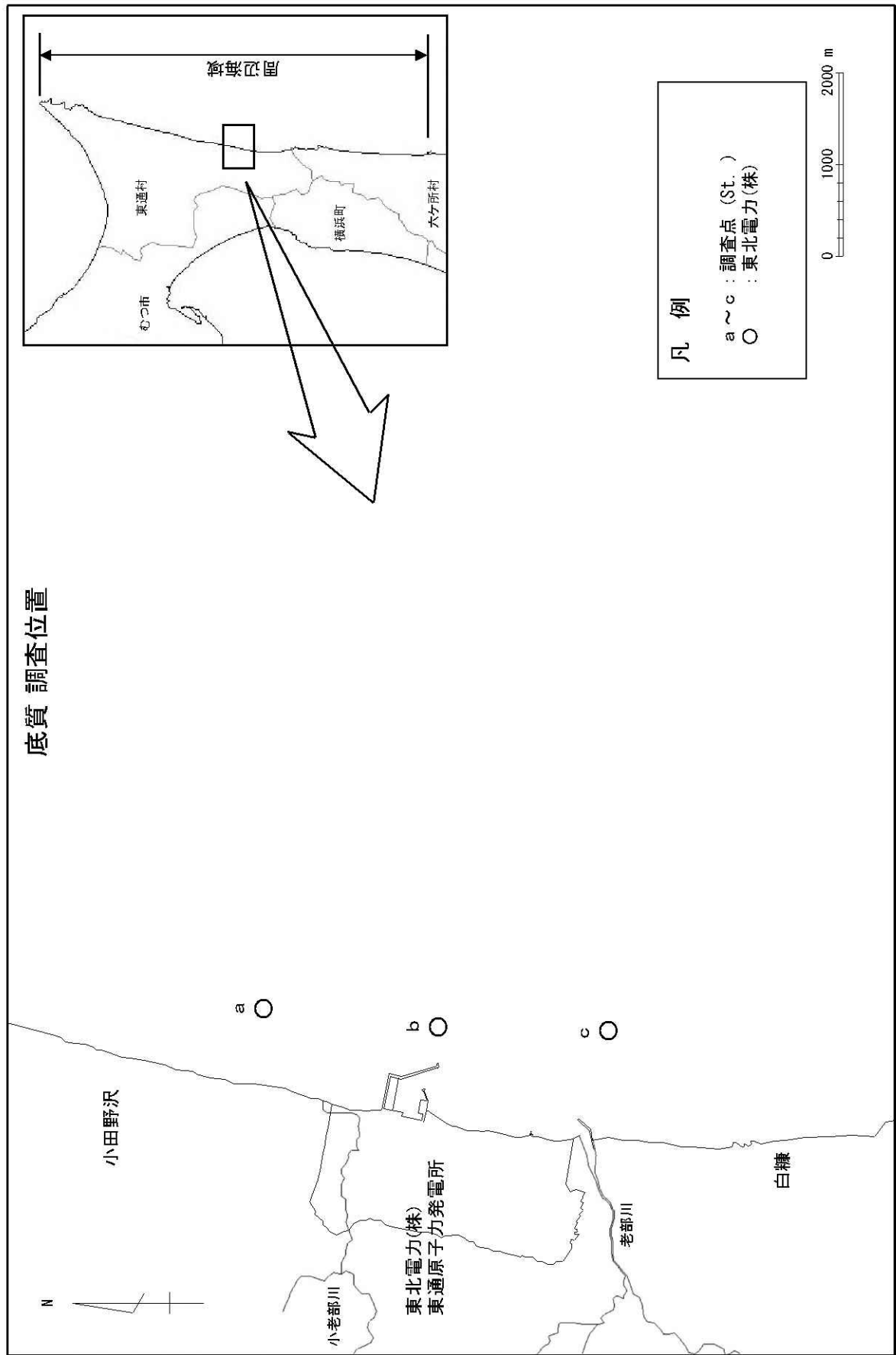


図-1.5 底質 調査位置

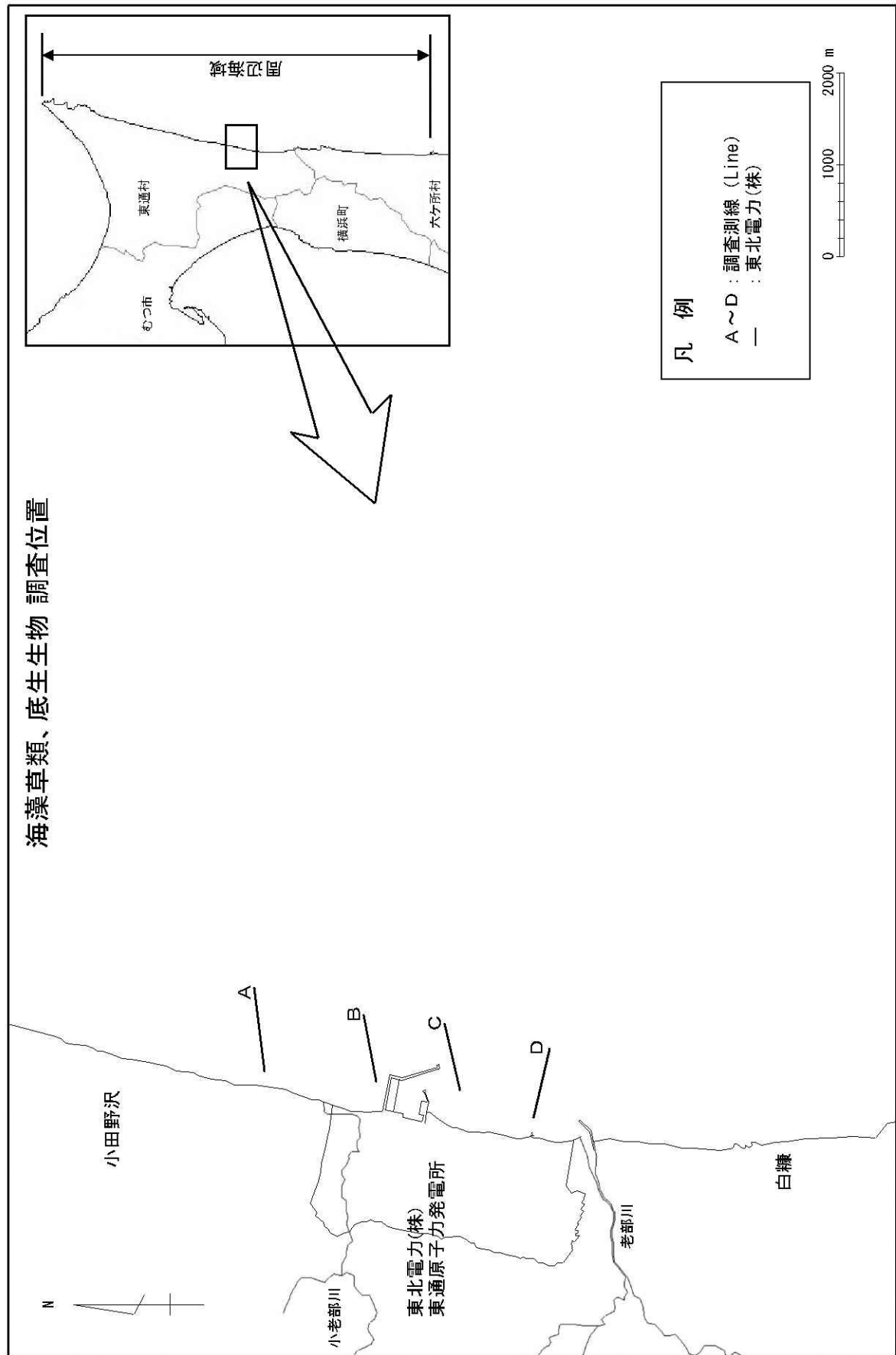


図-1.7 海藻草類、底生生物 調査位置

(5) 調査方法及び分析方法

a. 青森県実施分

①調査方法

調 査 項 目		調 査 方 法	調査頻度
海 洋 環 境	水温・塩分	調査点に停船し、メモリー式の「水温・塩分計」を所定の深度まで沈め、水温と塩分を測定する。表層は採水し棒状温度計で測定する。また、採水した表層水は持ち帰り、塩分検定を行う。表層以深の水温・塩分の測定方法は、海洋観測指針（1999 年）4.3.1 による。塩分は実用塩分で表し、その単位は無名数とする。	年 4 回

* 実用塩分：実用塩分は、1 気圧、15℃における塩化カリウム標準溶液（1kg 中、32.4356 g の塩化カリウムを含んだ水溶液）との電気伝導度比によって定義され、無次元の値であるため数値だけで表示する。

b. 東北電力(株)実施分

① 調査方法

調 査 項 目		調 査 方 法	調査頻度
海 洋 環 境	取放水温度	常設の電気式水温計により、連続測定する。	連続
	水温・塩分	調査点に停船し、メモリー式の「水温・塩分計」を所定の深度まで沈め、水温と塩分を測定する。塩分は実用塩分で表し、その単位は無名数とする。	年 4 回
	流 況 (流向・流速)	所定の位置に「流向・流速計」を係留し、15 昼夜にわたって流向と流速を連続測定する。	年 4 回
	水 質	採水器を用いて所定の深度の採水を行い、試料を持ち帰り、各項目について分析する。また、透明度は「セッキー板」を用いて、水温は「水温・塩分計」を用いて測定する。	年 4 回
	底 質	採泥器を用いて海底の採泥を行い、試料を持ち帰り、各項目について分析する。	年 4 回
海 生 生 物	卵・稚仔	稚魚ネットの水平曳きにより試料を採集し、ホルマリン固定する。試料は持ち帰り、出現種の査定を行う。	年 4 回
	プランクトン	動物プランクトンはプランクトンネットの鉛直曳きにより、植物プランクトンは採水器により試料を採集し、ホルマリン固定する。試料は持ち帰り、出現種の査定を行う。	年 4 回
	海藻草類、底生生物 (メガロベントス)	潜水士が海水中に潜って目視観察および写真撮影を行い、出現種類や分布状況について調査する。	年 4 回

* 実用塩分：実用塩分は、1 気圧、15℃における塩化カリウム標準溶液（1kg 中、32.4356 g の塩化カリウムを含んだ水溶液）との電気伝導度比によって定義され、無次元の値であるため数値だけで表示する。

* 透明度：透明度は海洋表層の平均的な海水の濁りの指標であり、白昼に透明度板（セッキー板ともいう）という直径 30cm の白色の平らな円盤を水平に海水中に降ろし、上から見てこれがちょうど見えなくなる限界の深さを m 単位で表す。透明度の目視確認が海底までできた場合（着底した場合）は、その水深の値は透明度に含めない。

② 分析方法

水質分析方法

分析項目		分析方法（出典）	表示単位
水素イオン濃度（pH）		環告 59 号 別表 2. 2 （JIS K 0102-1 12）	—
化学的酸素 要 求 量 （COD）	酸性法	環告 59 号 別表 2. 2 （JIS K 0102-1 17. 2）	mg/L
	アルカリ性法	環告 59 号 別表 2. 2 備考 1	mg/L
溶存酸素量（DO）		環告 59 号 別表 2. 2 （JIS K 0102-1 21. 2）	mg/L
塩 分		海洋観測指針（1999）5. 3	—
透 明 度		海洋観測指針（1999）3. 2	m
浮遊物質（SS）		環告 59 号 別表 2. 1 付表 8	mg/L
水 温		JIS K 0102-1 6. 3 （サーミスタ温度計）	℃
全窒素（T-N）		環告 59 号 別表 2. 2 （JIS K 0102-2 17. 5）	mg/L
全リン（T-P）		環告 59 号 別表 2. 2 （JIS K 0102-2 18. 4. 6）	mg/L

底質分析方法

分析項目	分析方法（出典）	表示単位
化学的酸素要求量（COD）	底質調査方法 （平成 24 年環境省 II 4. 7）	mg/g 乾泥
強熱減量（IL）	底質調査方法 （平成 24 年環境省 II 4. 2）	%
全硫化物（T-S）	底質調査方法 （平成 24 年環境省 II 4. 6）	mg/g 乾泥
粒度組成	JIS A 1204	%

(6) 調査結果の概要

令和 7 年度の調査において、青森県実施分及び東北電力実施分ともに温排水の影響と考えられる結果は観測されなかった。

なお、令和 7 年度の調査は発電所停止中の調査であった。

a. 青森県実施分

令和 7 年度（令和 7 年 6 月 13 日～令和 8 年 3 月 10 日）に、青森県が実施した調査結果の概要は、以下のとおりであった。

(a) 水温・塩分

全 5 調査点において、水温・塩分の測定を行った。水温は、表層、全体、水温較差において、第 1 四半期、第 3 四半期、第 4 四半期では、過去同期の停止中の範囲内にあった。第 2 四半期では、水温較差は、過去同期の停止中の範囲内にあったが、表層、全体において、過去同期の停止中の範囲を上回っていた。

塩分は、いずれの四半期でも、海域全体で一様であった。

b. 東北電力(株)実施分

令和7年度(令和7年4月1日～令和8年3月31日)に、東北電力(株)が実施した調査結果の概要は、以下のとおりであった。

(a) 取放水温度

調査期間を通じて、取放水温度差は、7℃以内に収まっていた。

(b) 水温・塩分

全19調査点において、水温・塩分の測定を行った。水温は、0.5m層、全体、水温較差において、いずれの四半期でも、過去同期の停止中の範囲内にあった。

塩分は、いずれの四半期でも、海域全体で一様であった。

(c) 流況

全2調査点における流向別流速出現頻度は、いずれの四半期でも、過去同期と同様の傾向であった。

(d) 水質

全8調査点において採水し、水質分析を行い、溶存酸素量(DO)、塩分、浮遊物質(SS)、水温、全窒素(T-N)は、いずれの四半期でも、過去同期の範囲内にあった。水素イオン濃度(pH)は、第1四半期、第3四半期、第4四半期では、過去同期の範囲内にあったが、第2四半期では、過去同期の範囲を下回っていた。化学的酸素要求量(COD)は、第2四半期、第3四半期、第4四半期では、過去同期の範囲内にあったが、第1四半期では、アルカリ性法で、過去同期の範囲を上回っていた。透明度は、第1四半期、第3四半期、第4四半期では、過去同期の範囲内にあったが、第2四半期では、過去同期の範囲を下回っていた。全リン(T-P)は、第1四半期、第2四半期、第4四半期では、過去同期の範囲内にあったが、第3四半期では、過去同期の範囲を上回っていた。

(e) 底質

全3調査点において採泥し、底質分析を行い、全調査点において、化学的酸素要求量(COD)、全硫化物(T-S)、強熱減量(IL)は、いずれの四半期でも、過去同期の範囲内にあった。粒度組成は、第2四半期、第3四半期、第4四半期では、過去同期の範囲内にあったが、第1四半期では、過去同期の範囲を下回っていた。

(f) 卵・稚仔

卵の出現種類数、出現平均個数は、いずれの四半期でも、過去同期と同様の傾向であった。

稚仔の出現種類数、出現平均個体数は、第2四半期、第3四半期、第4四半期では、過去同期と同様の傾向であった。

第1四半期では、出現種類数、出現平均個体数は、過去同期の範囲を上回っていたが、過去と同様の出現傾向にあり、変化はみられなかった。

(g) プランクトン

動物プランクトンの出現種類数、出現平均個体数は、いずれの四半期でも、過去同期と同様の傾向であった。

植物プランクトンの出現種類数、出現平均細胞数は、第1四半期、第3四半期、第4四半期では、過去同期と同様の傾向であった。

第2四半期では、出現平均細胞数は、過去同期の範囲を上回っていたが、過去と同様の出現傾向にあり、変化はみられなかった。

(h) 海藻草類、底生生物

海藻草類の出現種類数は、いずれの四半期でも、過去同期と同様の傾向であった。

底生生物の出現種類数、出現平均個体数は、いずれの四半期でも、過去同期と同様の傾向であった。

2. 東通原子力発電所周辺海域における海域環境調査結果

[青森県実施分]

(1) 水温・塩分

調査位置：St. 2、5～8（5 調査点、図－1.2 参照）

発電所稼働状況：停止中

a. 水温

調査結果を表－2.1 に、表層、10m層における水温の経年変化を図－2.1 に、表層における水温水平分布図を図－2.2 に、水温鉛直分布図を図－2.3 に示す。

① 第1四半期

表層の水温は 12.9℃～13.1℃の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

全体の水温は 11.9℃～13.1℃の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

表層における水温較差は-0.1℃～0.1℃の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

② 第2四半期

表層の水温は 25.4℃～25.5℃の範囲であり、過去同期の停止中の範囲を上回っていた。

全体の水温は 20.4℃～25.5℃の範囲であり、過去同期の停止中の範囲を上回っていた。

表層における水温較差は 0.0℃～0.1℃の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

③ 第3四半期

表層の水温は 12.7℃～13.0℃の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

全体の水温は 12.7℃～13.7℃の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

表層における水温較差は-0.3℃～-0.1℃の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

④ 第4四半期

表層の水温は 7.7℃～8.1℃の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

全体の水温は 7.7℃～8.1℃の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

表層における水温較差は-0.3℃～0.1℃の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

表-2.1 水温調査結果

(単位: °C)

調 査 者		青森県		
項 目		測定範囲	過去の水温範囲 (停止中)	過去の水温範囲 (稼働中)
第 1 四 半 期	調査年月日	令和7年6月13日		
	表層	12.9~13.1	10.8~16.5	12.0~16.4
	全体	11.9~13.1	10.0~16.5	11.0~16.4
	水温較差 (表層)	-0.1~0.1	-2.4~1.8	-0.5~0.4
第 2 四 半 期	調査年月日	令和7年9月3日		
	表層	25.4~25.5	19.2~24.5	18.8~25.2
	全体	20.4~25.5	12.1~24.9	16.4~25.2
	水温較差 (表層)	0.0~0.1	-1.3~0.6	-1.2~1.6
第 3 四 半 期	調査年月日	令和7年12月8日		
	表層	12.7~13.0	11.9~16.8	13.2~15.6
	全体	12.7~13.7	11.9~17.4	13.2~15.7
	水温較差 (表層)	-0.3~-0.1	-1.7~1.0	-0.5~0.8
第 4 四 半 期	調査年月日	令和8年3月10日		
	表層	7.7~8.1	1.5~9.3	3.5~8.0
	全体	7.7~8.1	1.5~9.4	3.4~8.0
	水温較差 (表層)	-0.3~0.1	-1.6~0.4	-0.5~2.0

注 1) 青森県実施分における全体の水温は、水深 50m 層までを集計している。

注 2) 発電所停止中の水温範囲は、四半期ごとに下記のとおりである。

第 1 四半期 平成 15 年度~平成 17 年度、平成 20 年度、平成 23 年度~令和 6 年度

第 2 四半期 平成 15 年度~平成 16 年度、平成 23 年度~令和 6 年度

第 3 四半期 平成 15 年度~平成 16 年度、平成 21 年度、平成 23 年度~令和 6 年度

第 4 四半期 平成 15 年度~平成 16 年度、平成 18 年度、平成 23 年度~令和 6 年度

注 3) 発電所稼働中の水温範囲は、四半期ごとに下記のとおりである。

第 1 四半期 平成 18 年度~平成 19 年度、平成 21 年度~平成 22 年度

第 2 四半期 平成 17 年度~平成 22 年度

第 3 四半期 平成 17 年度~平成 20 年度、平成 22 年度

第 4 四半期 平成 17 年度、平成 19 年度~平成 21 年度

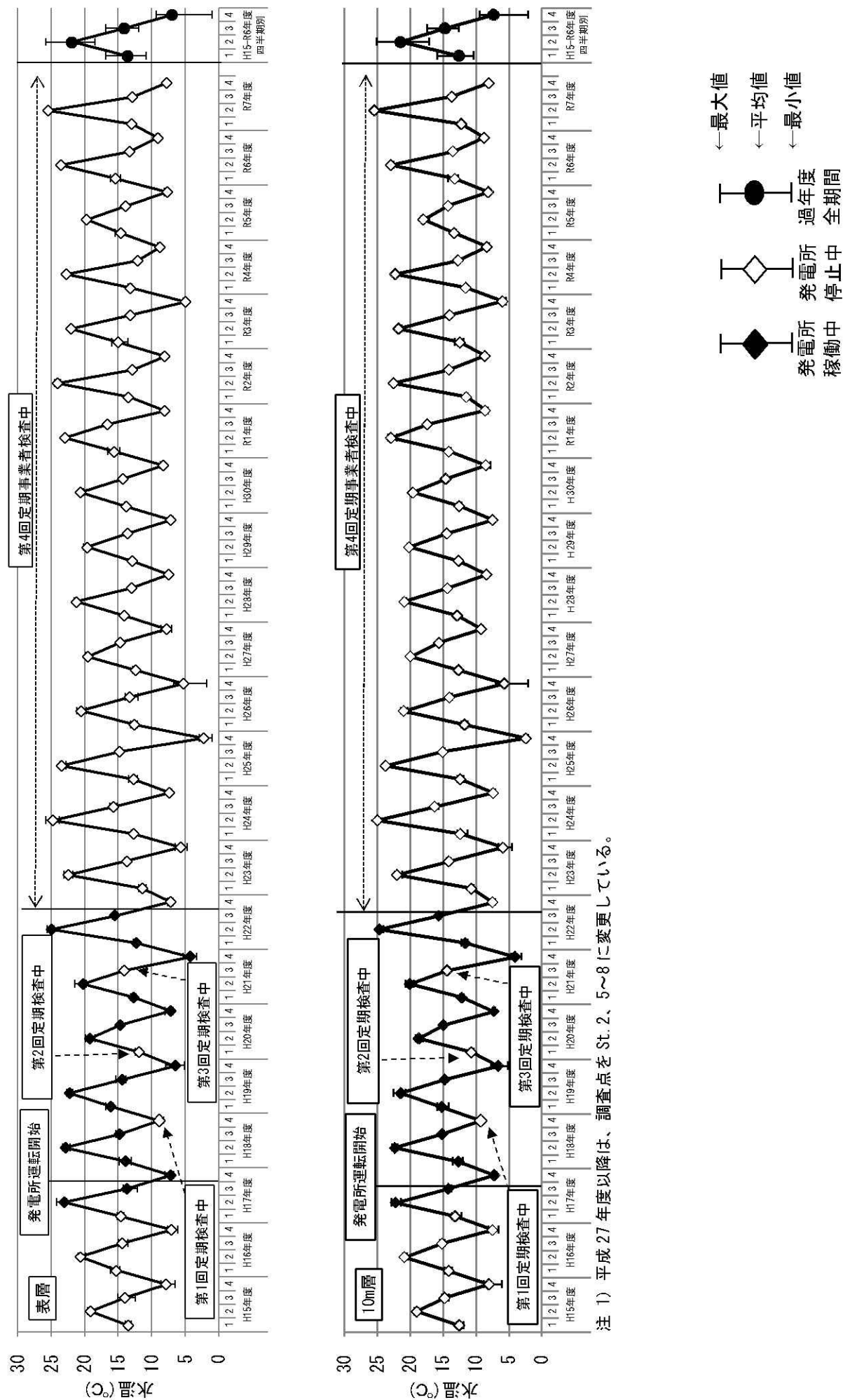
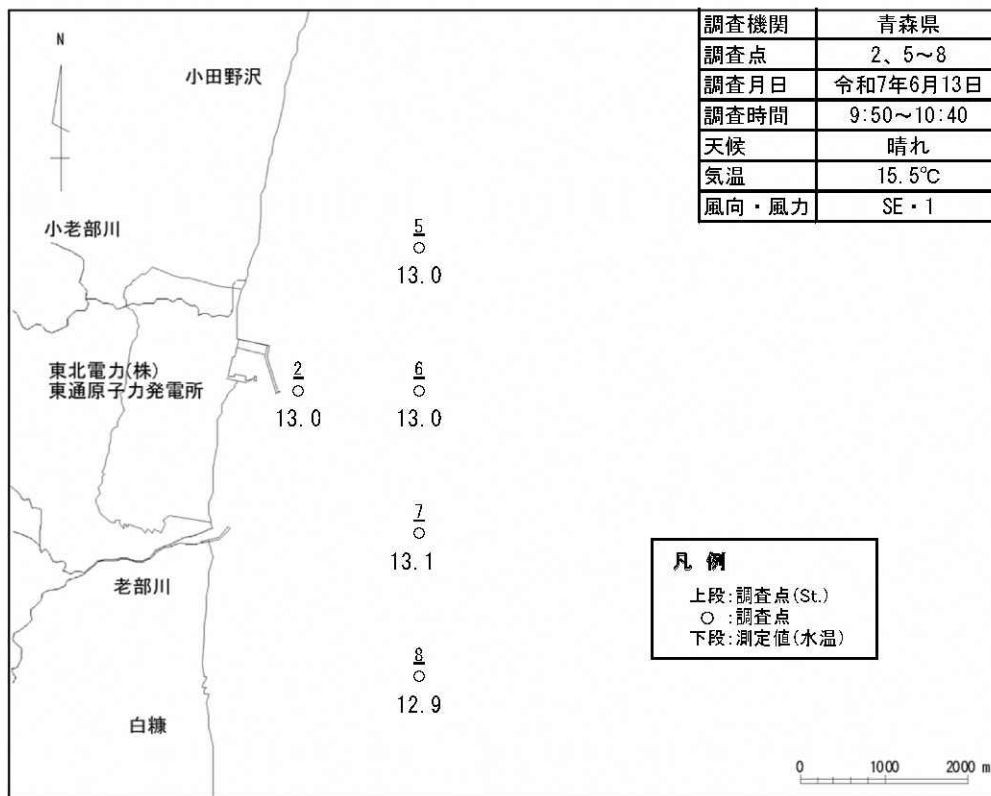


図-2.1 水温の経年変化(表層、10m層)

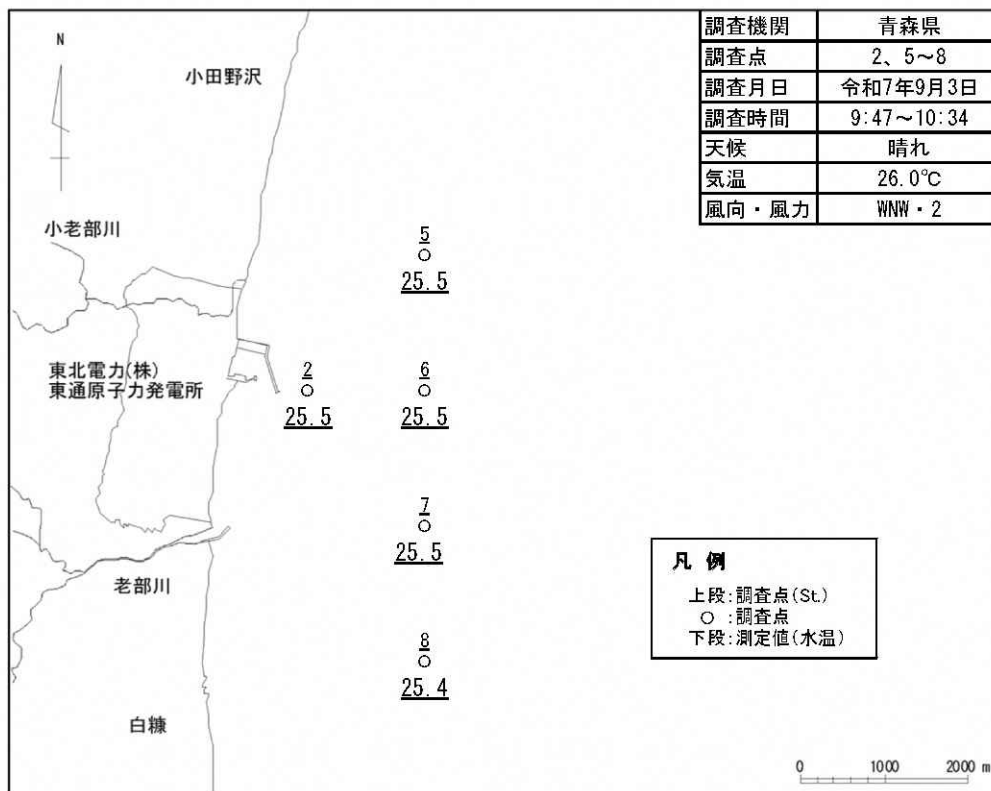
(令和7年6月調査)

(単位: °C)



(令和7年9月調査)

(単位: °C)



注 1) 測定値における下線部は、過去同期の範囲外の値であることを示す。

図-2.2 (1) 水温水平分布図 (表層)

(单位: °C)



上段:調査点(St.)
○:調査点
下段:測定値(水温)

(单位: °C)



上段:調査点(St.)
○:調査点
下段:測定値(水温)

20

(令和7年6月調査)

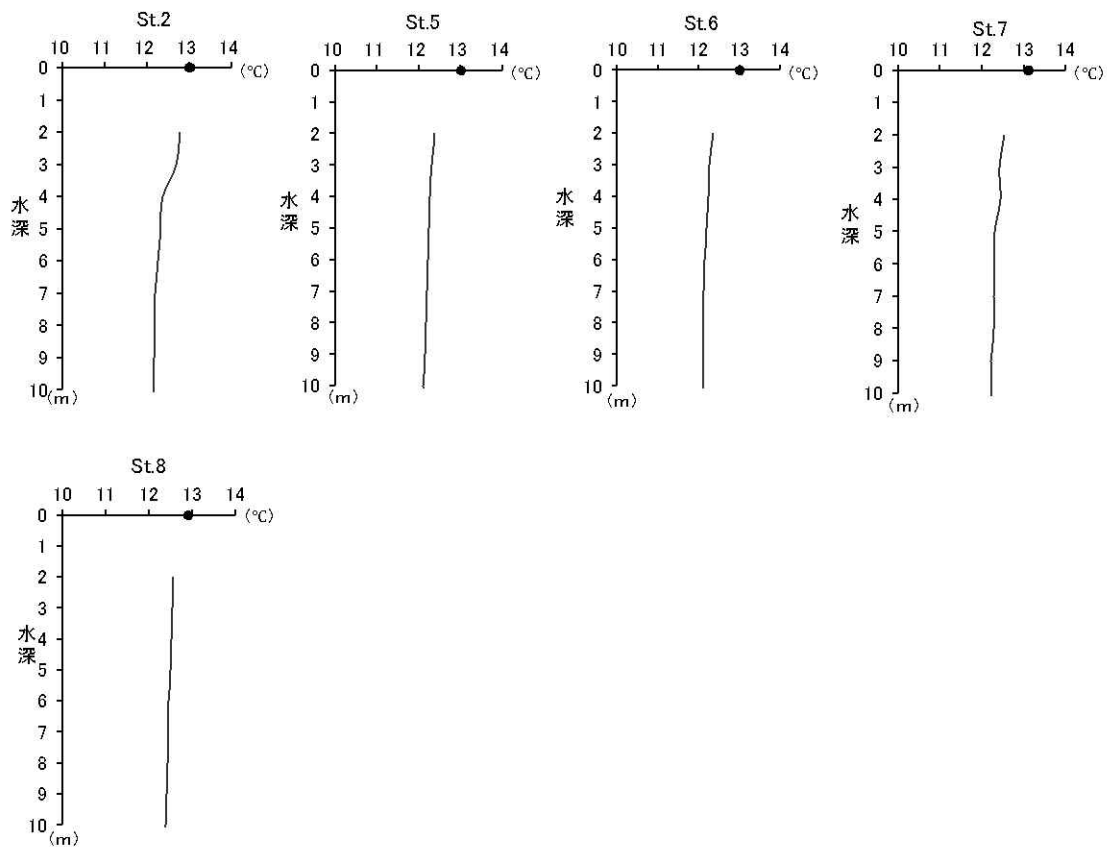


図-2.3 (1.1) 水温鉛直分布図 (水深10m以浅)

注1) 表層 (●で示したもの) は採水データ、それ以外はCTDデータ。

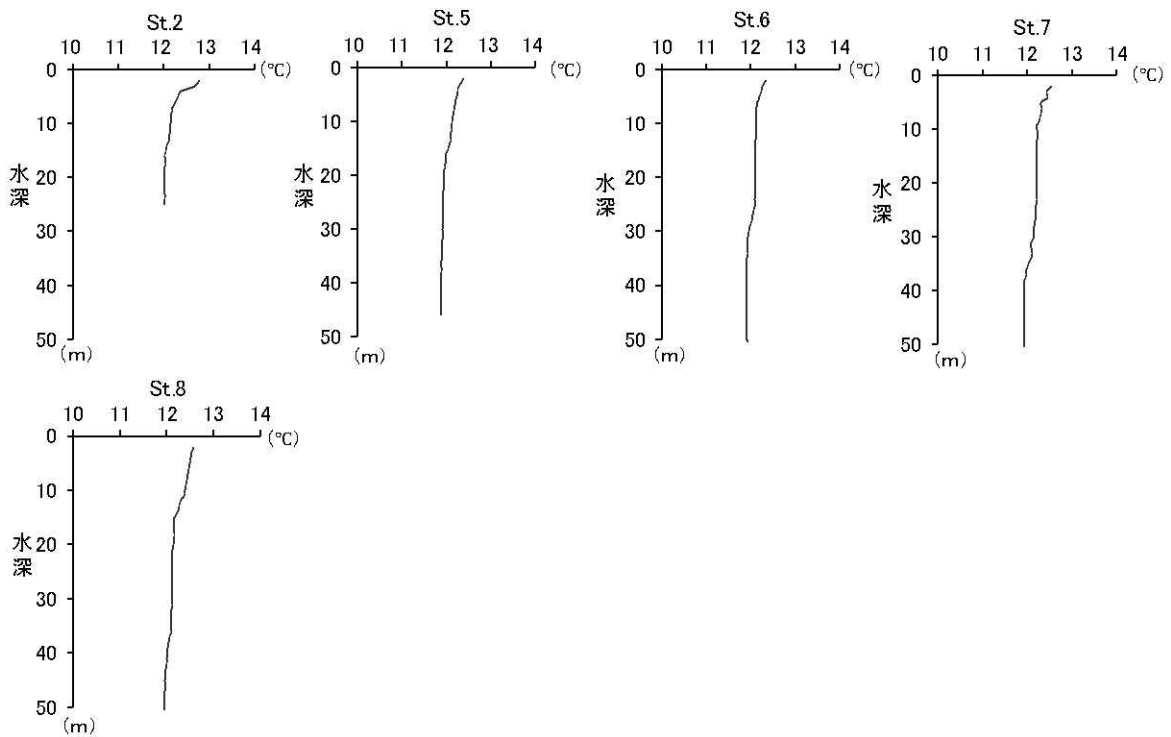


図-2.3 (1.2) 水温鉛直分布図 (全体)

(令和7年9月調査)

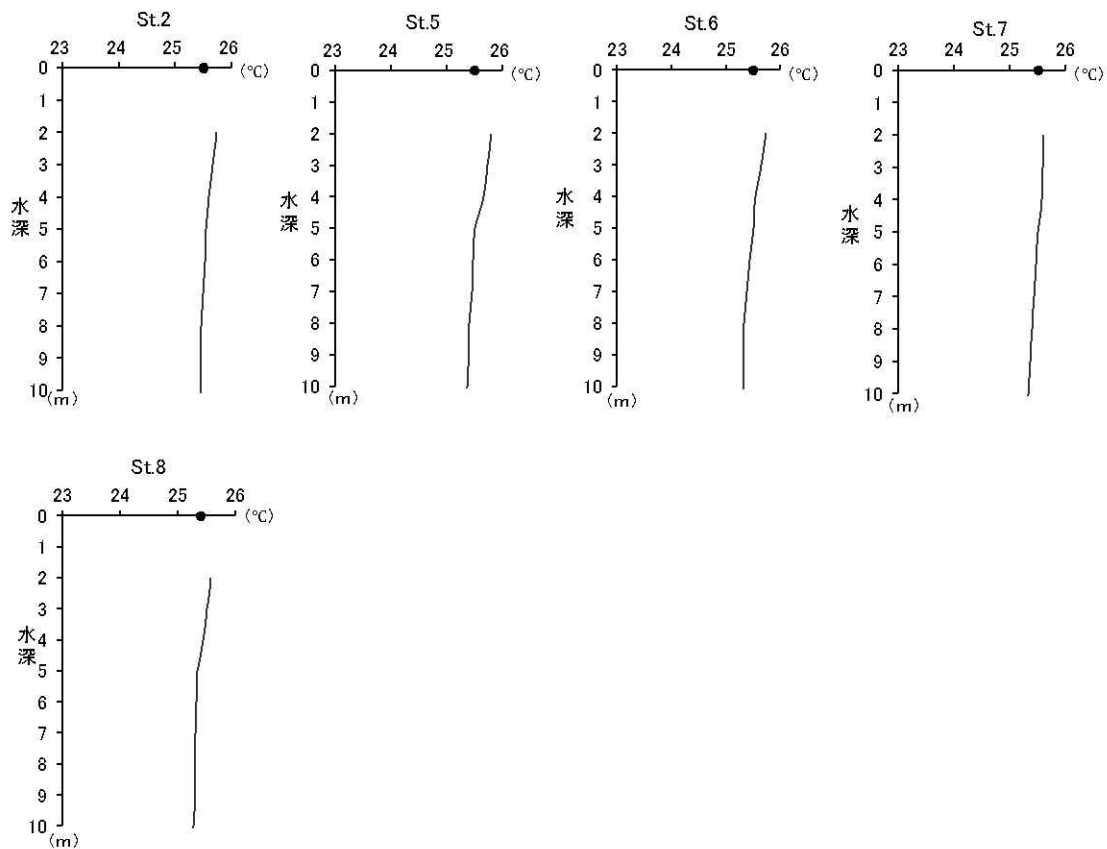


図-2.3 (2.1) 水温鉛直分布図 (水深10m以浅)

注1) 表層 (●で示したもの) は採水データ、それ以外はCTDデータ。

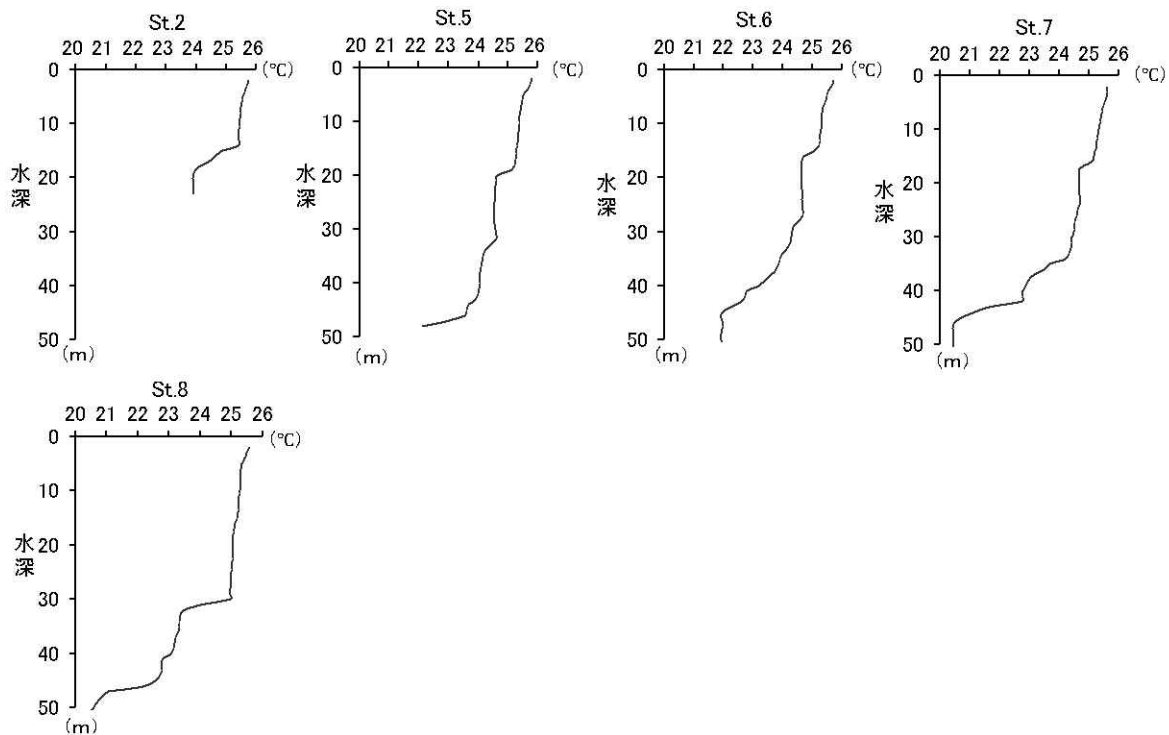


図-2.3 (2.2) 水温鉛直分布図 (全体)

(令和7年12月調査)

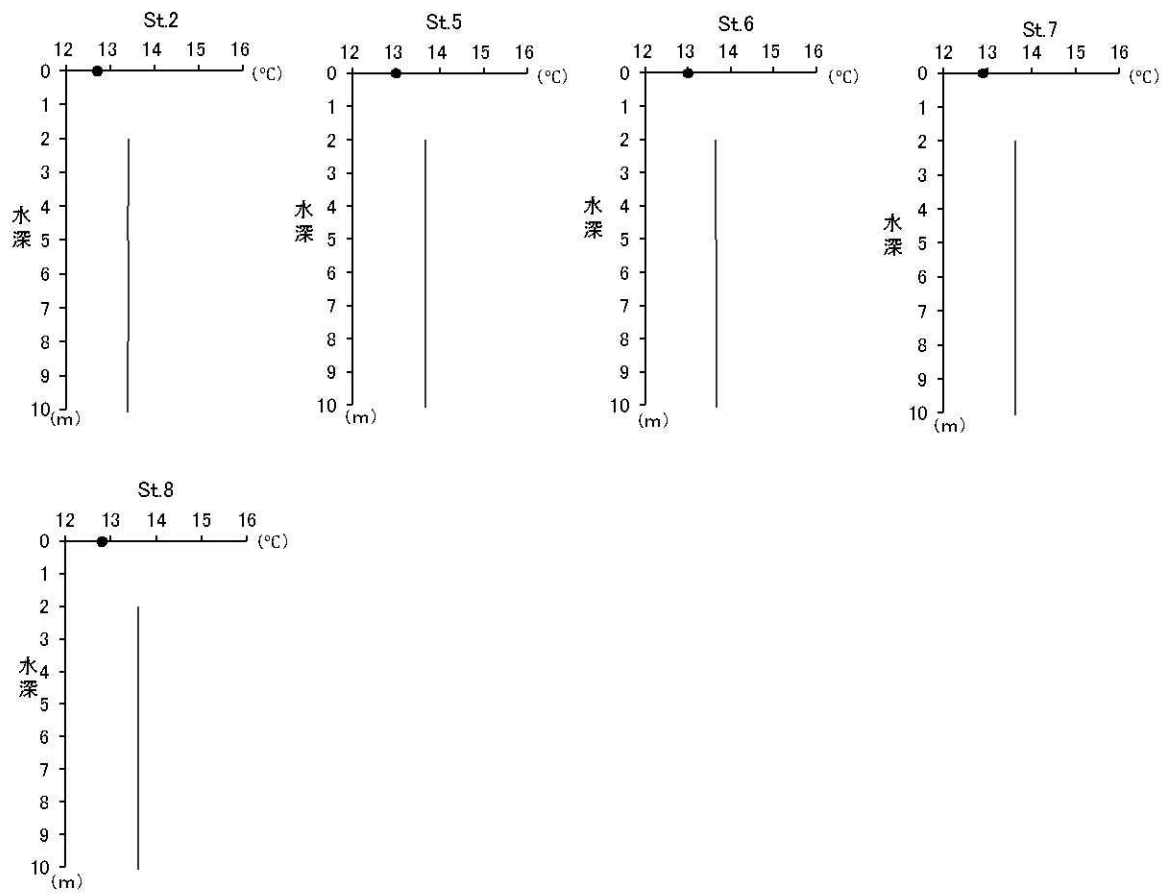


図-2.3 (3.1) 水温鉛直分布図 (水深10m以浅)

注1) 表層 (●で示したもの) は採水データ、それ以外はCTDデータ。

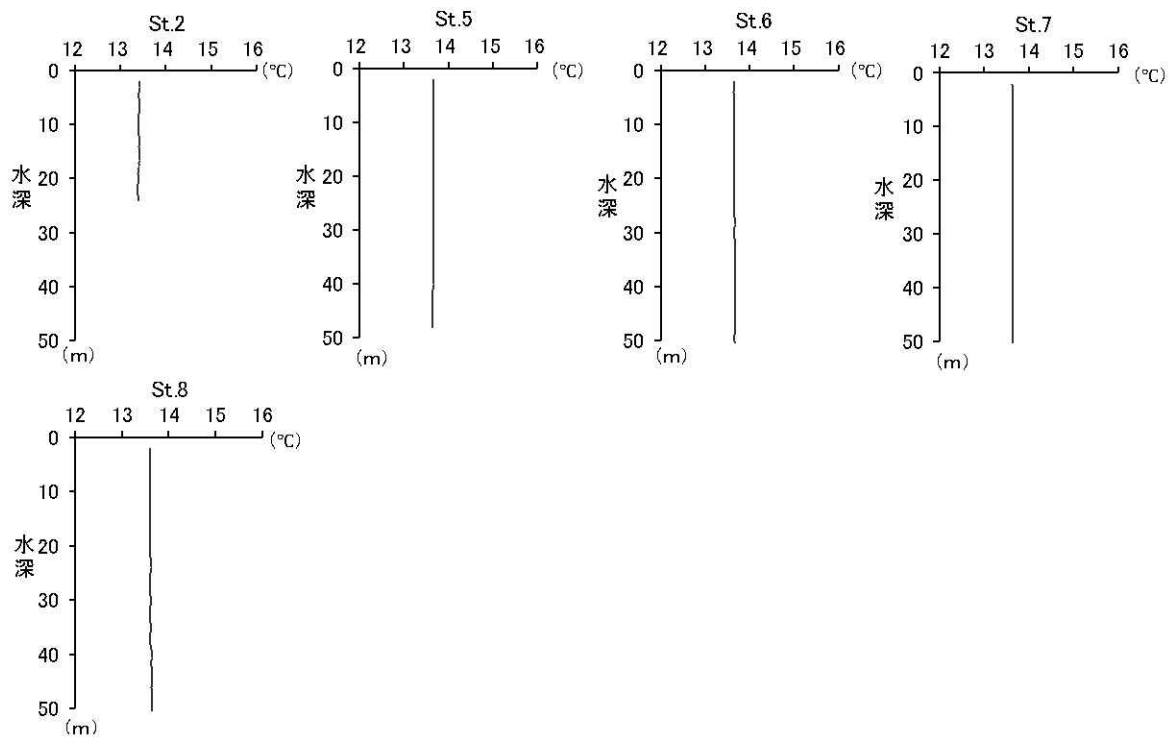


図-2.3 (3.2) 水温鉛直分布図 (全体)

(令和 8 年 3 月調査)

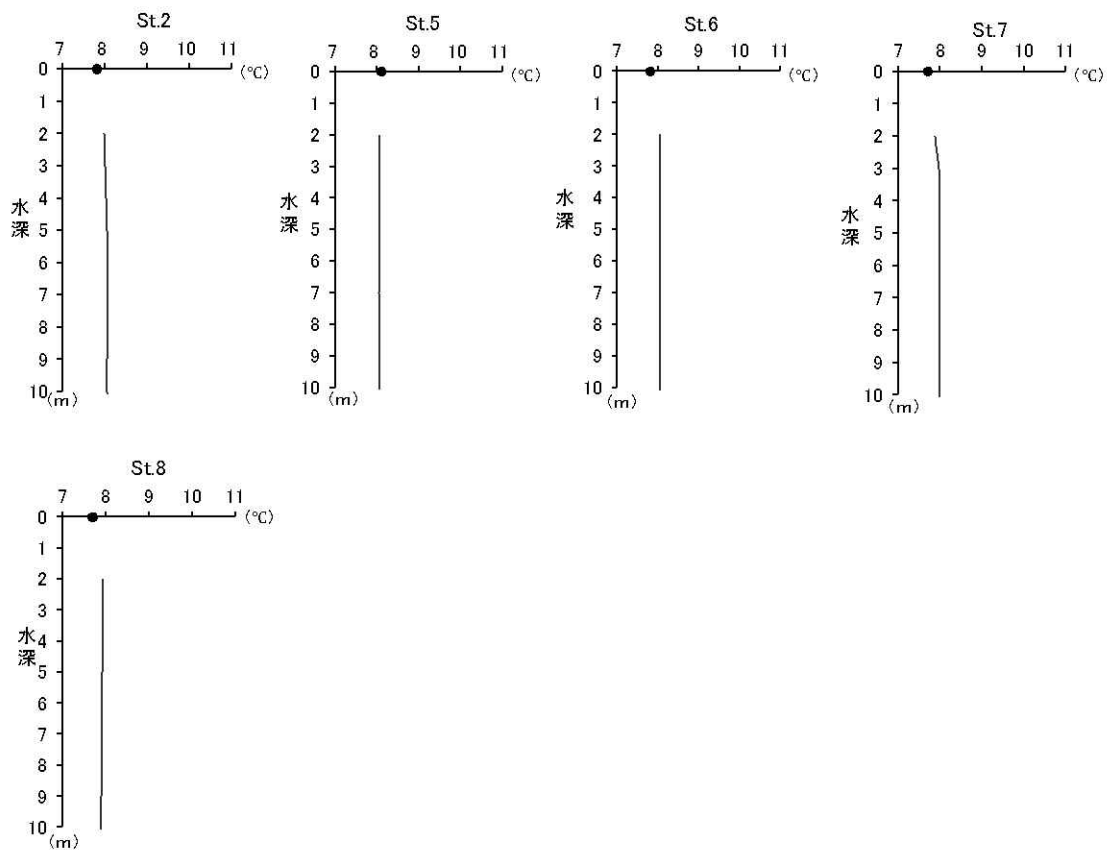


図-2.3 (4.1) 水温鉛直分布図 (水深 10m 以浅)

注 1) 表層 (●で示したもの) は採水データ、それ以外は CTD データ。

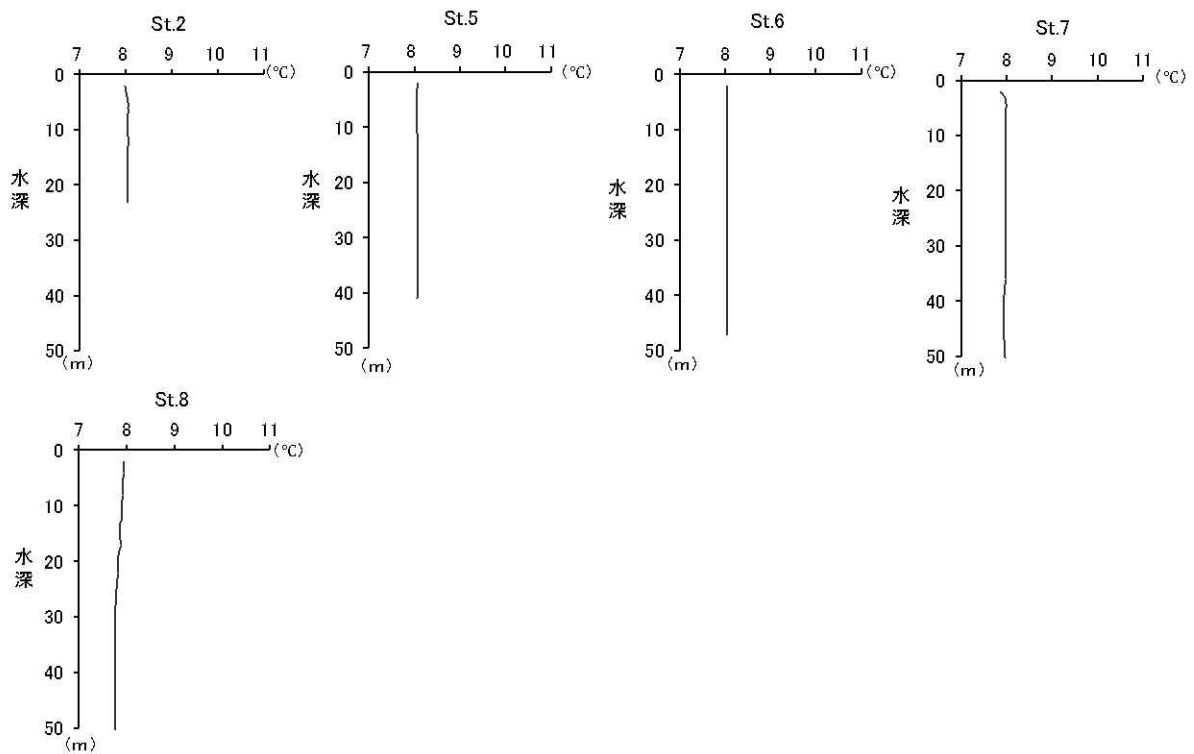


図-2.3 (4.2) 水温鉛直分布図 (全体)

b. 塩 分

調査結果を表－2.2 に、表層における塩分水平分布図を図－2.4 に、塩分鉛直分布図を図－2.5 に示す。

① 第1四半期

表層の塩分は全調査点で 33.8 であった。

全体の塩分は 33.8～33.9 の範囲にあった。

塩分は、海域全体で一様であった。

② 第2四半期

表層の塩分は 33.2～33.3 の範囲にあった。

全体の塩分は 33.2～34.0 の範囲にあった。

塩分は、海域全体で一様であった。

③ 第3四半期

表層の塩分は全調査点で 33.8 であった。

全体の塩分は 33.8～33.9 の範囲にあった。

塩分は、海域全体で一様であった。

④ 第4四半期

表層の塩分は 33.8～33.9 の範囲にあった。

全体の塩分は 33.8～33.9 の範囲にあった。

塩分は、海域全体で一様であった。

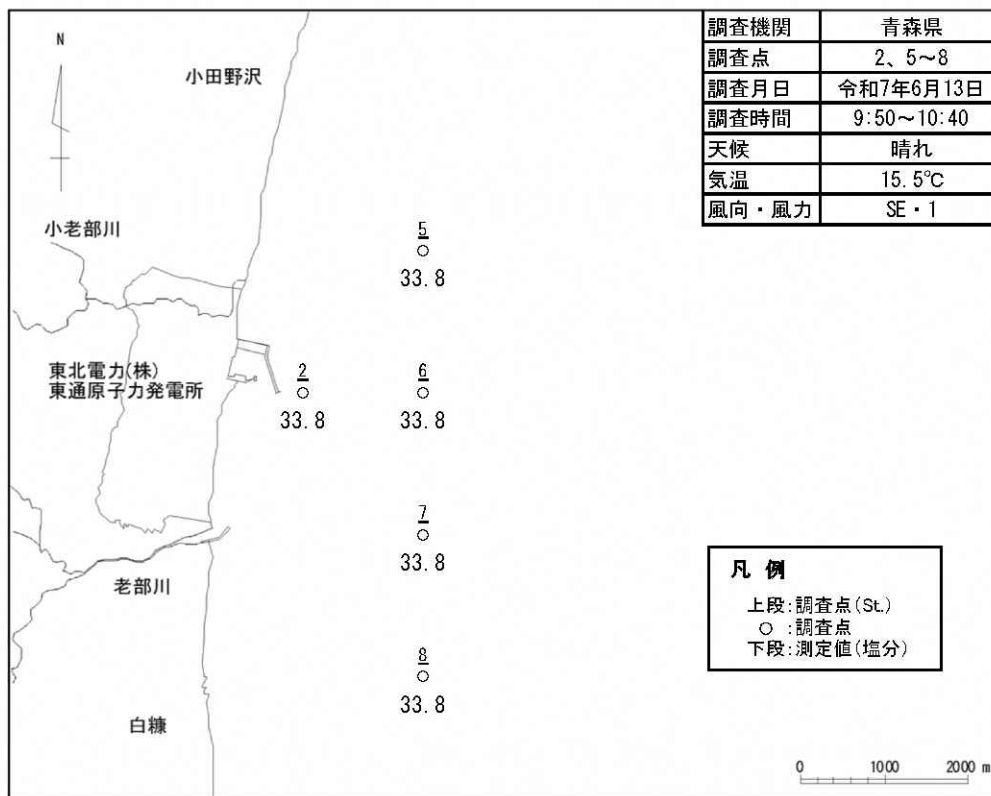
表－2.2 塩分調査結果

(単位：－)

調査者		青森県
項目		測定範囲
第1四半期	調査月日	令和7年6月13日
	表層	33.8
	全体	33.8～33.9
第2四半期	調査月日	令和7年9月3日
	表層	33.2～33.3
	全体	33.2～34.0
第3四半期	調査月日	令和7年12月8日
	表層	33.8
	全体	33.8～33.9
第4四半期	調査月日	令和8年3月10日
	表層	33.8～33.9
	全体	33.8～33.9

(令和7年6月調査)

(単位：—)



(令和7年9月調査)

(単位：—)

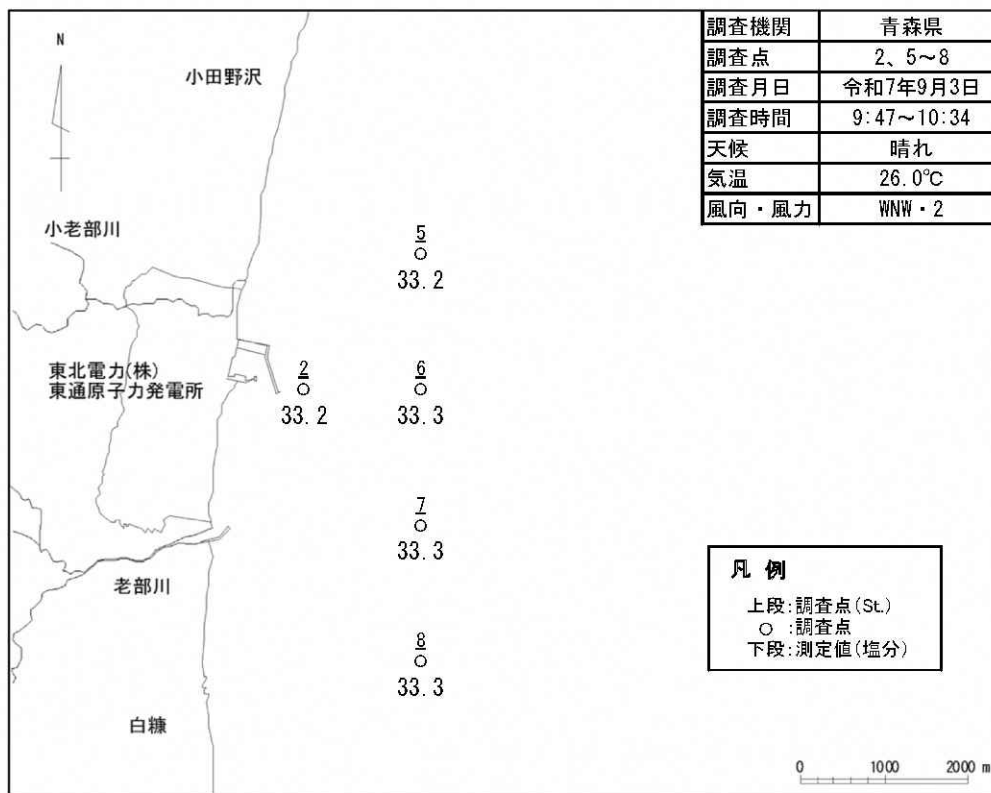
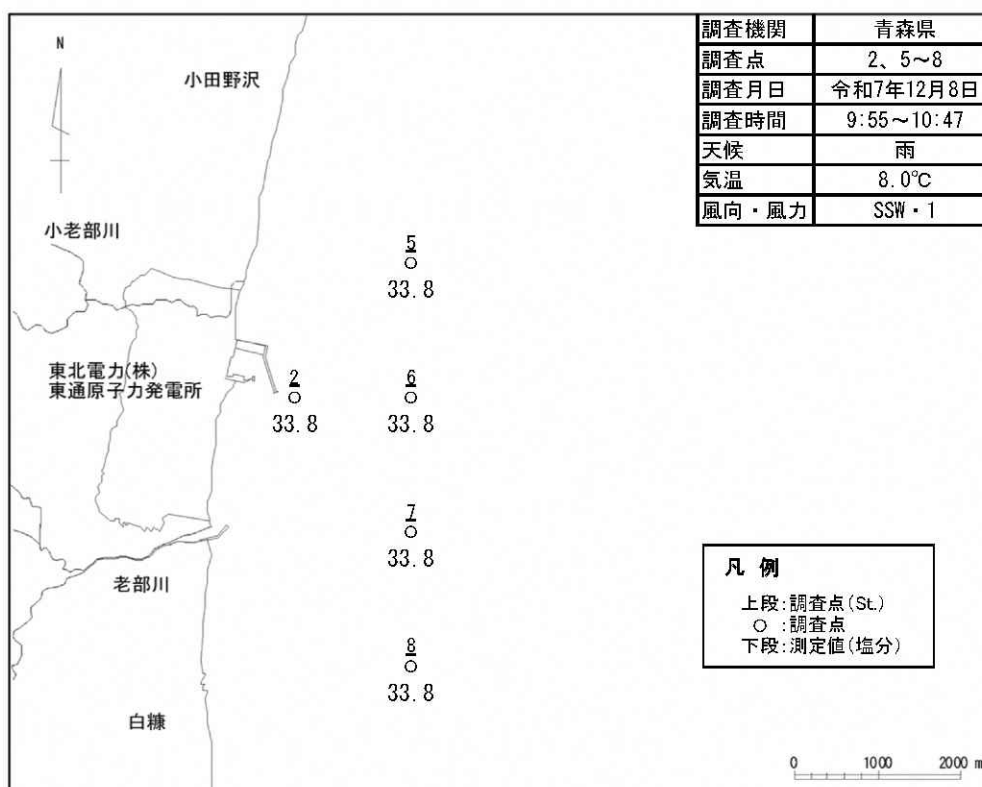


図-2.4 (1) 塩分水平分布図 (表層)

(令和7年12月調査)

(単位：－)



(令和8年3月調査)

(単位：－)

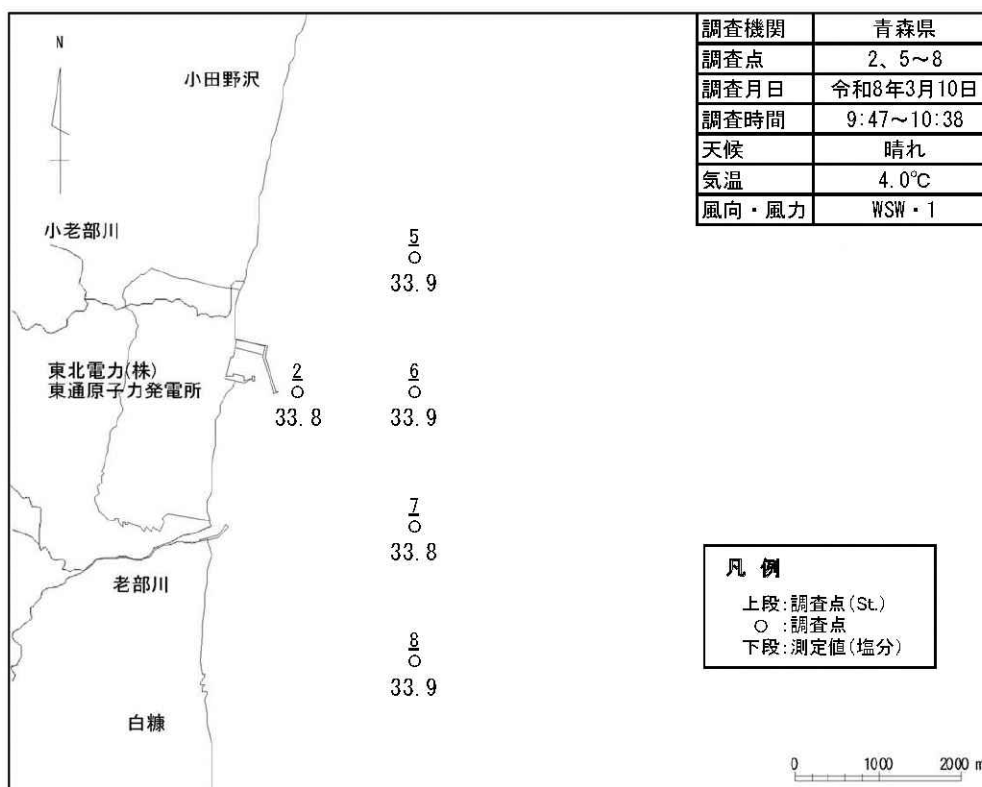


図-2.4 (2) 塩分水平分布図 (表層)

(令和7年6月調査)

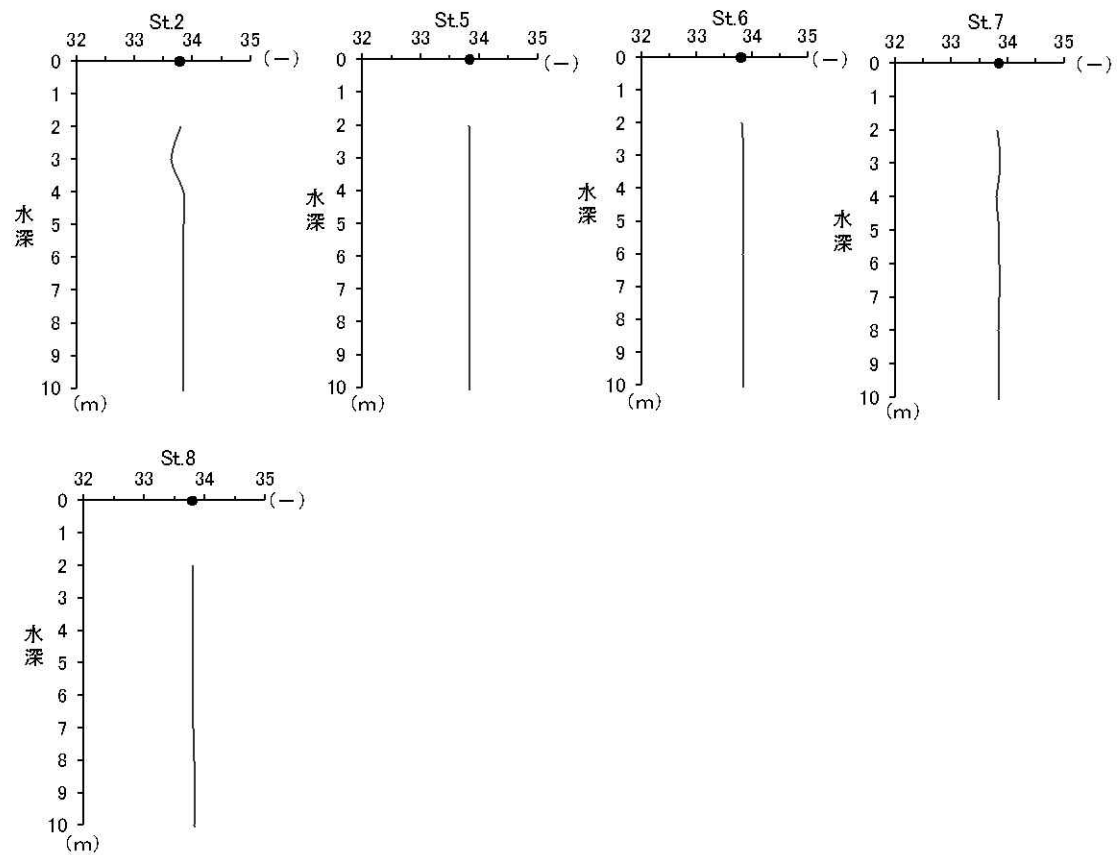


図-2.5 (1.1) 塩分鉛直分布図 (水深10m以浅)

注1) 表層 (●で示したもの) は採水データ、それ以外はCTDデータ。

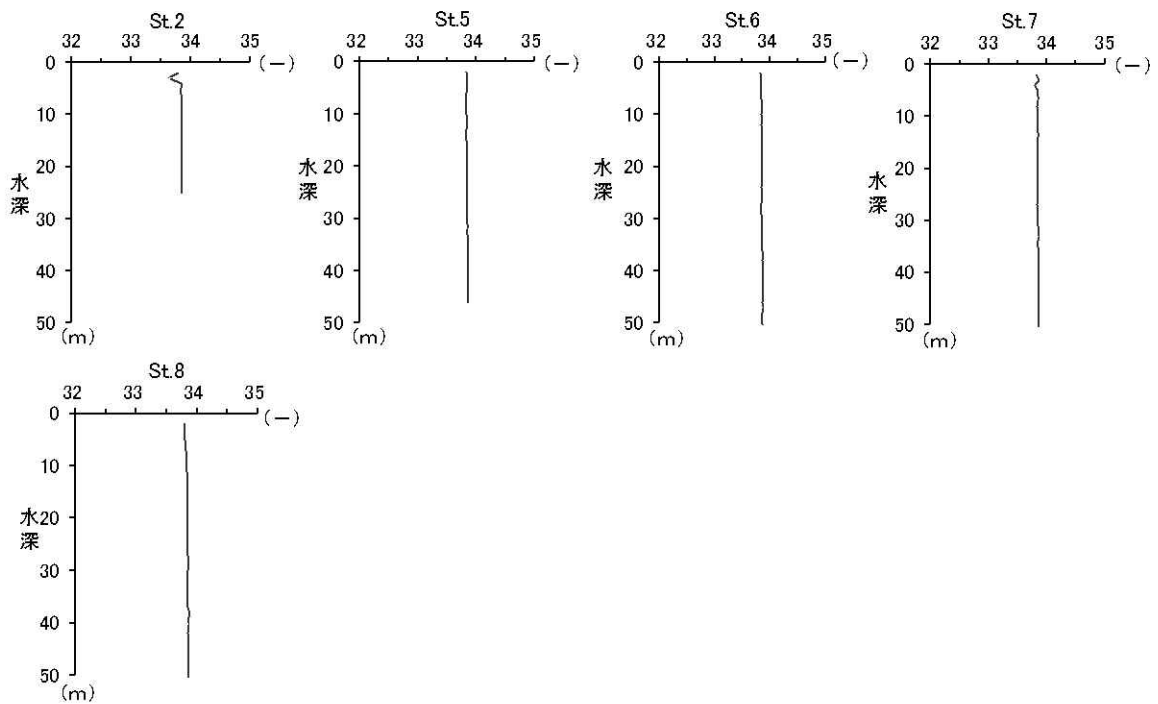


図-2.5 (1.2) 塩分鉛直分布図 (全体)

(令和7年9月調査)

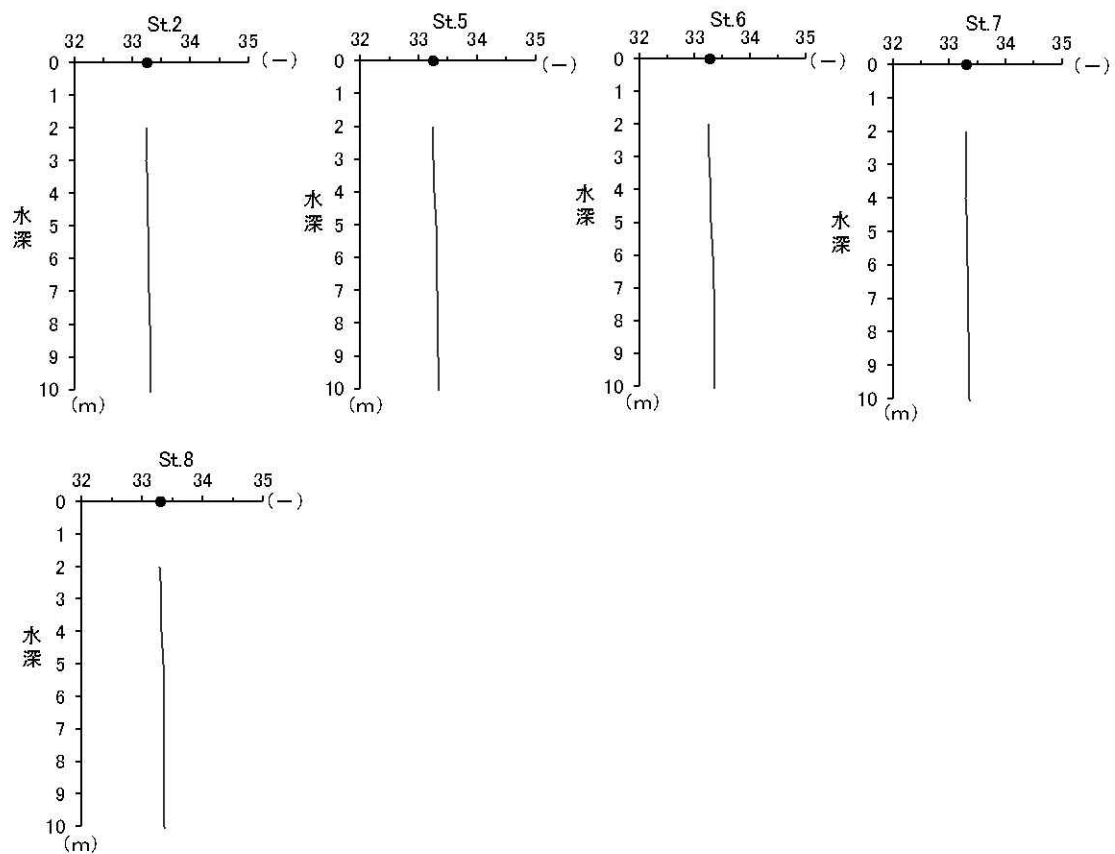


図-2.5 (2.1) 塩分鉛直分布図 (水深10m以浅)

注1) 表層 (●で示したもの) は採水データ、それ以外はCTDデータ。

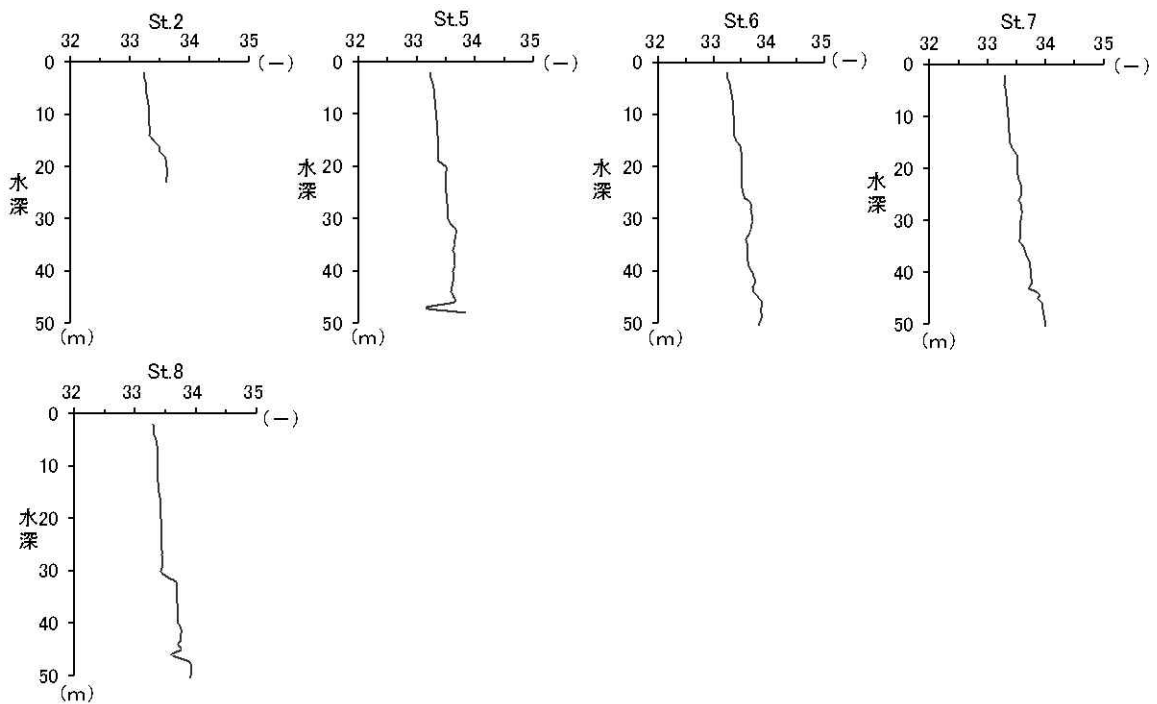


図-2.5 (2.2) 塩分鉛直分布図 (全体)

(令和7年12月調査)

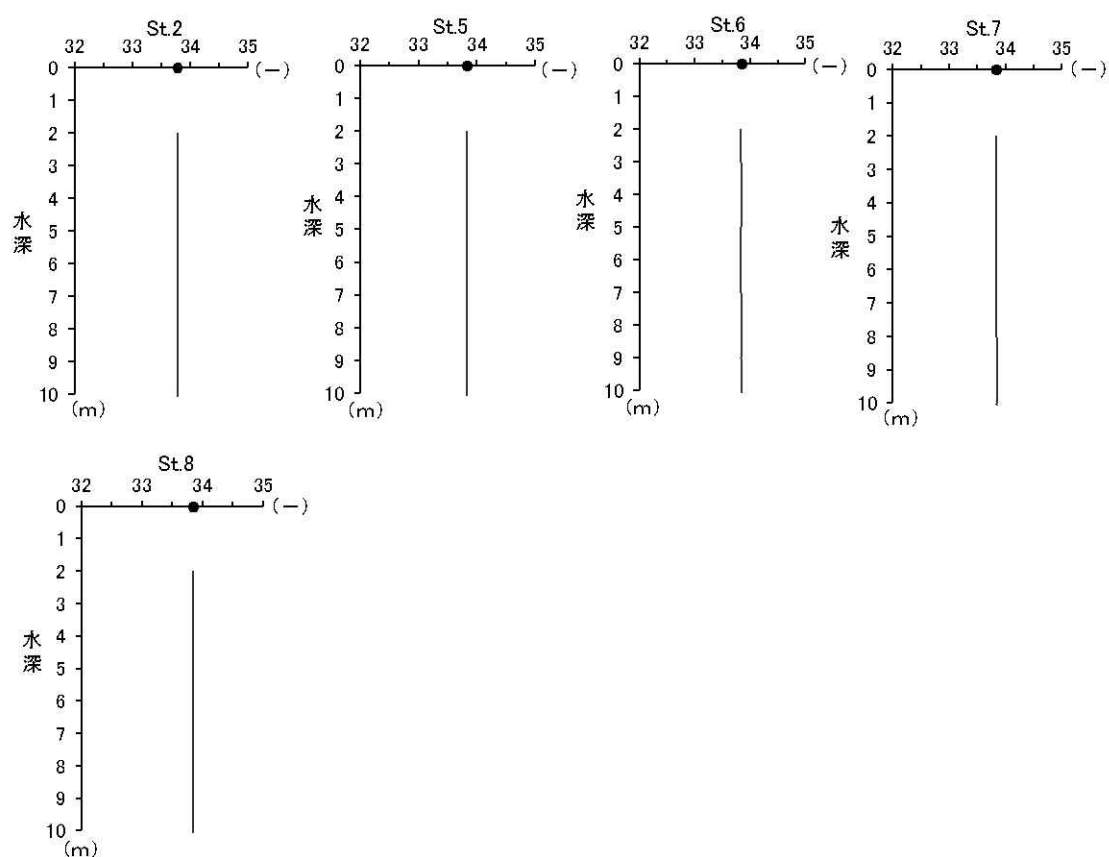


図-2.5 (3.1) 塩分鉛直分布図 (水深10m以浅)

注1) 表層 (●で示したもの) は採水データ、それ以外はCTDデータ。

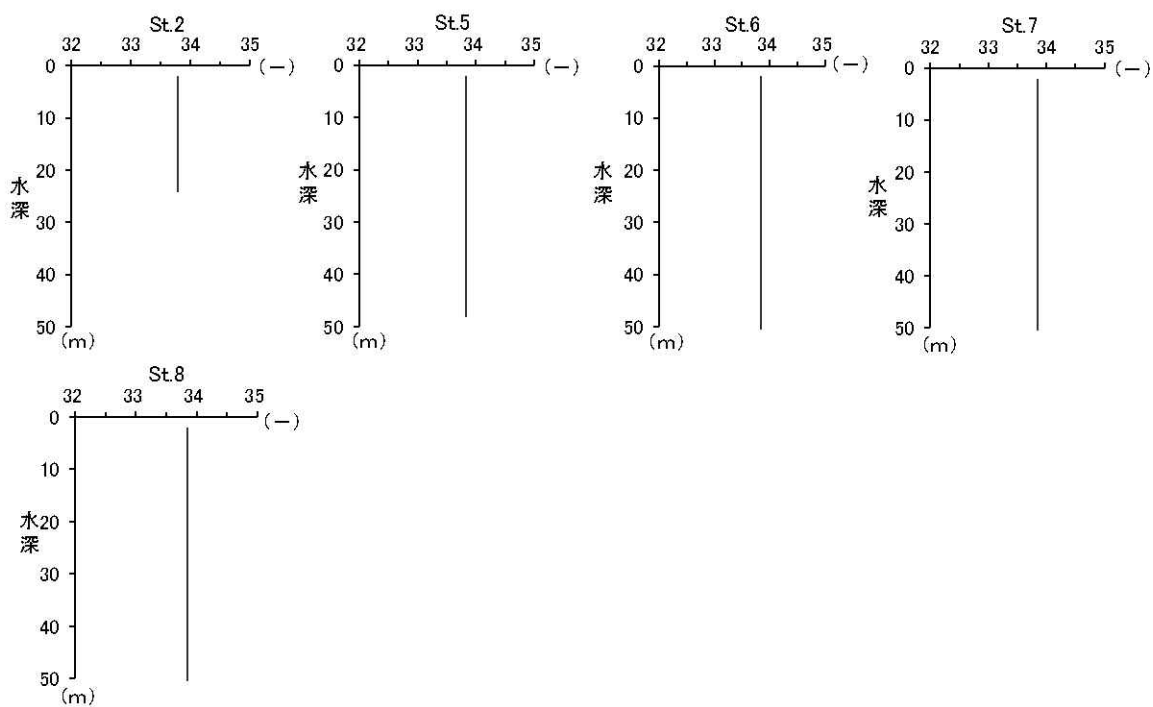


図-2.5 (3.2) 塩分鉛直分布図 (全体)

(令和 8 年 3 月調査)

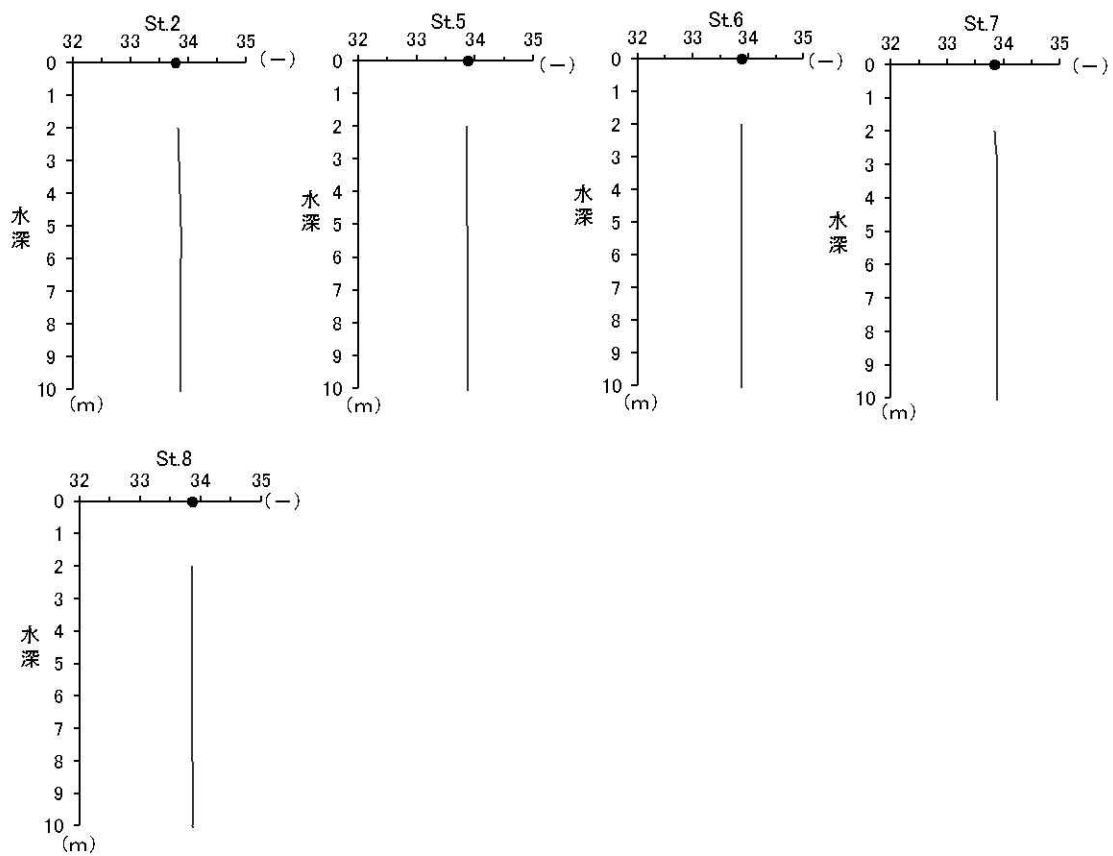


図-2.5 (4.1) 塩分鉛直分布図 (水深 10m 以浅)

注 1) 表層 (●で示したもの) は採水データ、それ以外は C T D データ。

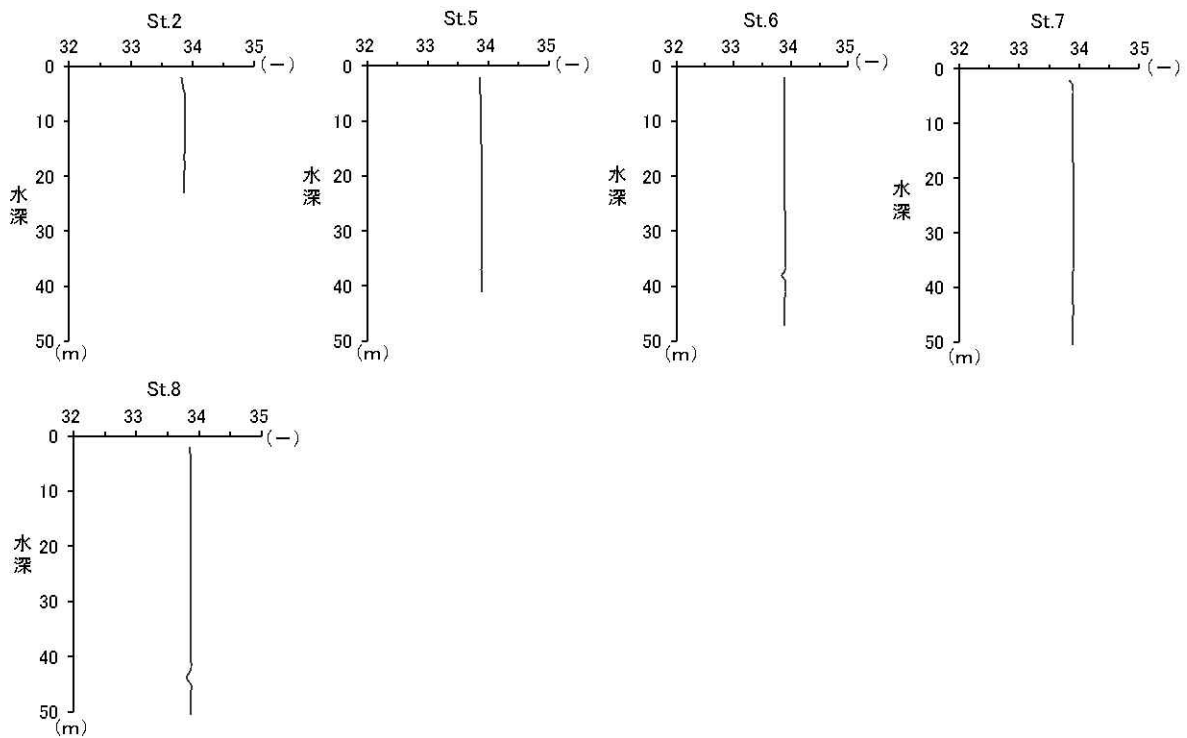


図-2.5 (4.2) 塩分鉛直分布図 (全体)

3. 東通原子力発電所前面海域における海域環境調査結果

[東北電力(株)実施分]

(1) 取放水温度

調査位置：取水口、放水口（2 調査点、図－1.1 参照）

発電所稼働状況：停止中

調査結果を表－3.1 に、取放水温度における経年変化は図－3.1 に示す。

a. 第 1 四半期

取水口の水温は、 8.2°C ～ 16.5°C の範囲にあり、月毎の平均値は 9.6°C ～ 14.5°C の範囲であった。

放水口の水温は、 8.6°C ～ 18.1°C の範囲にあり、月毎の平均値は 10.0°C ～ 15.6°C の範囲であった。

b. 第 2 四半期

取水口の水温は、 16.0°C ～ 25.5°C の範囲であり、月毎の平均値は 19.7°C ～ 24.6°C の範囲であった。

放水口の水温は、 17.5°C ～ 26.4°C の範囲であり、月毎の平均値は 21.0°C ～ 25.5°C の範囲であった。

c. 第 3 四半期

取水口の水温は、 8.6°C ～ 22.5°C の範囲であり、月毎の平均値は 10.5°C ～ 19.1°C の範囲であった。

放水口の水温は、 8.9°C ～ 22.8°C の範囲であり、月毎の平均値は 10.8°C ～ 19.4°C の範囲であった。

d. 第 4 四半期

取水口の水温は、 5.7°C ～ 8.5°C の範囲であり、月毎の平均値は 7.1°C ～ 7.5°C の範囲であった。

放水口の水温は、 6.0°C ～ 8.8°C の範囲であり、月毎の平均値は 7.3°C ～ 7.9°C の範囲であった。

表－3.1 取放水温度調査結果

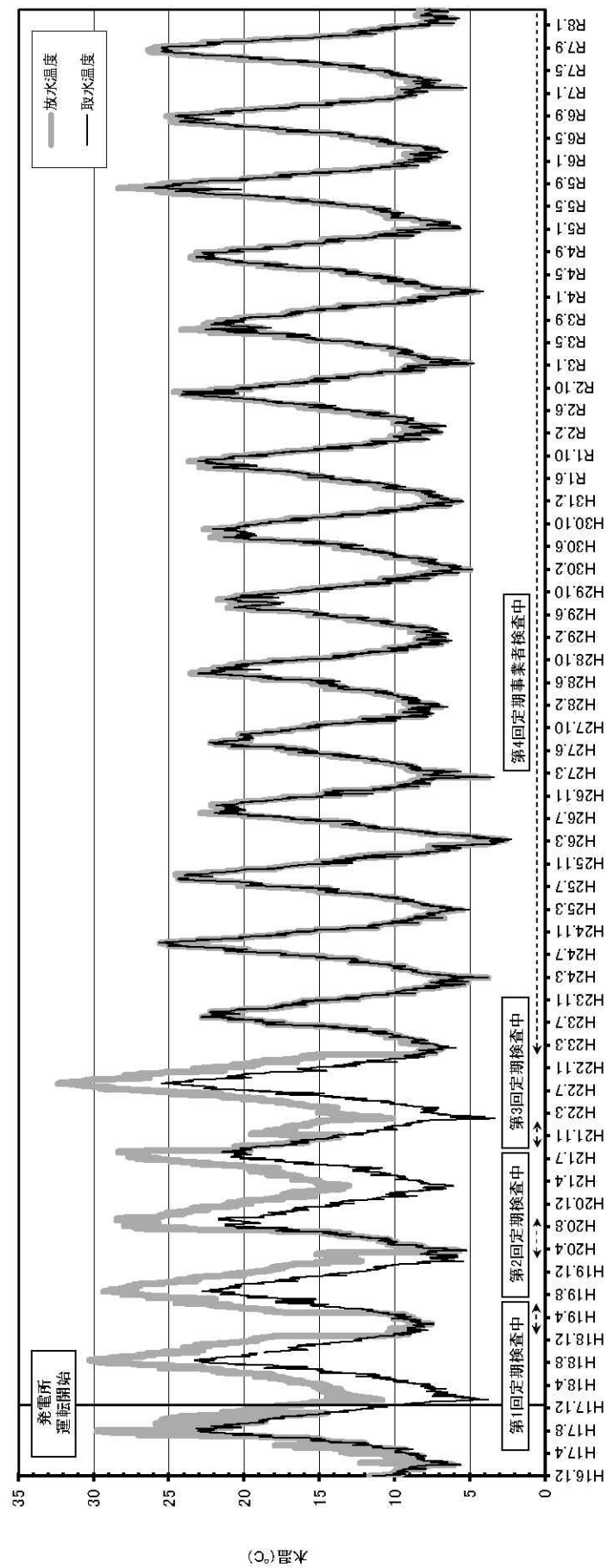
(単位:℃)

年月		第1四半期（令和7年4月～6月）			第2四半期（令和7年7月～9月）		
項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月
取水口	最大値	10.4	13.1	16.5	23.2	25.5	25.5
	最小値	8.2	10.1	12.0	16.0	23.1	21.6
	月毎の平均値	9.6	11.7	14.5	19.7	24.6	23.7
放水口	最大値	10.9	13.6	18.1	23.8	26.4	26.1
	最小値	8.6	10.6	12.6	17.5	24.2	22.1
	月毎の平均値	10.0	12.2	15.6	21.0	25.5	24.3

年月		第3四半期（令和7年10月～12月）			第4四半期（令和8年1月～3月）		
項目		10月	11月	12月	1月	2月	3月
取水口	最大値	22.5	15.3	12.6	8.5	8.3	8.0
	最小値	15.3	11.2	8.6	6.0	5.7	6.4
	月毎の平均値	19.1	12.9	10.5	7.5	7.1	7.5
放水口	最大値	22.8	15.6	12.9	8.8	8.6	8.4
	最小値	15.7	11.6	8.9	6.3	6.0	6.6
	月毎の平均値	19.4	13.2	10.8	7.8	7.3	7.9

注1) 水温は、日平均値である。

注2) 放水口の温度上昇は、発電所安全維持に必要な機器の冷却のため、海水と熱交換していることによる。



図一3.1 取放水温度における経年変化（日平均）

(2) 水温・塩分

調査位置：St. 17～35（19 調査点、図－1.2 参照）

発電所稼働状況：停止中

a. 水温

調査結果及び過去の調査結果範囲を表－3.2に、0.5m層、5m層、10m層における水温の経年変化を図－3.2 に、0.5m層における水温水平分布図を図－3.3 に、水温鉛直分布図を図－3.4 に示す。

① 第1四半期

0.5m層は $11.6^{\circ}\text{C} \sim 12.3^{\circ}\text{C}$ の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

全体の水温は $11.3^{\circ}\text{C} \sim 12.3^{\circ}\text{C}$ の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

0.5m層における水温較差は $-0.7^{\circ}\text{C} \sim 0.1^{\circ}\text{C}$ の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

② 第2四半期

0.5m層は $24.4^{\circ}\text{C} \sim 24.8^{\circ}\text{C}$ の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

全体の水温は $23.8^{\circ}\text{C} \sim 25.0^{\circ}\text{C}$ の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

0.5m層における水温較差は $-0.3^{\circ}\text{C} \sim 0.2^{\circ}\text{C}$ の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

③ 第3四半期

0.5m層は $13.5^{\circ}\text{C} \sim 14.1^{\circ}\text{C}$ の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

全体の水温は $13.2^{\circ}\text{C} \sim 14.1^{\circ}\text{C}$ の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

0.5m層における水温較差は $-0.1^{\circ}\text{C} \sim 0.0^{\circ}\text{C}$ の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

④ 第4四半期

0.5m層は $7.5^{\circ}\text{C} \sim 8.5^{\circ}\text{C}$ の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

全体の水温は $7.5^{\circ}\text{C} \sim 8.5^{\circ}\text{C}$ の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

0.5m層における水温較差は $-0.3^{\circ}\text{C} \sim -0.1^{\circ}\text{C}$ の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

表－3.2 水温調査結果及び過去の調査結果範囲

(単位：℃)

調 査 者		東北電力（株）		
項 目		測定範囲	過去の水温範囲 (停止中)	過去の水温範囲 (稼働中)
第1 四半期	調査年月日	令和7年5月27日		
	0.5m層	11.6～12.3	9.7～14.3	9.1～12.2
	全体	11.3～12.3	9.3～14.3	8.7～12.2
	水温較差 (0.5m層)	-0.7～0.1	-1.0～0.7	-0.3～1.0
第2 四半期	調査年月日	令和7年8月21日		
	0.5m層	24.4～24.8	16.8～26.6	19.3～24.6
	全体	23.8～25.0	16.7～26.6	17.6～24.6
	水温較差 (0.5m層)	-0.3～0.2	-4.1～1.4	-1.2～1.2
第3 四半期	調査年月日	令和7年11月20日		
	0.5m層	13.5～14.1	11.4～17.0	13.6～17.4
	全体	13.2～14.1	11.4～17.1	13.5～17.5
	水温較差 (0.5m層)	-0.1～0.0	-1.5～0.2	-0.2～0.9
第4 四半期	調査年月日	令和8年2月20日		
	0.5m層	7.5～8.5	2.8～10.0	4.8～9.7
	全体	7.5～8.5	2.8～10.0	4.8～9.7
	水温較差 (0.5m層)	-0.3～-0.1	-1.0～1.8	-0.6～2.3

注 1) 東北電力（株）実施分における全体の水温は、水深 20m 層までを集計している。

注 2) 下線部は、過去同期の範囲外の値であることを示す。

注 3) 発電所停止中の水温範囲は、四半期ごとに下記のとおりである。

第 1 四半期：平成 16 年度、平成 20 年度、平成 23 年度～令和 6 年度

第 2 四半期：平成 16 年度、平成 23 年度～令和 6 年度

第 3 四半期：平成 15 年度～平成 16 年度、平成 21 年度、平成 23 年度～令和 6 年度

第 4 四半期：平成 15 年度～平成 16 年度、平成 18 年度、平成 22 年度～令和 6 年度

注 4) 発電所稼働中の水温範囲は、四半期ごとに下記のとおりである。

第 1 四半期：平成 17 年度～平成 19 年度、平成 21 年度～平成 22 年度

第 2 四半期：平成 17 年度～平成 22 年度

第 3 四半期：平成 17 年度～平成 20 年度、平成 22 年度

第 4 四半期：平成 17 年度、平成 19 年度～平成 21 年度

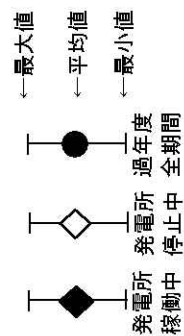
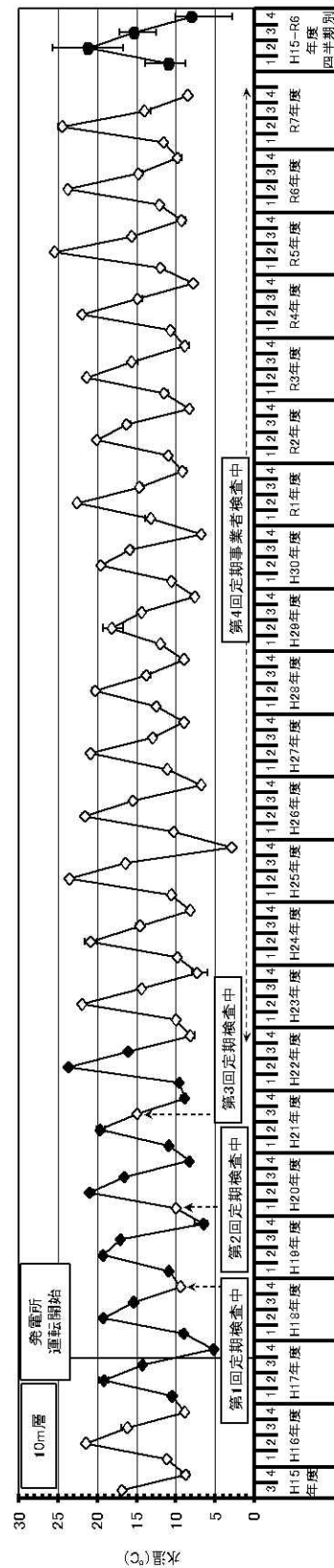
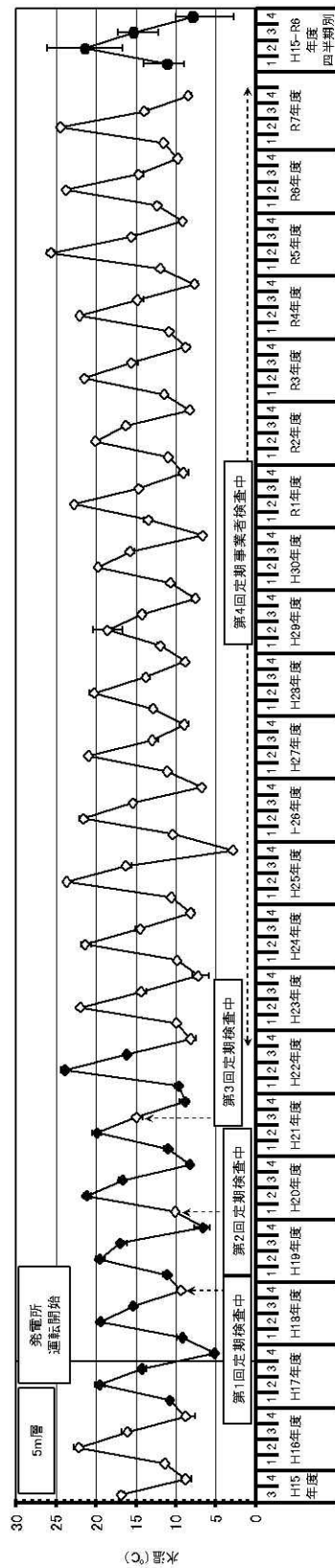
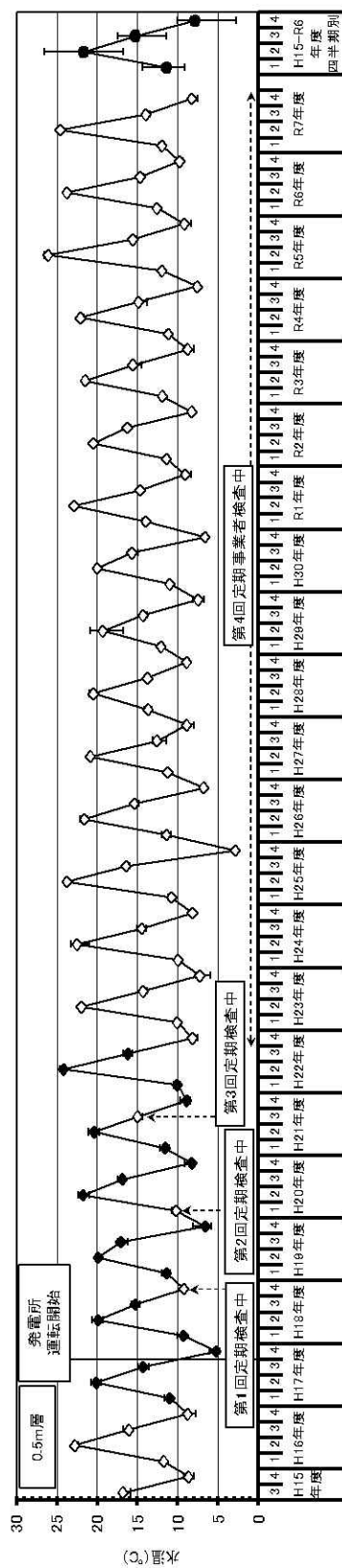
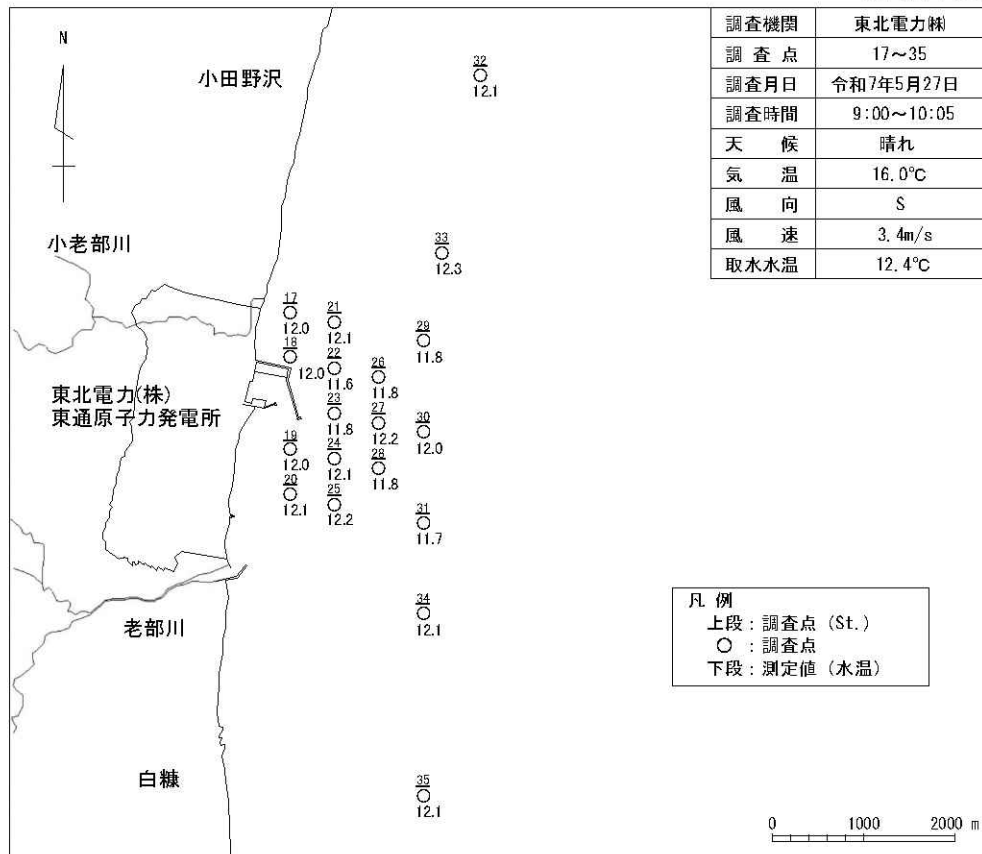


図-3.2 水温の経年変化 (0.5m層、5m層、10m層)

(令和7年5月調査)

(単位: °C)



(令和7年8月調査)

(単位: °C)

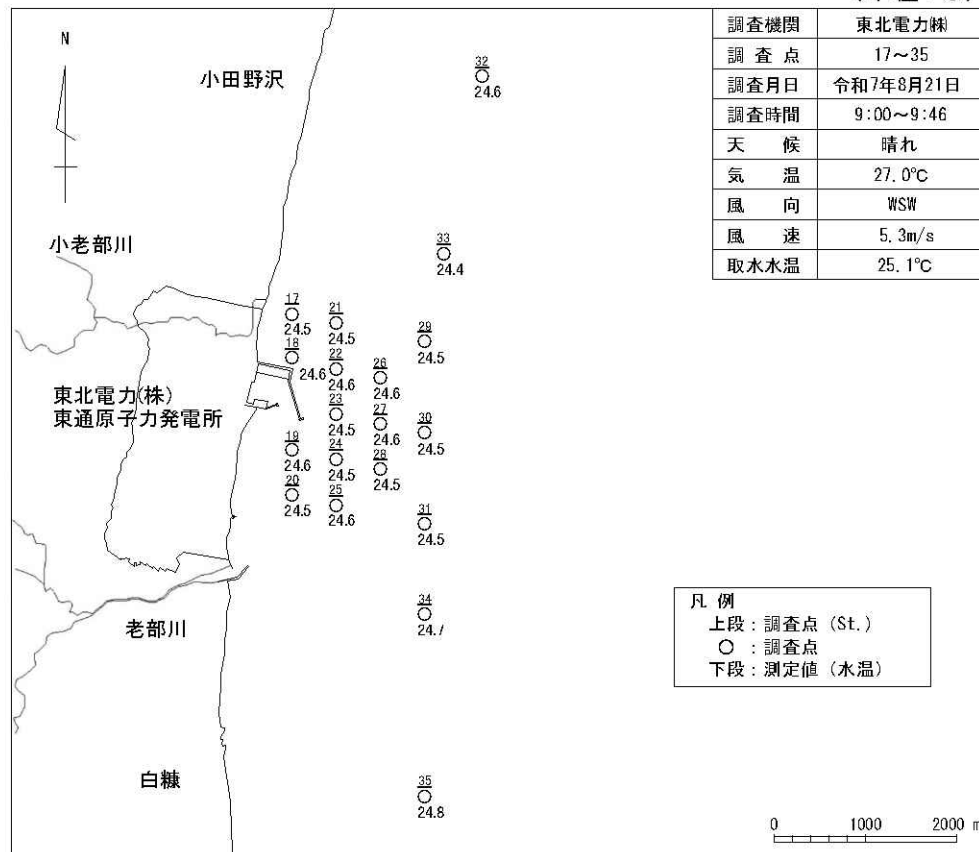
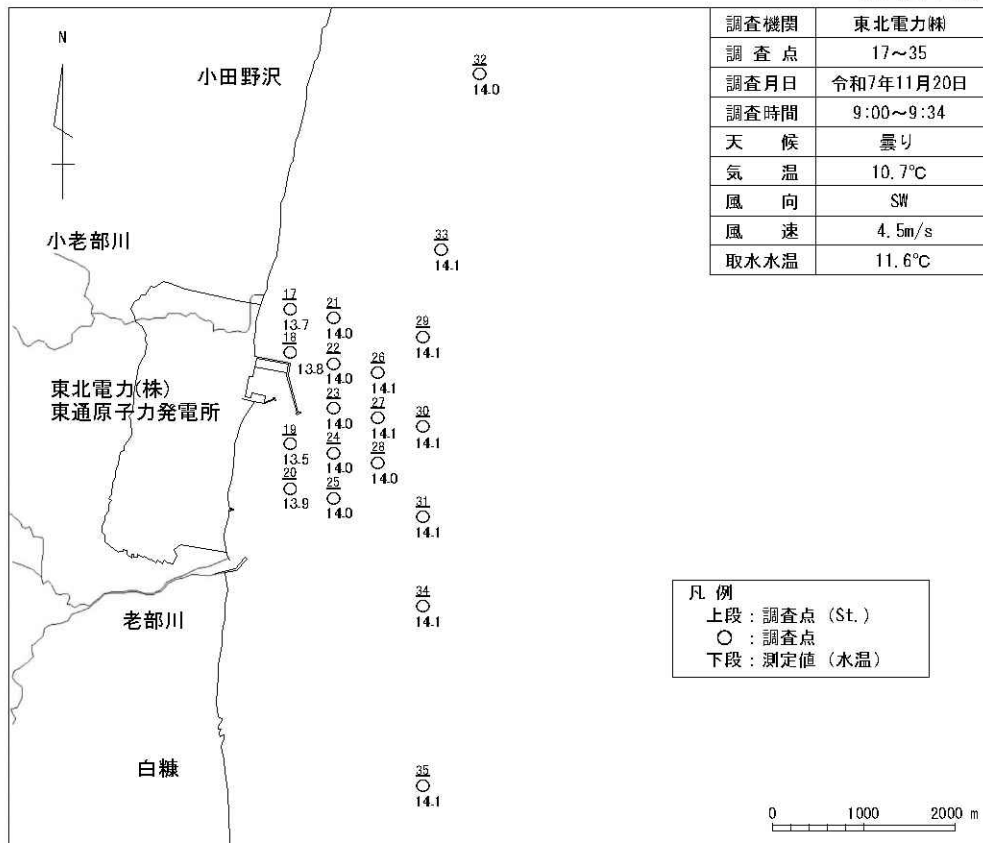


図-3.3 (1) 水温水平分布図 (0.5m層)

(令和7年11月調査)

(単位: °C)



(令和8年2月調査)

(単位: °C)

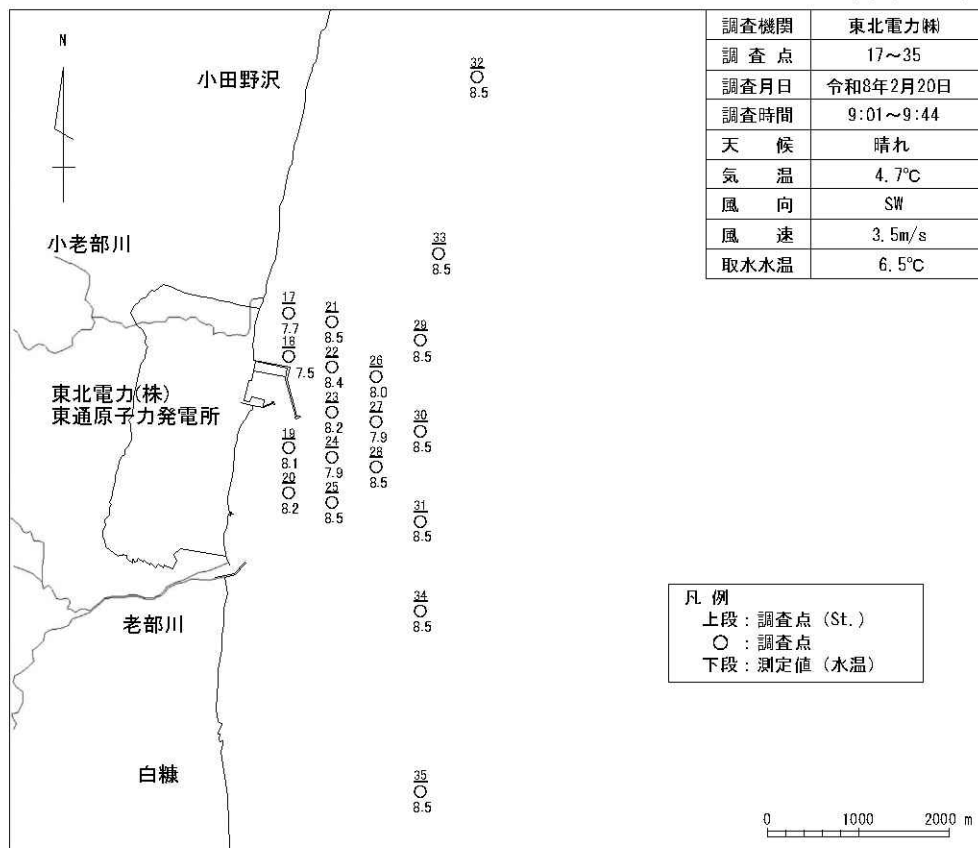


図-3.3 (2) 水温水平分布図 (0.5m層)

(令和7年5月調査)

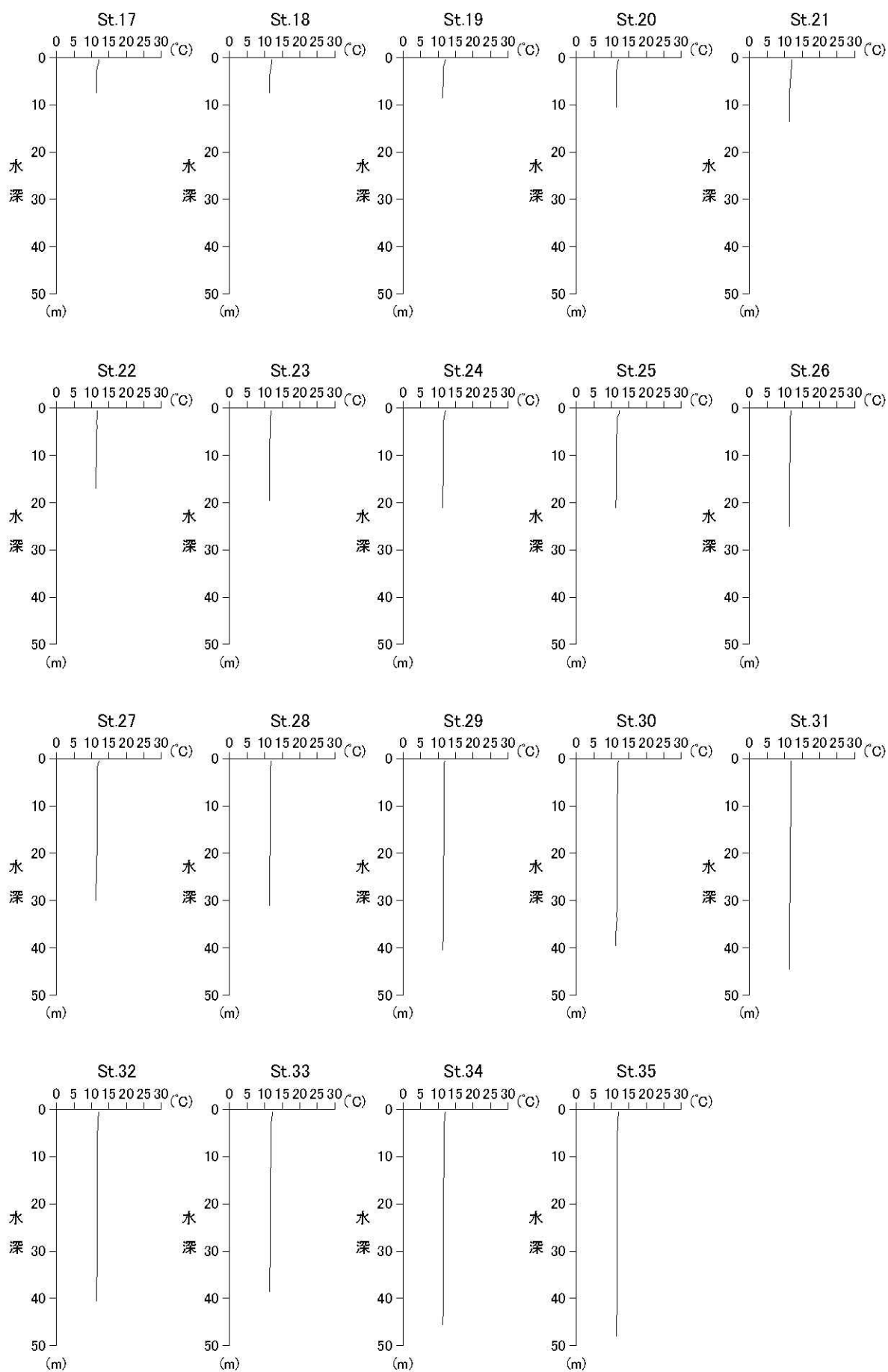


図-3.4 (1) 水温鉛直分布図

(令和7年8月調査)

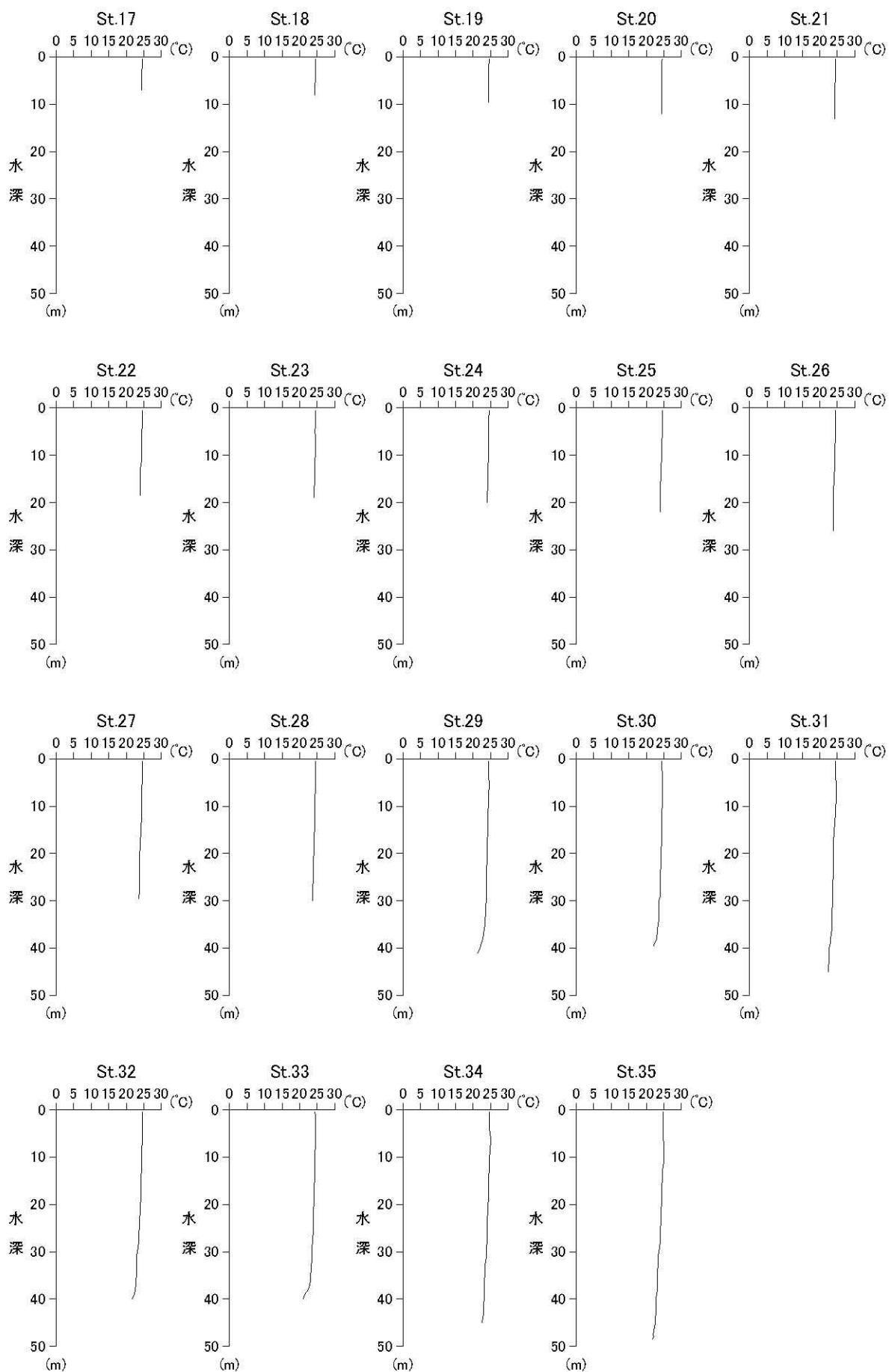


図-3.4 (2) 水温鉛直分布図

(令和7年11月調査)

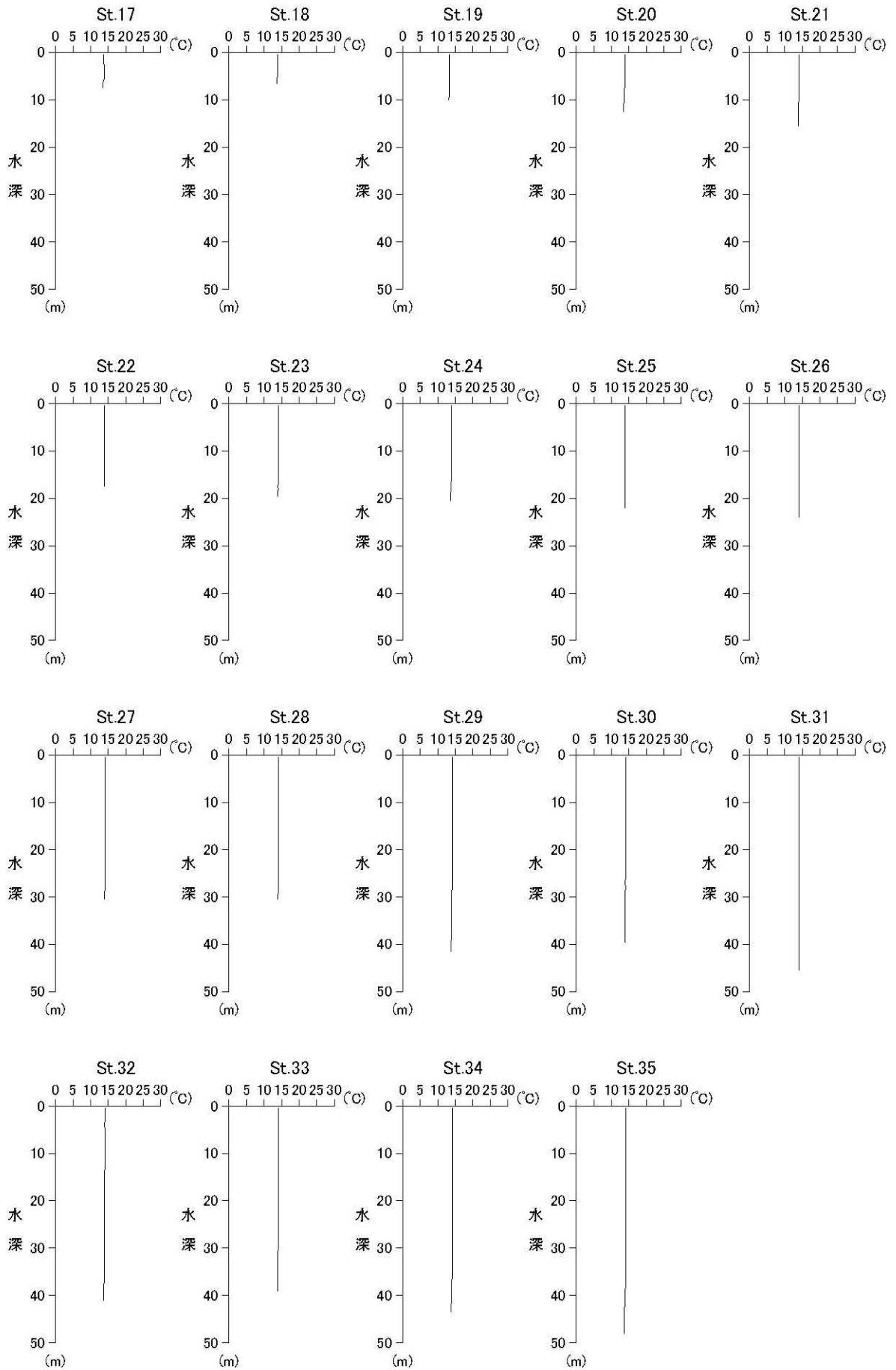
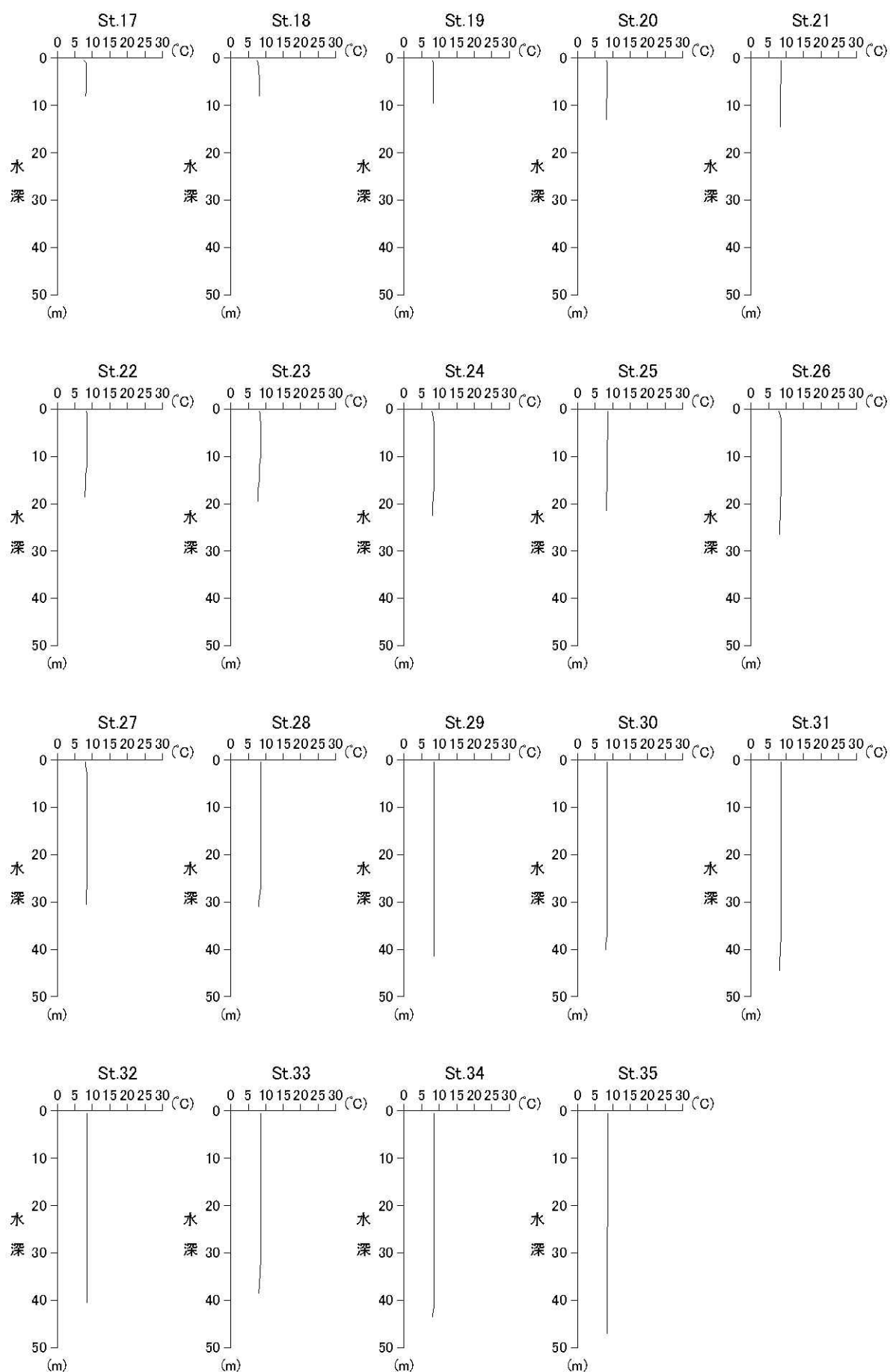


図-3.4 (3) 水温鉛直分布図

(令和 8 年 2 月調査)



図－3.4 (4) 水温鉛直分布図

b. 塩 分

調査結果を表－3.3 に、0.5m層における塩分水平分布図を図－3.5 に、塩分鉛直分布図を図－3.6 に示す。

① 第1四半期

0.5m層は 33.4～33.8 の範囲であった。

全体の塩分は 33.4～33.8 の範囲であった。

塩分は、海域全体で一様であった。

② 第2四半期

0.5m層は 32.9～33.7 の範囲であった。

全体の塩分は 32.9～33.8 の範囲であった。

塩分は、海域全体で一様であった。

③ 第3四半期

0.5m層は 33.7～33.8 の範囲であった。

全体の塩分は 33.7～33.8 の範囲であった。

塩分は、海域全体で一様であった。

④ 第4四半期

0.5m層は 33.5～33.9 の範囲であった。

全体の塩分は 33.5～33.9 の範囲であった。

塩分は、海域全体で一様であった。

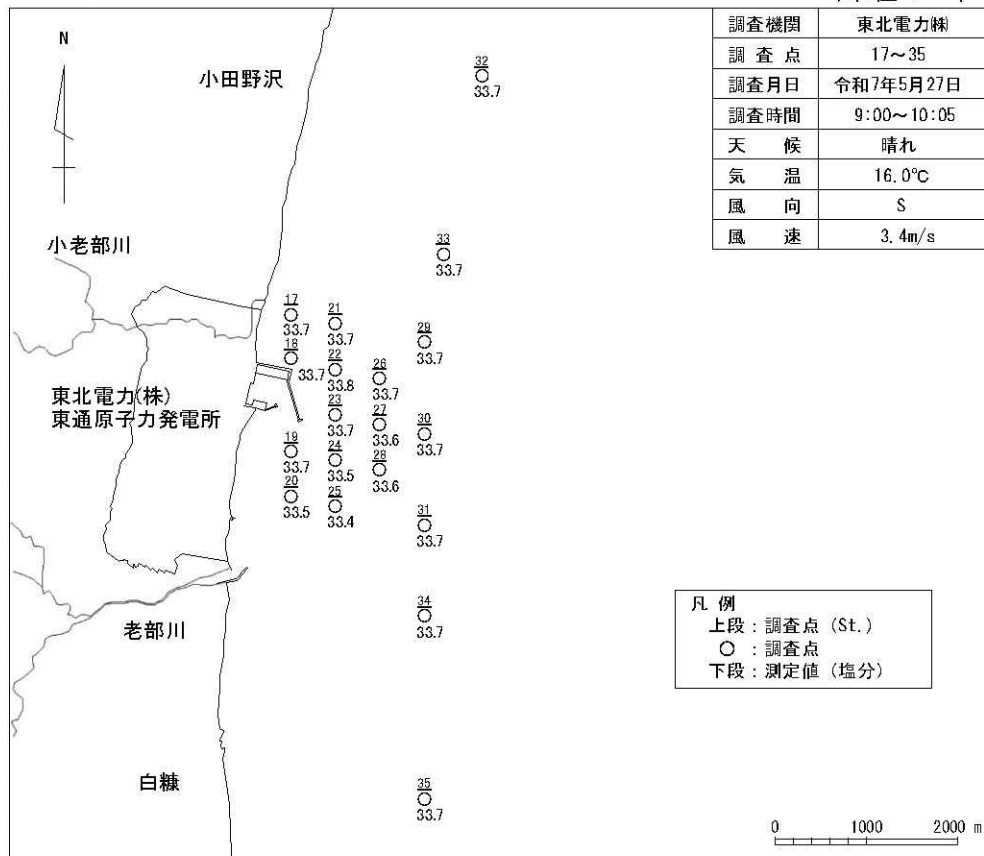
表－3.3 塩分調査結果

(単位：－)

調 査 者		東北電力(株)
項 目		測定範囲
第1 四 半 期	調査年月日	令和7年5月27日
	0.5m層	33.4～33.8
	全体	33.4～33.8
第2 四 半 期	調査年月日	令和7年8月21日
	0.5m層	32.9～33.7
	全体	32.9～33.8
第3 四 半 期	調査年月日	令和7年11月20日
	0.5m層	33.7～33.8
	全体	33.7～33.8
第4 四 半 期	調査年月日	令和8年2月20日
	0.5m層	33.5～33.9
	全体	33.5～33.9

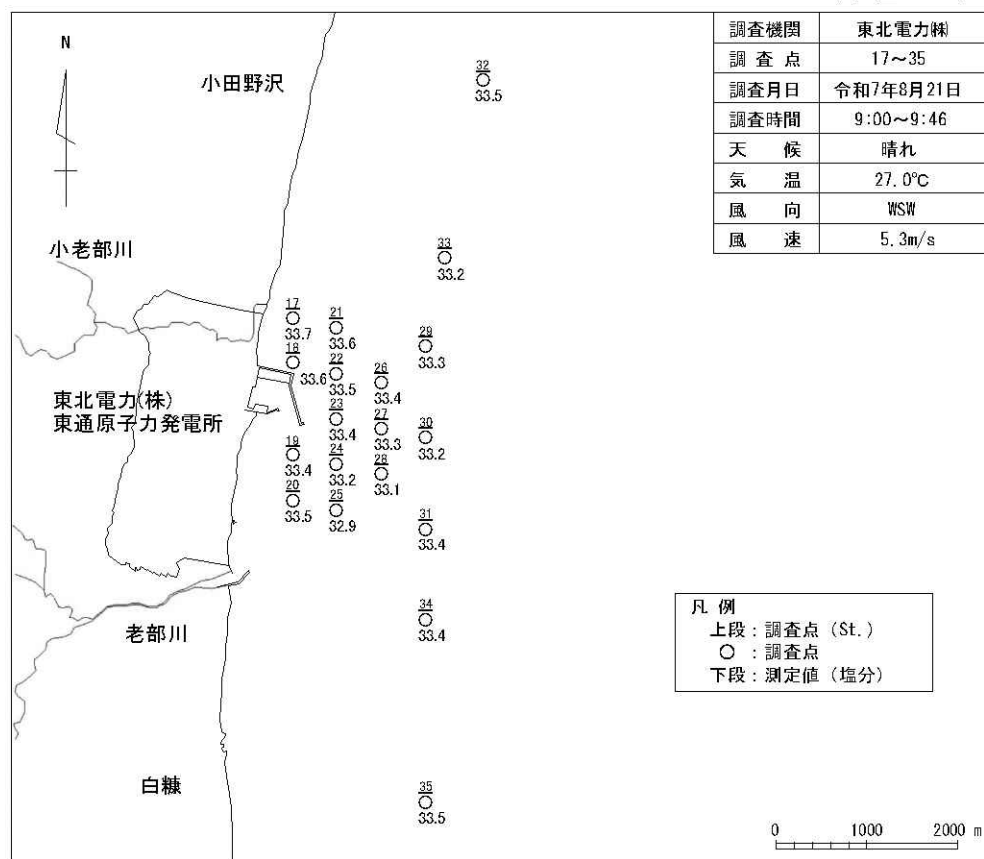
(令和7年5月調査)

(単位：－)



(令和7年8月調査)

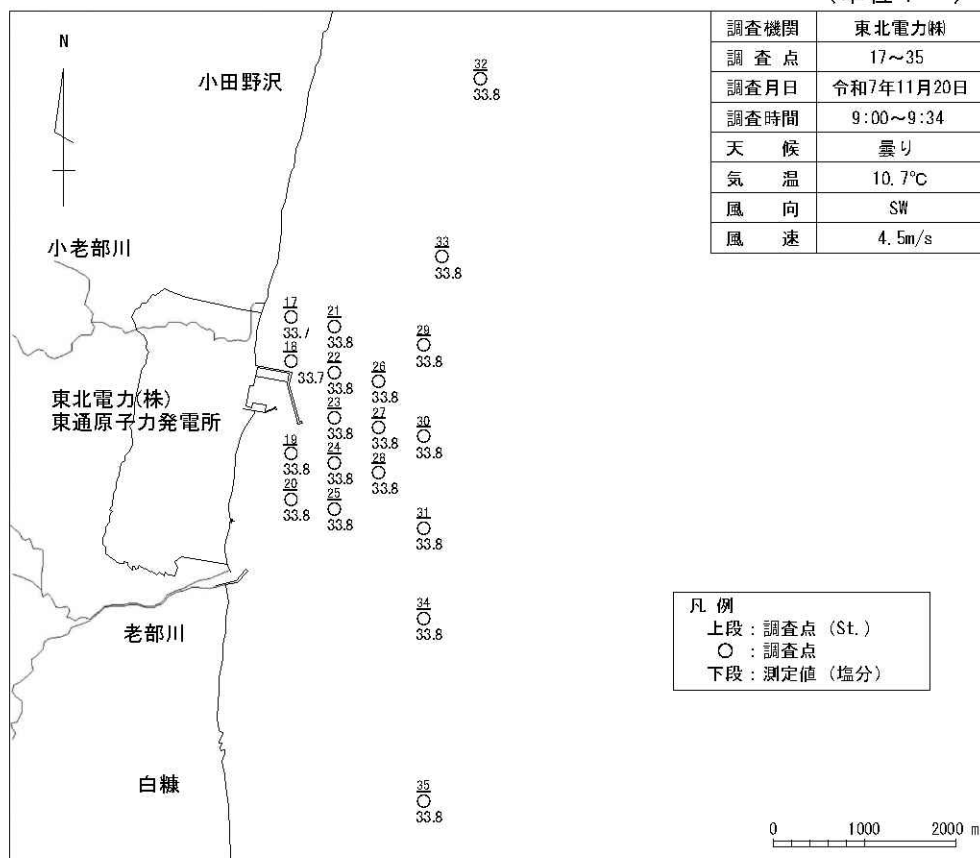
(単位：－)



図－3.5 (1) 塩分水平分布図 (0.5m層)

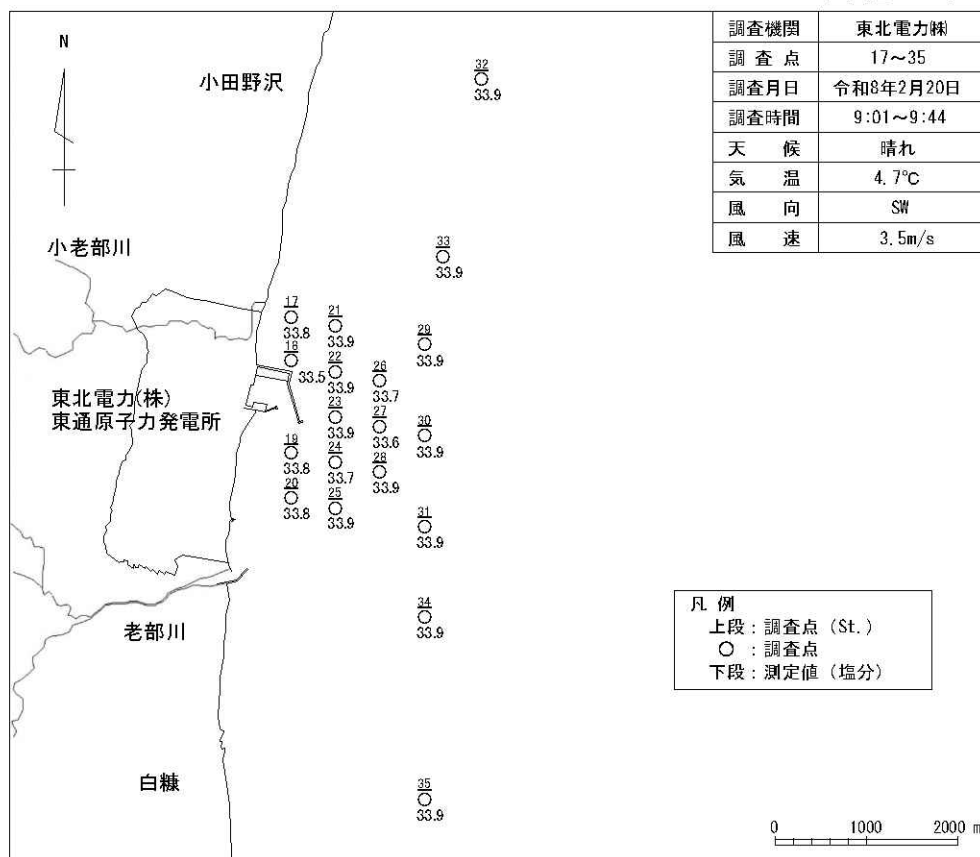
(令和7年11月調査)

(単位：－)



(令和8年2月調査)

(単位：－)



図－3.5 (2) 塩分水平分布図 (0.5m層)

(令和7年5月調査)

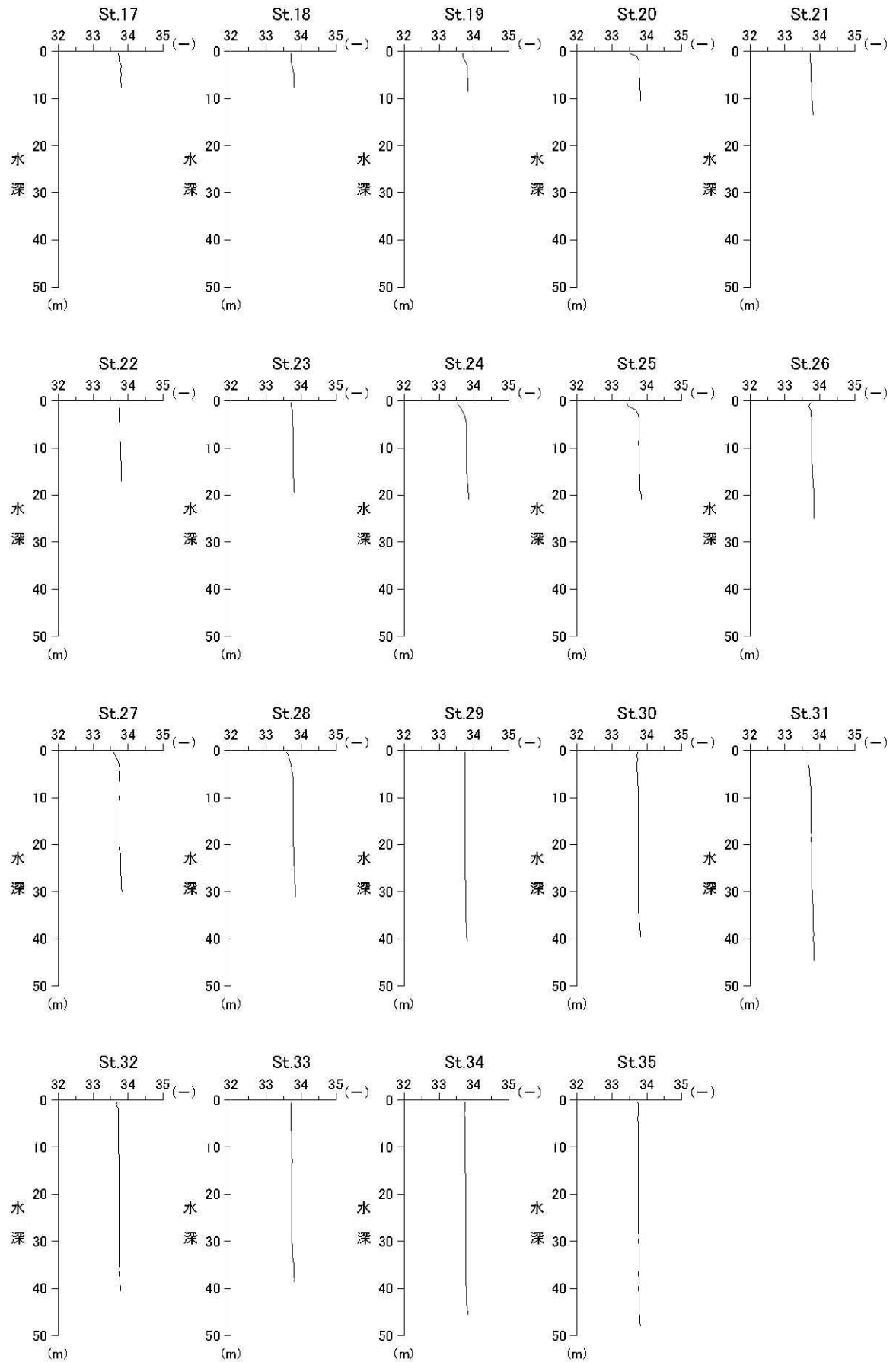


図-3.6 (1) 塩分鉛直分布図

(令和7年8月調査)

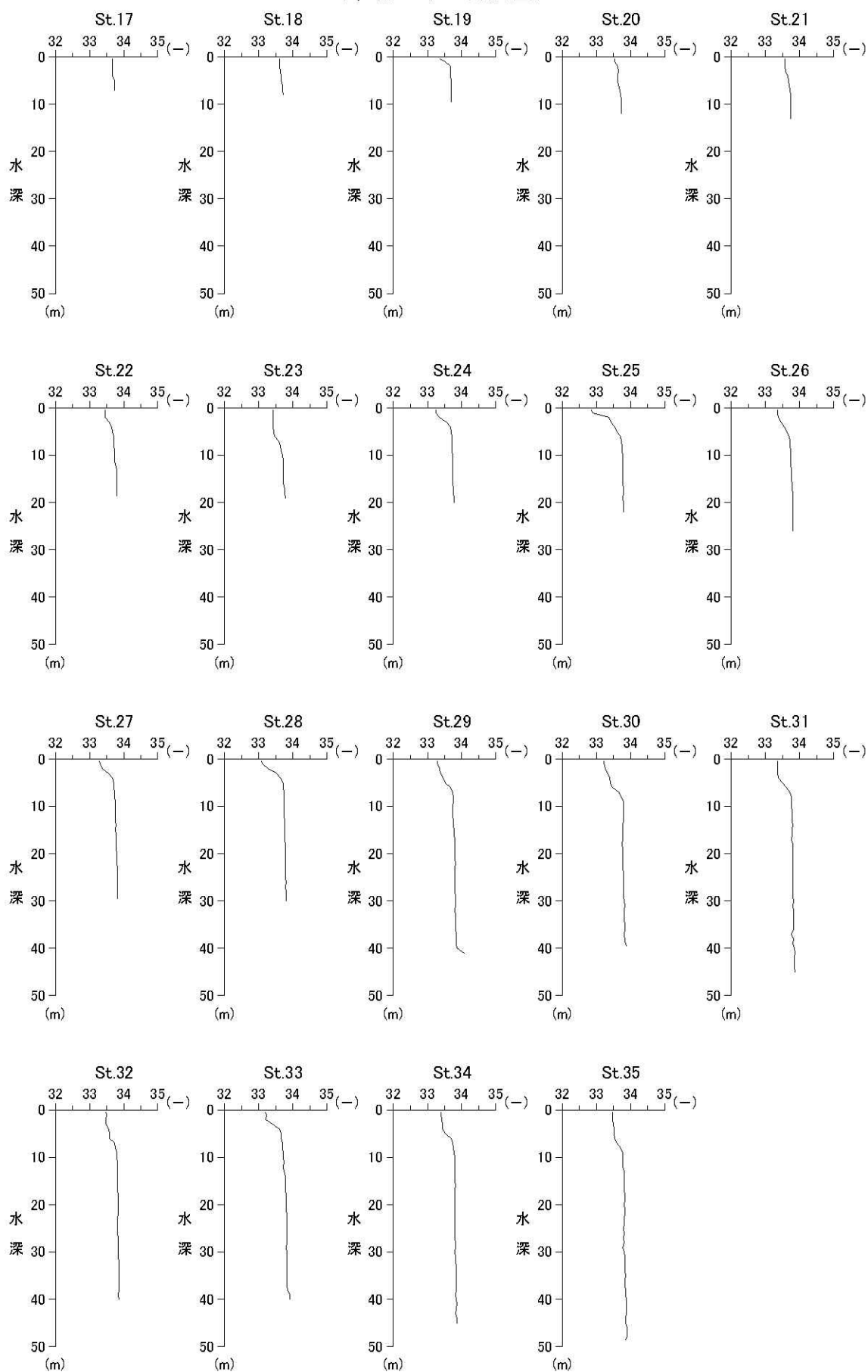


図-3.6 (2) 塩分鉛直分布図

(令和 7 年 11 月調査)

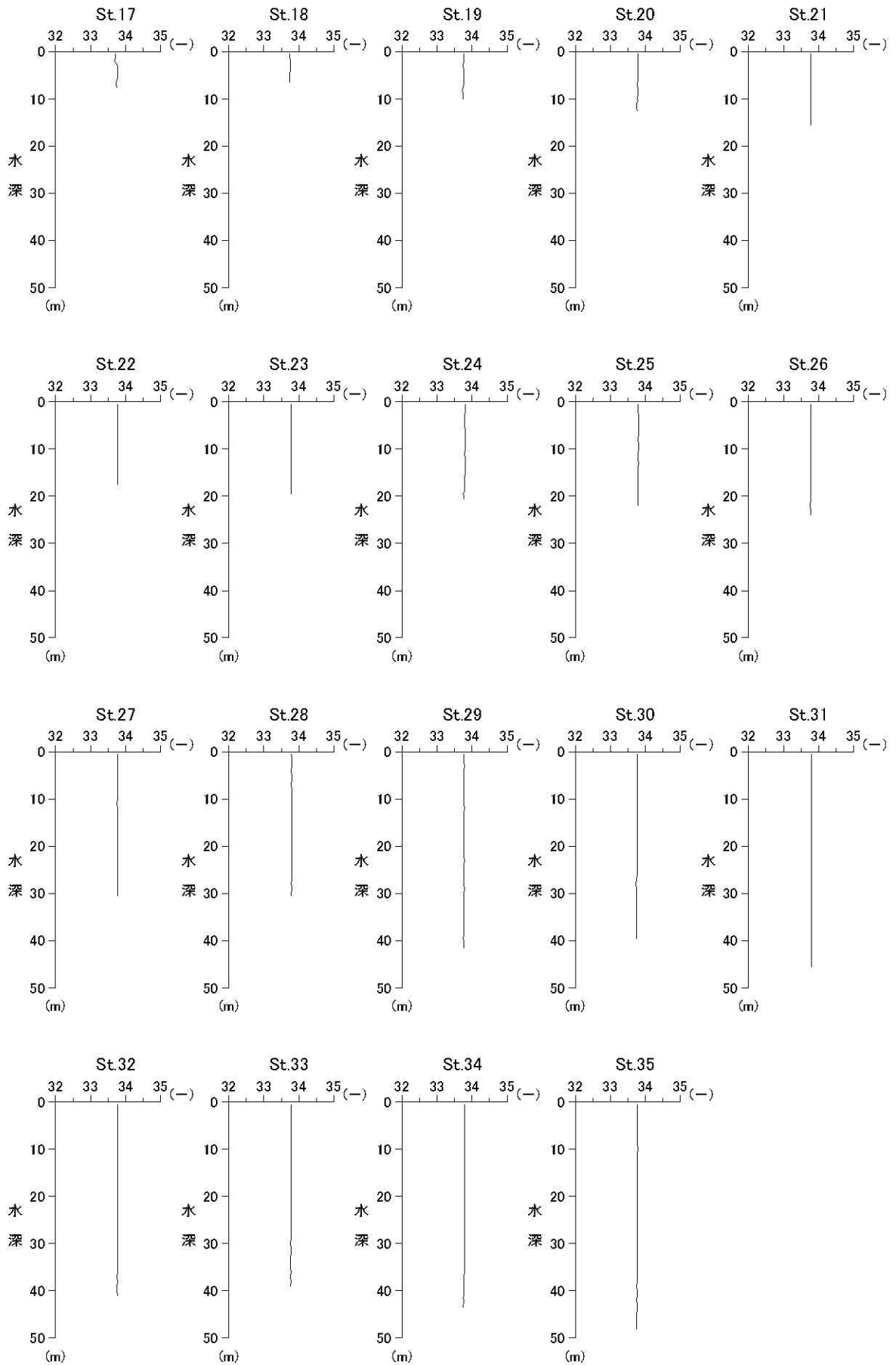


図-3.6 (3) 塩分鉛直分布図

(令和 8 年 2 月調査)

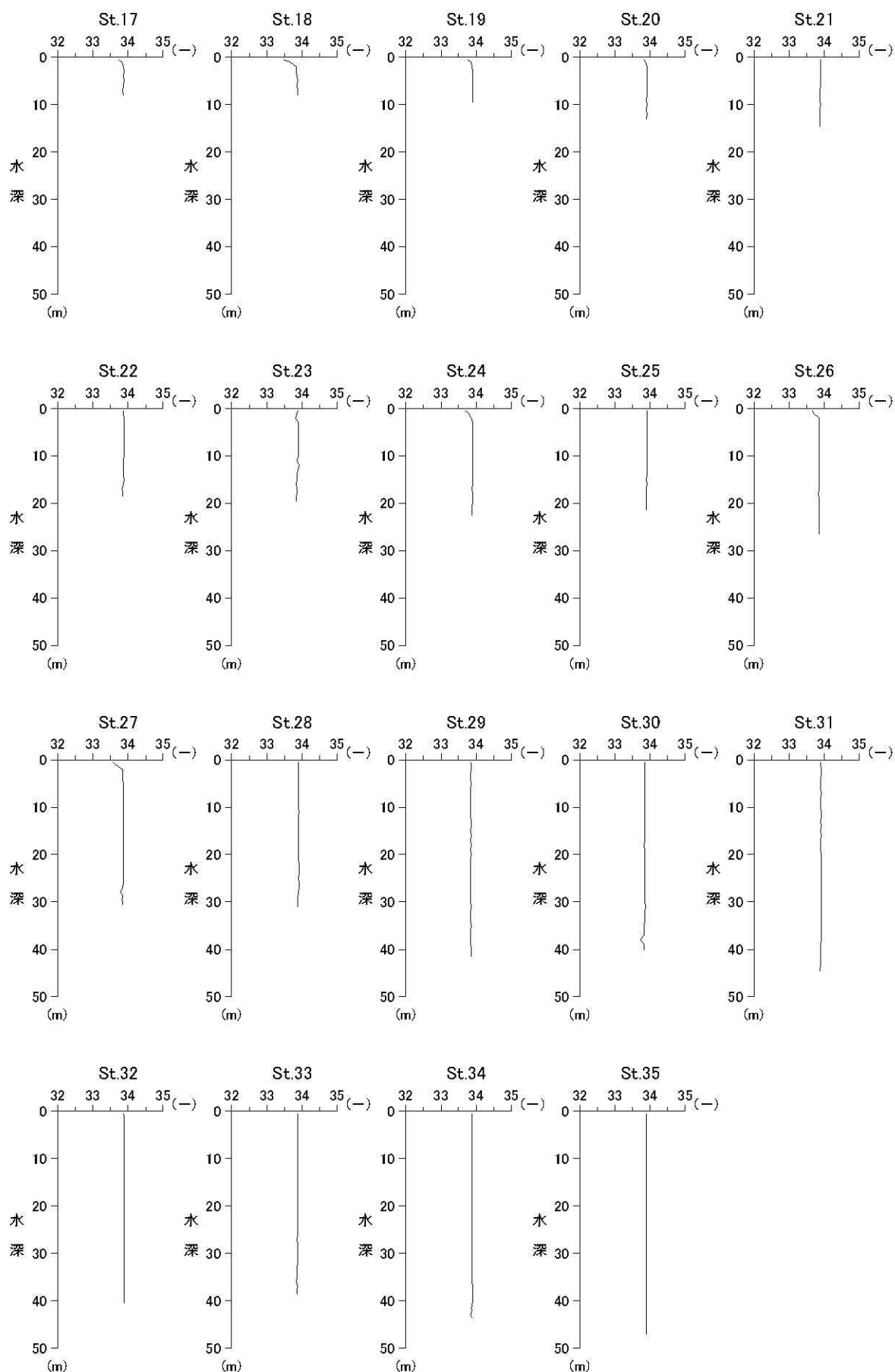


図-3.6 (4) 塩分鉛直分布図

(3) 流 況

調査位置：St. 21、29（2 調査点、図－1.3 参照）

発電所稼働状況：停止中

流向別流速出現頻度を図－3.7 に示す。

a. 第 1 四半期

流向は、汀線にほぼ平行な流れで北及び南～南南西が卓越しており、流速は 30cm/s まだが大部分を占めている。

過去同期と同様の傾向であった。

b. 第 2 四半期

流向は、汀線にほぼ平行な流れで北～北北東及び南南東～南南西が卓越しており、流速は 40cm/s まだが大部分を占めている。

過去同期と同様の傾向であった。

c. 第 3 四半期

流向は、汀線にほぼ平行な流れで北北西～北北東及び南南西が卓越しており、流速は 20cm/s まだが大部分を占めている。

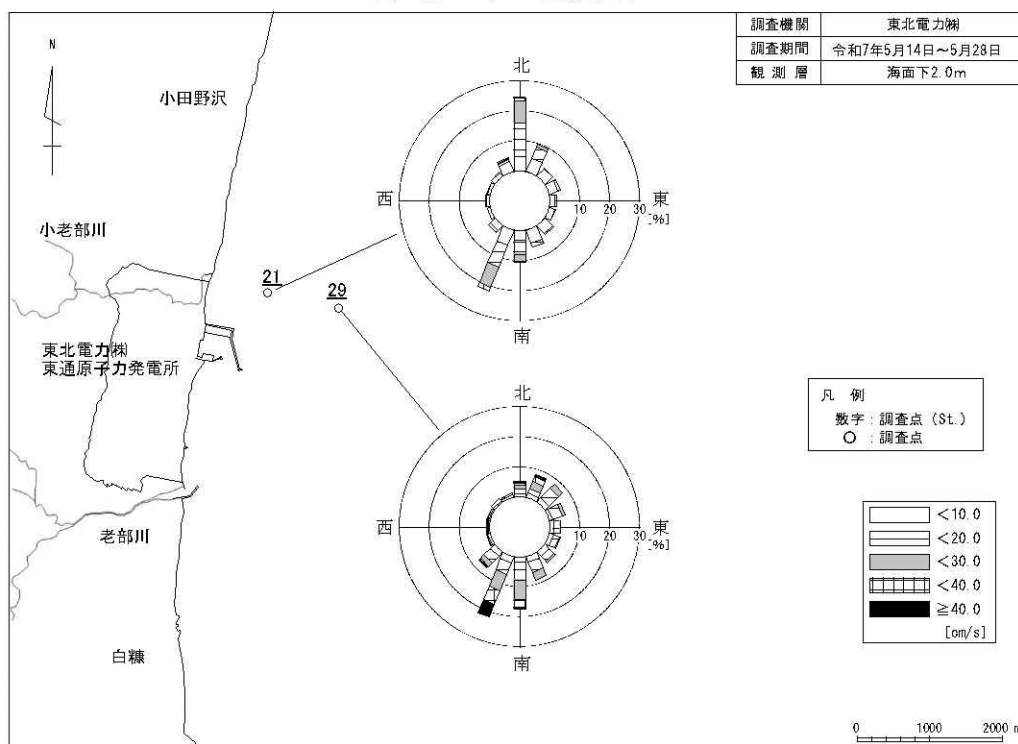
過去同期と同様の傾向であった。

d. 第 4 四半期

流向は、汀線にほぼ平行な流れで北～北北東及び南～南南西が卓越しており、流速は 40cm/s まだが大部分を占めている。

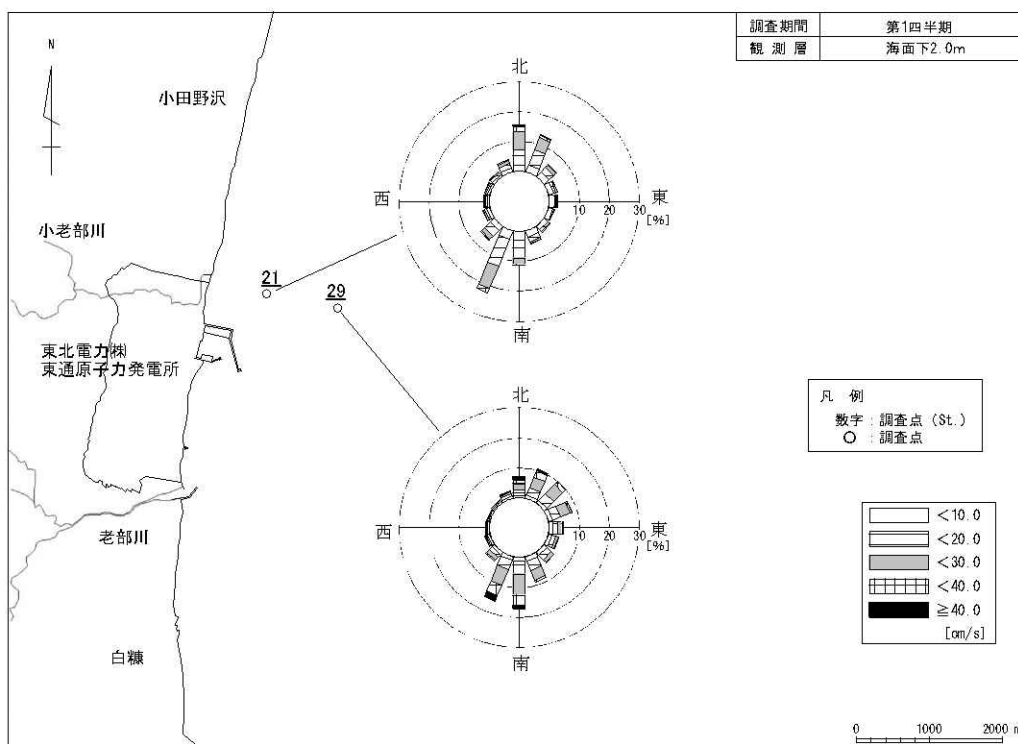
過去同期と同様の傾向であった。

(令和7年5月調査)



注1) 流向は流れて行く方向を示し、風向とは逆を示す。

(第1四半期)

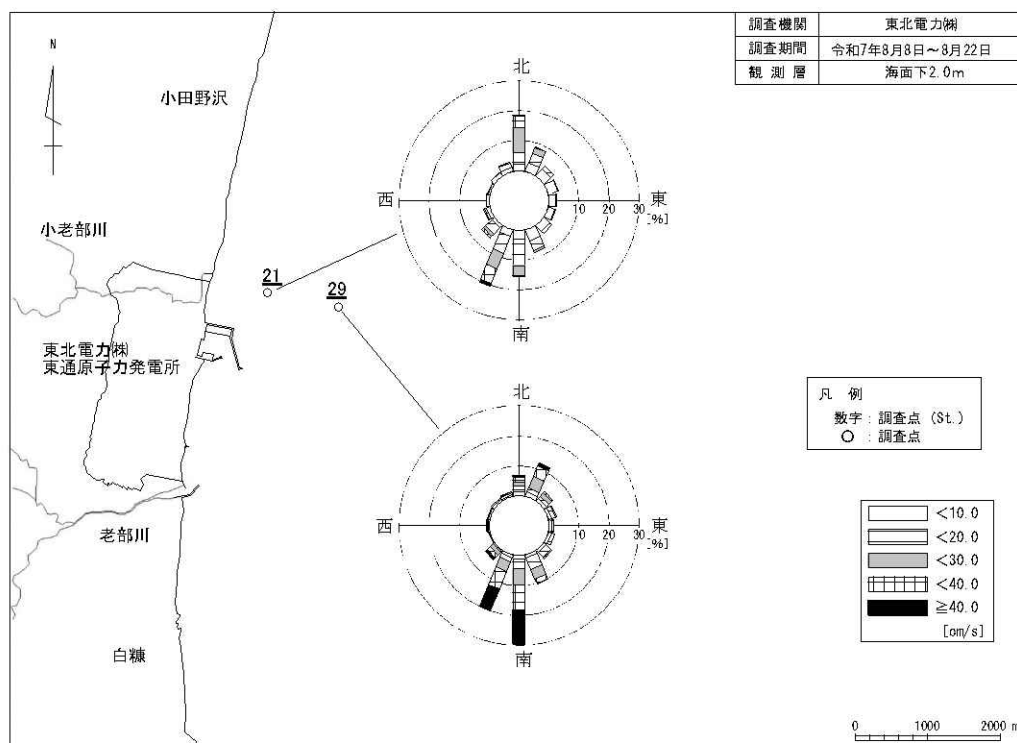


注1) 流向は流れて行く方向を示し、風向とは逆を示す。

注2) 過去同期(第1四半期)の流向別流速出現頻度は、平成16年度～令和6年度のものである。

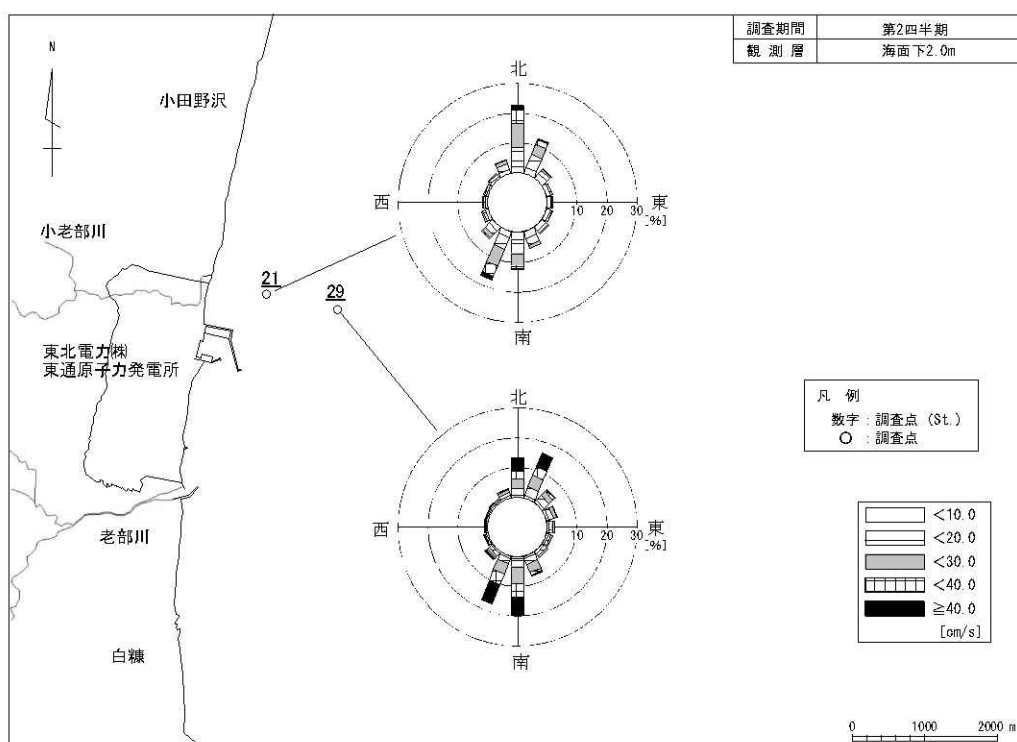
図-3.7 (1) 流向別流速出現頻度

(令和7年8月調査)



注1) 流向は流れて行く方向を示し、風向とは逆を示す。

(第2四半期)

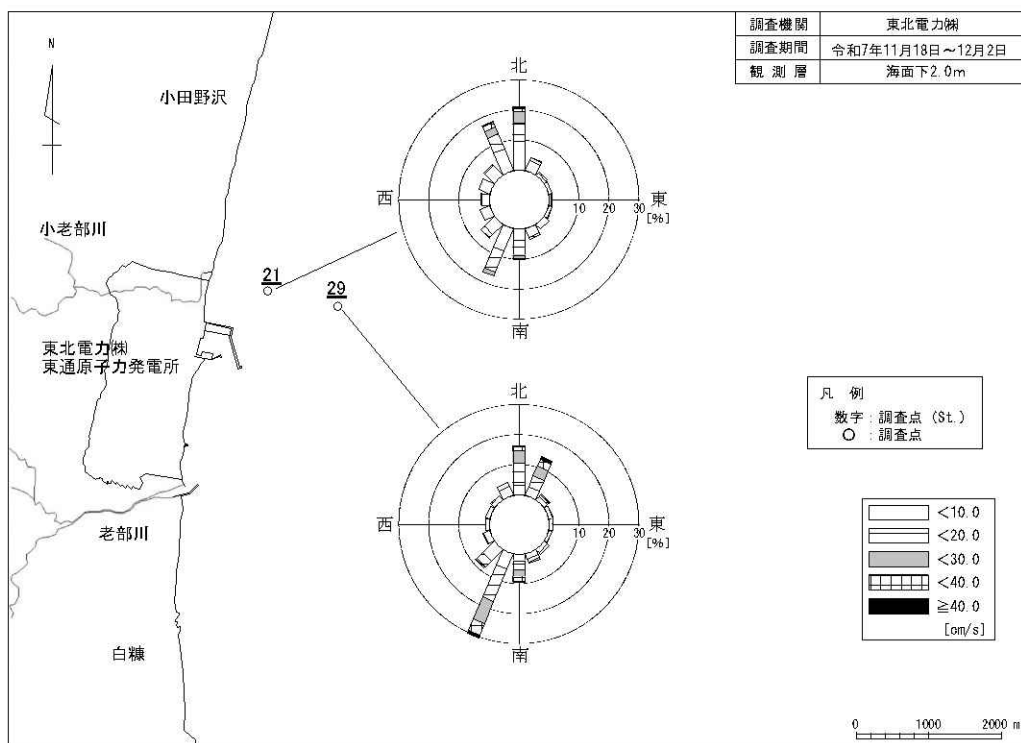


注1) 流向は流れて行く方向を示し、風向とは逆を示す。

注2) 過去同期(第2四半期)の流向別流速出現頻度は、平成16年度～令和6年度のものである。

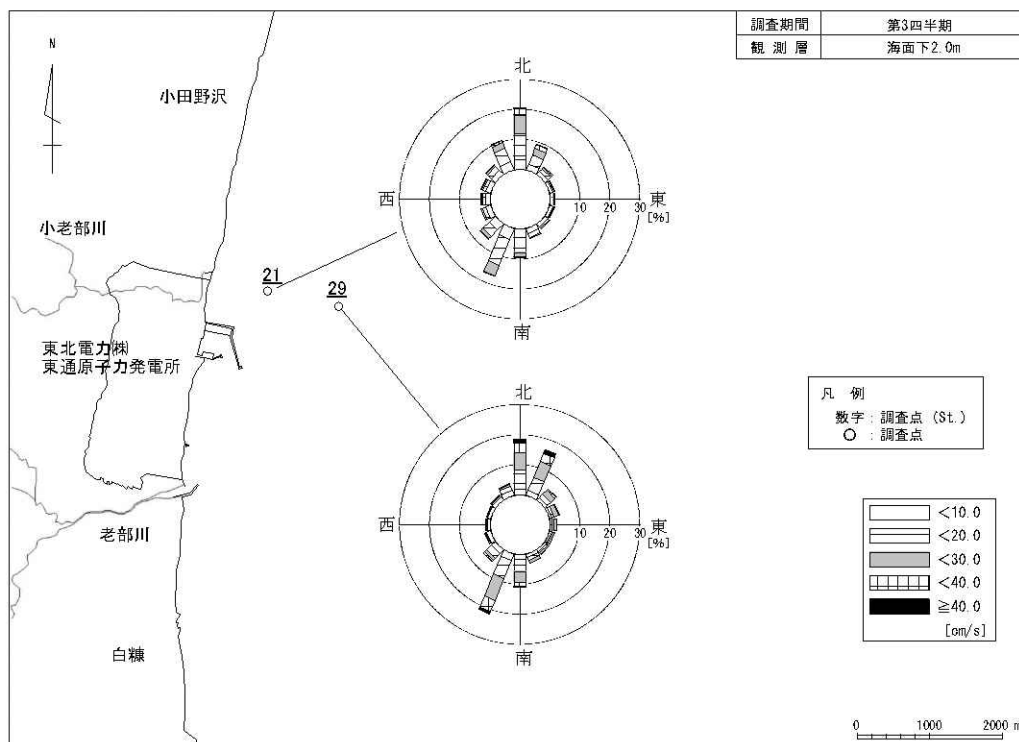
図-3.7(2) 流向別流速出現頻度

(令和 7 年 11 月調査)



注 1) 流向は流れて行く方向を示し、風向とは逆を示す。

(第 3 四半期)

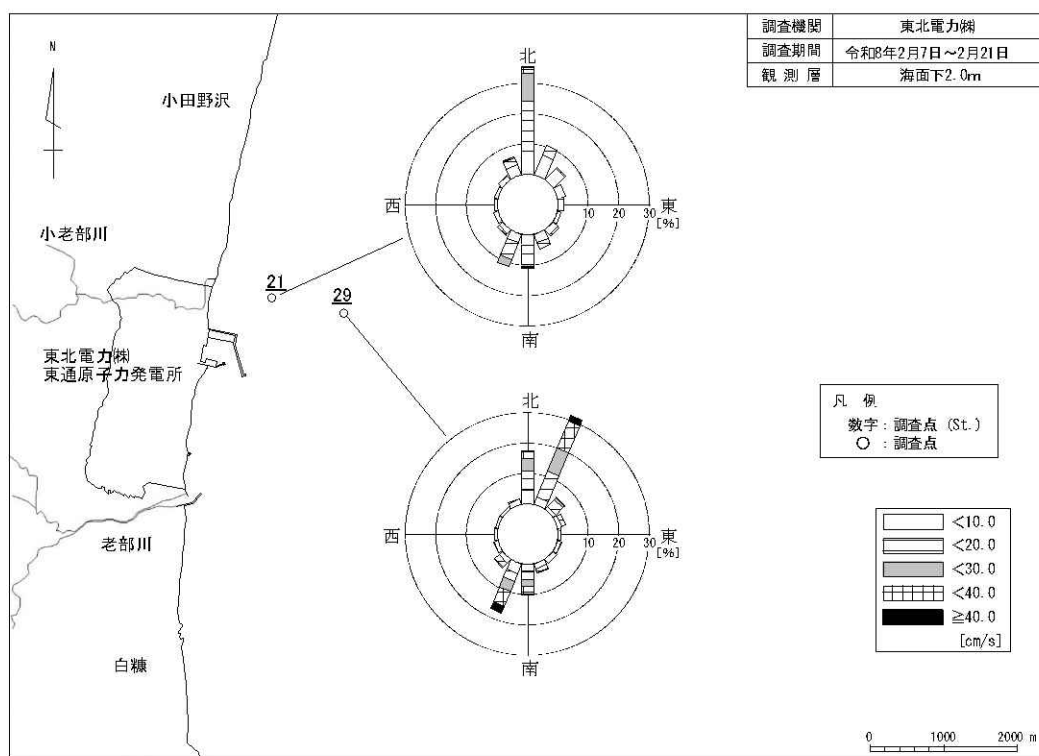


注 1) 流向は流れて行く方向を示し、風向とは逆を示す。

注 2) 過去同期 (第 3 四半期) の流向別流速出現頻度は、平成 15 年度～令和 6 年度のものである。

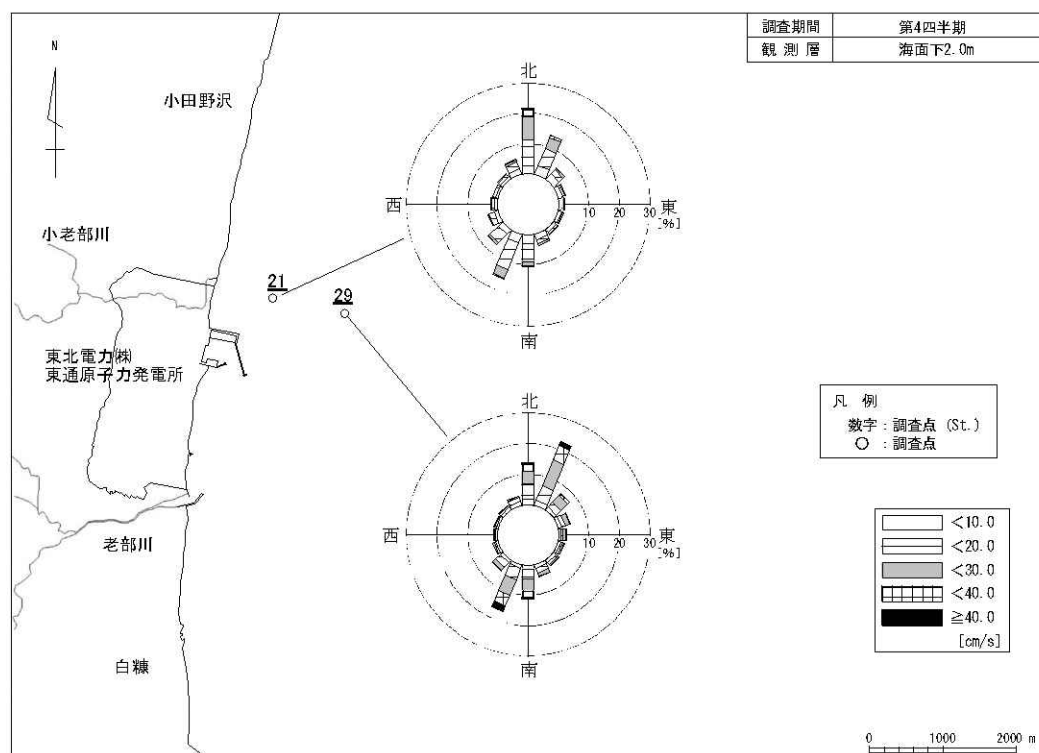
図－3.7 (3) 流向別流速出現頻度

(令和 8 年 2 月調査)



注 1) 流向は流れて行く方向を示し、風向とは逆を示す。

(第 4 四半期)



注 1) 流向は流れて行く方向を示し、風向とは逆を示す。

注 2) 過去同期（第 4 四半期）の流向別流速出現頻度は、平成 15 年度～令和 6 年度のものである。

圖-3.7 (4) 流向別流速出現頻度

(4) 水 質

調査位置：St. 18、23、27、30、32～35（8 調査点、図－1.4 参照）

発電所稼働状況：停止中

調査結果を表－3.4 に示す。

a. 水素イオン濃度（pH）

① 第 1 四半期

8.0 であり、過去同期の範囲内にあった。

② 第 2 四半期

8.0～8.1 の範囲であり、St. 32 の 5.0m 層において過去同期の範囲を下回っていた。

③ 第 3 四半期

8.0 であり、過去同期の範囲内にあった。

④ 第 4 四半期

8.0 であり、過去同期の範囲内にあった。

b. 化学的酸素要求量（COD）

① 第 1 四半期

酸性法では 1.0mg/L～2.4mg/L であり、過去同期の範囲内にあった。アルカリ性法では 0.4mg/L～1.1mg/L の範囲であり、St. 27 の 0.5m 層において過去同期の範囲を上回っていた。

② 第 2 四半期

酸性法では 1.3mg/L～1.9mg/L、アルカリ性法では 0.3mg/L～0.7mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

③ 第 3 四半期

酸性法では 1.0mg/L～2.0mg/L、アルカリ性法では 0.2mg/L～1.3mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

④ 第 4 四半期

酸性法では 0.4mg/L～1.4mg/L、アルカリ性法では 0.2mg/L～0.6mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

c. 溶存酸素量 (DO)

① 第 1 四半期

8.7mg/L~10.2mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

② 第 2 四半期

7.2mg/L~9.0mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

③ 第 3 四半期

8.2mg/L~9.2mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

④ 第 4 四半期

8.8mg/L~9.5mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

d. 塩 分

① 第 1 四半期

33.7~34.0 の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

② 第 2 四半期

33.2~33.9 の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

③ 第 3 四半期

33.8~33.9 の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

④ 第 4 四半期

33.5~33.9 の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

e. 透明度

① 第 1 四半期

11.5m~15.0m の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

② 第 2 四半期

6.5m~18.3m の範囲であり、St. 18 において過去同期の範囲を下回っていた。

③ 第 3 四半期

15.5m~18.5m の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

④ 第 4 四半期

16.1m~24.1m の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

f. 浮遊物質（SS）

① 第1四半期

定量下限値未満～1mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

② 第2四半期

定量下限値未満～2mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

③ 第3四半期

定量下限値未満～2mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

④ 第4四半期

定量下限値未満～1mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

g. 水 温

① 第1四半期

11.3℃～12.3℃の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

② 第2四半期

23.9℃～24.8℃の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

③ 第3四半期

13.7℃～14.1℃の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

④ 第4四半期

7.5℃～8.5℃の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

h. 全窒素（T-N）

① 第1四半期

0.09mg/L～0.16mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

② 第2四半期

0.09mg/L～0.25mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

③ 第3四半期

0.11mg/L～0.54mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

④ 第4四半期

0.14mg/L～0.30mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

i. 全リン (T-P)

① 第 1 四半期

0.012mg/L~0.017mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

② 第 2 四半期

0.010mg/L~0.012mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

③ 第 3 四半期

0.014mg/L~0.022mg/L の範囲であり、St. 27 の 0.5m 層において過去同期の範囲を上回っていた。

④ 第 4 四半期

0.018mg/L~0.020mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内にあった。

表－3.4 水質調査結果

調査年月日 調査項目		単位	第1四半期	
			令和7年5月27日	過去の範囲
			測定範囲	
水素イオン濃度 (pH)		-	8.0	7.9～8.2
化学的酸素要求量 (COD)	酸性法	mg/L	1.0～2.4	0.2～2.8
	アルカリ性法		0.4～ <u>1.1</u>	<0.1～0.7
溶存酸素量 (DO)		mg/L	8.7～10.2	8.5～10.9
塩分		-	33.7～34.0	33.2～34.1
透明度		m	11.5～15.0	6.0～19.0
浮遊物質量 (SS)		mg/L	<1～1	<1～4
水温		℃	11.3～12.3	8.7～14.3
全窒素 (T-N)		mg/L	0.09～0.16	0.07～0.45
全リン (T-P)		mg/L	0.012～0.017	0.008～0.035

調査年月日 調査項目		単位	第2四半期	
			令和7年8月21日	過去の範囲
			測定範囲	
水素イオン濃度 (pH)		-	<u>8.0</u> ～8.1	8.1～8.3
化学的酸素要求量 (COD)	酸性法	mg/L	1.3～1.9	0.6～3.4
	アルカリ性法		0.3～0.7	0.2～1.3
溶存酸素量 (DO)		mg/L	7.2～9.0	7.0～9.1
塩分		-	33.2～33.9	31.9～34.1
透明度		m	<u>6.5</u> ～18.3	7.0～19.0
浮遊物質量 (SS)		mg/L	<1～2	<1～2
水温		℃	23.9～24.8	16.7～26.6
全窒素 (T-N)		mg/L	0.09～0.25	0.06～0.46
全リン (T-P)		mg/L	0.010～0.012	0.004～0.035

調査年月日 調査項目		単位	第3四半期	
			令和7年11月20日	過去の範囲
			測定範囲	
水素イオン濃度 (pH)		-	8.0	8.0～8.2
化学的酸素要求量 (COD)	酸性法	mg/L	1.0～2.0	0.3～2.6
	アルカリ性法		0.2～1.3	<0.1～1.4
溶存酸素量 (DO)		mg/L	8.2～9.2	6.6～11.7
塩分		-	33.8～33.9	32.4～34.2
透明度		m	15.5～18.5	4.8～25.0
浮遊物質量 (SS)		mg/L	<1～2	<1～3
水温		℃	13.7～14.1	11.7～17.4
全窒素 (T-N)		mg/L	0.11～0.54	0.08～0.79
全リン (T-P)		mg/L	0.014～ <u>0.022</u>	0.006～0.021

調査年月日 調査項目		単位	第4四半期	
			令和8年2月20日	過去の範囲
			測定範囲	
水素イオン濃度 (pH)		-	8.0	7.8～8.2
化学的酸素要求量 (COD)	酸性法	mg/L	0.4～1.4	0.2～3.1
	アルカリ性法		0.2～0.6	<0.1～1.0
溶存酸素量 (DO)		mg/L	8.8～9.5	8.4～11.3
塩分		-	33.5～33.9	32.8～34.4
透明度		m	16.1～24.1	7.0～29.5
浮遊物質量 (SS)		mg/L	<1～1	<1～3
水温		℃	7.5～8.5	2.8～10.0
全窒素 (T-N)		mg/L	0.14～0.30	0.10～0.58
全リン (T-P)		mg/L	0.018～0.020	0.013～0.048

注1) 結果欄中の「<」は定量下限未満の値を示す。

注2) 透明度の最小値には、着底した値を含めていない。

注3) 最大値、最小値における下線部は、過去同期の範囲外の値であることを示す。

注4) 過去の調査結果範囲は、四半期ごとに下記の期間である。

第1四半期、第2四半期：平成16年度～令和6年度

第3四半期、第4四半期：平成15年度～令和6年度

(5) 底 質

調査位置：St. a～c（3 調査点、図－1.5 参照）

発電所稼働状況：停止中

調査結果を表－3.5 に示す。

a. 化学的酸素要求量（COD）

① 第 1 四半期

St. a において 0.6mg/g 乾泥、St. b において 0.5mg/g 乾泥、St. c において 0.3mg/g 乾泥を示し、過去同期の範囲内にあった。

② 第 2 四半期

St. a において 1.1mg/g 乾泥、St. b において 0.6mg/g 乾泥、St. c において 0.3mg/g 乾泥を示し、過去同期の範囲内にあった。

③ 第 3 四半期

St. a において 0.9mg/g 乾泥、St. b において 0.5 mg/g 乾泥、St. c において 0.3mg/g 乾泥を示し、過去同期の範囲内にあった。

④ 第 4 四半期

St. a において 1.3mg/g 乾泥、St. b において 0.5mg/g 乾泥、St. c において 0.4mg/g 乾泥を示し、過去同期の範囲内にあった。

b. 強熱減量（IL）

① 第 1 四半期

St. a において 2.3%、St. b において 2.5%、St. c において 1.3%を示し、過去同期の範囲内にあった。

② 第 2 四半期

St. a において 3.1%、St. b において 2.3%、St. c において 1.4%を示し、過去同期の範囲内にあった。

③ 第 3 四半期

St. a において 3.3%、St. b において 1.8%、St. c において 1.3%を示し、過去同期の範囲内にあった。

④ 第 4 四半期

St. a において 3.0%、St. b において 1.8%、St. c において 1.1%を示し、過去同期の範囲内にあった。

c. 全硫化物 (T-S)

① 第1四半期

全調査点において定量下限値未満であり、過去同期の範囲内にあった。

② 第2四半期

全調査点において定量下限値未満であり、過去同期の範囲内にあった。

③ 第3四半期

全調査点において定量下限値未満であり、過去同期の範囲内にあった。

④ 第4四半期

全調査点において定量下限値未満であり、過去同期の範囲内にあった。

d. 粒度組成

① 第1四半期

細砂が St. a において 4.9%、St. b において 83.3%、St. c において 97.2%の分布であり、St. a 及び St. c は過去同期の範囲内にあった。St. b は過去同期の範囲を下回っていた。

② 第2四半期

細砂が St. a において 25.3%、St. b において 90.2%、St. c において 97.2%の分布であり、過去同期の範囲内にあった。

③ 第3四半期

細砂が St. a において 8.7%、St. b において 94.3%、St. c において 95.9%の分布であり、過去同期の範囲内にあった。

④ 第4四半期

細砂が St. a において 17.1%、St. b において 94.8%、St. c において 96.1%の分布であり、過去同期の範囲内にあった。

表－3.5 底質調査結果

調査項目		単位	第1四半期					
			令和7年5月23日			過去の範囲		
			St. a	St. b	St. c	St. a	St. b	St. c
化学的酸素要求量 (COD)		mg/g乾泥	0.6	0.5	0.3	0.2~1.9	0.3~0.8	0.1~0.5
強熱減量 (IL)		%	2.3	2.5	1.3	1.5~6.9	1.5~5.0	1.0~3.0
全硫化物 (T-S)		mg/g乾泥	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01~0.01	<0.01
粒度組成	礫 (2.000mm以上)	% 	18.1	1.9	0.0	0.1~43.0	0.0~0.8	0.0~0.1
	粗砂 (0.425~2.000mm未満)		73.8	10.9	0.1	2.0~93.9	0.2~11.3	0.0~0.4
	細砂 (0.075~0.425mm未満)		4.9	83.3	97.2	0.2~97.3	84.7~98.6	92.4~99.4
	シルト (0.005~0.075mm未満)		0.8	1.3	0.1	0.0~1.9	0.0~1.5	0.1~3.7
	粘土・コロイド (0.005mm未満)		2.4	2.6	2.6	0.5~2.7	0.5~3.6	0.2~3.8

調査項目		単位	第2四半期					
			令和7年8月22日			過去の範囲		
			St. a	St. b	St. c	St. a	St. b	St. c
化学的酸素要求量 (COD)		mg/g乾泥	1.1	0.6	0.3	0.3~1.5	0.3~0.9	0.3~0.5
強熱減量 (IL)		%	3.1	2.3	1.4	1.3~15.5	1.3~5.7	0.8~3.2
全硫化物 (T-S)		mg/g乾泥	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
粒度組成	礫 (2.000mm以上)	% 	8.9	0.0	0.0	0.0~65.2	0.0~1.7	0.0~0.1
	粗砂 (0.425~2.000mm未満)		62.2	5.1	0.1	0.3~90.6	0.1~12.4	0.1~0.7
	細砂 (0.075~0.425mm未満)		25.3	90.2	97.2	0.3~98.7	82.7~98.6	95.8~99.1
	シルト (0.005~0.075mm未満)		1.1	2.1	0.1	0.1~1.1	0.0~1.1	0.0~0.8
	粘土・コロイド (0.005mm未満)		2.5	2.6	2.6	0.1~5.3	0.7~6.5	0.7~3.8

調査項目		単位	第3四半期					
			令和7年12月2日			過去の範囲		
			St. a	St. b	St. c	St. a	St. b	St. c
化学的酸素要求量 (COD)		mg/g乾泥	0.9	0.5	0.3	0.3~1.6	0.4~1.4	0.2~0.5
強熱減量 (IL)		%	3.3	1.8	1.3	1.8~11.4	1.5~14.0	0.7~4.5
全硫化物 (T-S)		mg/g乾泥	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
粒度組成	礫 (2.000mm以上)	% 	33.7	0.0	0.0	0.1~47.7	0.0~51.3	0.0~0.2
	粗砂 (0.425~2.000mm未満)		54.9	1.7	0.2	3.4~92.8	0.0~17.6	0.1~0.7
	細砂 (0.075~0.425mm未満)		8.7	94.3	95.9	0.5~96.1	30.2~99.0	95.3~99.4
	シルト (0.005~0.075mm未満)		0.3	1.3	1.3	0.0~0.9	0.1~1.8	0.0~1.2
	粘土・コロイド (0.005mm未満)		2.4	2.7	2.6	0.2~6.3	0.3~4.1	0.2~3.2

調査項目		単位	第4四半期					
			令和8年2月17日			過去の範囲		
			St. a	St. b	St. c	St. a	St. b	St. c
化学的酸素要求量 (COD)		mg/g乾泥	1.3	0.5	0.4	0.3~1.9	0.2~1.4	0.2~0.5
強熱減量 (IL)		%	3.0	1.8	1.1	1.5~12.7	1.4~11.8	1.0~3.8
全硫化物 (T-S)		mg/g乾泥	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
粒度組成	礫 (2.000mm以上)	% 	12.9	0.0	0.0	0.0~65.1	0.0~0.2	0.0~0.1
	粗砂 (0.425~2.000mm未満)		66.5	1.2	0.1	2.1~90.1	0.3~3.6	0.0~0.7
	細砂 (0.075~0.425mm未満)		17.1	94.8	96.1	0.4~96.9	91.8~98.8	91.0~99.2
	シルト (0.005~0.075mm未満)		1.2	1.3	1.3	0.0~1.3	0.0~1.3	0.0~3.1
	粘土・コロイド (0.005mm未満)		2.3	2.7	2.5	0.1~4.2	0.2~5.0	0.5~5.5

- 注 1) 結果欄中の「<」は定量下限未満の値を示す。
 注 2) 強熱減量と粒度組成は、重量百分率で示した。
 注 3) 粒度組成については、細砂の割合を確認している。
 注 4) 下線部は、過去同期の範囲外の値であることを示す。
 注 5) 過去の調査結果範囲は、四半期ごとに下記の期間である。
 第 1 四半期、第 2 四半期：平成 16 年度～令和 6 年度
 第 3 四半期、第 4 四半期：平成 15 年度～令和 6 年度

(6) 卵・稚仔

調査位置：St. 23、30、32～35（6 調査点、図－1.6 参照）

発電所稼働状況：停止中

a. 卵

調査結果を表－3.6 に、過去の調査結果範囲を表－3.7 に、主な出現種の状況を表－3.8 に示す。

① 第 1 四半期

出現種類数は 8 種類、出現した平均個数は 377 個/1,000m³、主な出現種は単脂球形不明卵 1 等であり、過去同期と同様の傾向であった。

② 第 2 四半期

出現種類数は 11 種類、出現した平均個数は 2,731 個/1,000m³、主な出現種は単脂球形不明卵 1 等であり、過去同期と同様の傾向であった。

③ 第 3 四半期

出現種類数は 7 種類、出現した平均個数は 21 個/1,000m³、主な出現種はネズッポ科等であり、過去同期と同様の傾向であった。

④ 第 4 四半期

出現種類数は 4 種類、出現した平均個数は 37 個/1,000m³、主な出現種は無脂球形不明卵 2 等であり、過去同期と同様の傾向であった。

表－3.6 卵調査結果

調査年月日 項 目	第1四半期		第2四半期	
	令和7年5月27日		令和7年8月21日	
出現種類数	8		11	
平均個数 (個/1,000m ³)	377		2,731	
主な出現種	単脂球形不明卵 1 無脂球形不明卵 1	62.6% 32.3%	単脂球形不明卵 1 ウシノシタ垂目 ネズップ科	72.2% 13.7% 9.1%

調査年月日 項 目	第3四半期		第4四半期	
	令和7年11月20日		令和8年2月20日	
出現種類数	7		4	
平均個数 (個/1,000m ³)	21		37	
主な出現種	ネズップ科 キュウリエソ 単脂球形不明卵 1 単脂球形不明卵 3	56.0% 25.0% 10.3% 6.0%	無脂球形不明卵 2 無脂球形不明卵 3 無脂球形不明卵 1	61.5% 28.8% 7.4%

注 1) 主な出現種は、総個数の 5% 以上出現かつ上位 5 種のものとした。

注 2) 不明卵の番号は、種が特定できないことから、四半期ごとの通し番号となっているため、一致しない。

表－3.7 過去の卵調査結果範囲

調査時期 項 目	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
出現種類数	0～13	7～21	4～11	2～6
平均個数 (個/1,000m ³)	0～982	128～34,130	10～518	1～803

注 1) 過去の調査結果範囲は、四半期ごとに下記の期間である。

第 1 四半期、第 2 四半期：平成 16 年度～令和 6 年度

第 3 四半期、第 4 四半期：平成 15 年度～令和 6 年度

表－3.8 卵調査における主な出現種の状況

調査時期 年度	第1四半期							第2四半期							第3四半期							第4四半期							
	運転開始前 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	運転開始前 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	運転開始前 H15 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	運転開始前 H15 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	
コノシロ		1 / 2							0 / 0							0 / 0								0 / 0					
カタクティワシ		2 / 4	○	○	○	◎	○	◎	8 / 12	○	◎		○	○		0 / 0								0 / 0					
ウナギ目		0 / 1						○	4 / 14	○	◎	○	◎	○	◎	0 / 4								0 / 1		○			
キュウリエソ		3 / 13		○	○		○		1 / 8		○				◎ ◎	15 / 18	◎ ◎	○	◎ ◎	◎ ◎	◎ ◎	◎ ◎	◎	4 / 13	◎	○	○	◎	○
スケトウダラ		1 / 1							0 / 0							0 / 0							◎	8 / 12					
ネズツボ科	◎	2 / 3						○	11 / 18	◎	◎	○	◎	◎	◎ ◎	4 / 12	◎	◎	◎	○	◎			0 / 0					
メイタガレイ風		1 / 9		○	○	○	○		0 / 1						○	0 / 8	○		○		○			0 / 0					
カレイ科	◎	4 / 6							0 / 1						◎ ◎	0 / 2						○ ◎	3 / 11						
ウシノシタ垂目		0 / 1							4 / 11	○	◎	◎	◎	◎		0 / 0					○			0 / 0					

注 1) 年度欄の「運転開始前」は温排水放水前の調査であることを示す。

注 2) 表中の◎は主な出現種に計上されたことを示し、○は調査で出現したことを示す。

注 3) 平成 17 年度～令和 2 年度の 16 年間は、それぞれの出現状況を（主な出現種に計上された回数）／（調査で出現した回数）で示す。

注 4) 不明卵は、種が特定できないため除外した。

b. 稚 仔

調査結果を表－3.9に、過去の調査結果範囲を表－3.10に、主な出現種の状況を表－3.11に示す。

① 第1四半期

出現種類数は14種類、出現した平均個体数は142個体/1,000m³、主な出現種はメバル属等であり、出現種類数、平均個体数は過去同期の範囲を上回っていたが、過去と同様の出現傾向にあり、変化はみられなかった。

② 第2四半期

出現種類数は21種類、出現した平均個体数は124個体/1,000m³、主な出現種はカタクチイワシであり、過去同期と同様の傾向であった。

③ 第3四半期

出現種類数は5種類、出現した平均個体数は3個体/1,000m³、主な出現種はムラソイ等であり、過去同期と同様の傾向であった。

④ 第4四半期

出現種類数は7種類、出現した平均個体数は7個体/1,000m³、主な出現種はタラ科等であり、過去同期と同様の傾向であった。

表－3.9 稚仔調査結果

調査年月日 項 目	第1四半期		第2四半期	
	令和7年5月27日		令和7年8月21日	
出現種類数	14		21	
平均個体数 (個体/1,000m ³)	142		124	
主な出現種	メバル属 キツネメバル ウスメバル	65.2% 14.9% 6.4%	カタクチイワシ	78.4%

調査年月日 項 目	第3四半期		第4四半期	
	令和7年11月20日		令和8年2月20日	
出現種類数	5		7	
平均個体数 (個体/1,000m ³)	3		7	
主な出現種	ムラソイ カサゴ メバル属 アイナメ属 ネズッポ科	64.9% 18.9% 5.4% 5.4% 5.4%	タラ科 メバル属 キタノホッケ	74.7% 7.2% 6.0%

注 1) 主な出現種は、総個体数の 5% 以上出現かつ上位 5 種のものとした。

注 2) 出現種類数、平均個体数における下線部は、過去同期の範囲外の値であることを示す。

表－3.10 過去の稚仔調査結果範囲

調査時期 項 目	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
出現種類数	0～13	7～26	4～23	3～10
平均個体数 (個体/1,000m ³)	0～50	3～14, 636	1～21	1～91

注 1) 過去の調査結果範囲は、四半期ごとに下記の期間である。

第 1 四半期、第 2 四半期：平成 16 年度～令和 6 年度

第 3 四半期、第 4 四半期：平成 15 年度～令和 6 年度

表－3.11 稚仔調査における主な出現種の状況

調査時期 年度	第1四半期							第2四半期							第3四半期							第4四半期									
	運転開始前 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	運転開始前 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	運転開始前 H15	H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	運転開始前 H15	H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	
ヒメカ		0 / 0				○			0 / 2							○	3 / 10		○	○					1 / 1						
ツツイカ目		0 / 1						○	0 / 3							○	1 / 1								0 / 0						
カタクチイワシ		1 / 3	○			◎	○	◎	13 / 15	◎		○	○	◎	○	◎	5 / 7								0 / 1						
キュウリエソ		0 / 0							0 / 0								1 / 1								0 / 0						
ヨウジウオ亜科		0 / 0							0 / 0								1 / 3		○	○	○				0 / 0						
タツノオトシゴ属		0 / 0							0 / 0		◎		○		○		0 / 0								0 / 0						
テゴダラ科		0 / 0							0 / 0								1 / 2								0 / 0						
スケトウダラ	◎	4 / 7					○		0 / 0								0 / 0						○	◎	1 / 4						
タラ科		0 / 0							0 / 0								0 / 0								6 / 8	◎	◎			◎	
キアソコウ	○	0 / 1		○					1 / 3								0 / 0								0 / 0						
ハタ科		0 / 0							0 / 1								2 / 5								0 / 0						
シロギス		0 / 0						○	6 / 11	○	◎	◎	○	○			0 / 0								0 / 0						
アジ科		0 / 0							0 / 4	○	○		○				1 / 3								0 / 0						
シイラ		0 / 0						○	0 / 7		◎						0 / 0								0 / 0						
チダイ		0 / 0							1 / 2								0 / 0								0 / 0						
ササノハベラ属		0 / 0							0 / 0						◎	◎	9 / 11	○	◎	○	○				0 / 0						
ベラ科		0 / 0						○	2 / 10					○			1 / 2								0 / 0						
イカナゴ	◎	2 / 7	○	○					0 / 0								0 / 0							◎	◎	15 / 15		○			
サバ科		0 / 0							1 / 8	○			◎	○			0 / 0								0 / 0						
ハゼ科		2 / 4		○	◎	○	○	○	2 / 11	○	○	○	○	○			0 / 2								0 / 0						
ヘビギンボ科		1 / 1							0 / 1				○				0 / 0								0 / 0						
イソギンボ		0 / 0						○	4 / 13	◎	○	◎	◎	○	◎	○	1 / 3	○	◎		◎				0 / 0						
イソギンボ科		1 / 1							3 / 7	○	○	◎	○	○			0 / 0								0 / 0						
フサギンボ属		0 / 0							0 / 0								0 / 0							◎	○	0 / 4					
ムスジガジ	○	1 / 1							0 / 0								0 / 0								0 / 0						
タウエガジ科		4 / 6		○		○	○		0 / 0								0 / 0									5 / 7		○	◎		
ギンボ		1 / 1							0 / 0								0 / 0								0 / 0						
ウスメバル	◎	2 / 5	◎	◎	◎	○	◎		0 / 0								0 / 0								0 / 0						
キツネメバル		3 / 7	○	◎	◎	◎	◎		0 / 0								0 / 0								0 / 0						
ムラソイ		2 / 10	◎	◎	◎	◎	○		0 / 0								7 / 11	◎	◎	○	◎	◎	○		1 / 6		○		○	○	
ヨロイメバル		0 / 0							0 / 0								1 / 2								0 / 0						
メバル属	◎	10 / 10	◎	◎	◎	◎	◎		0 / 1								2 / 5	○			○	◎	◎	○	6 / 9			○	◎	◎	
カサゴ		0 / 2	○	○		○	○		0 / 0						○	◎	3 / 8	◎	◎	◎	◎	◎			0 / 1						
フサカサゴ科		0 / 1						○	1 / 9				○	○			2 / 4								0 / 0						
ハオコゼ		0 / 0						○	2 / 7								0 / 0								0 / 0						
ハオコゼ科		0 / 0							0 / 0				◎				0 / 0								0 / 0						
アイナメ		0 / 0							0 / 0						◎	◎	1 / 1						○	○	1 / 1						
アイナメ属		0 / 0			○		○		0 / 0								10 / 13	◎			○	◎			3 / 9	◎			○	○	
ホッケ		0 / 0							0 / 0								0 / 0							○	6 / 9						
キタノホッケ		0 / 0							0 / 0								0 / 0								1 / 1	◎	○	◎	◎	◎	
カジカ科		1 / 2		○					0 / 0								0 / 1								0 / 2					○	
ホウボウ科		0 / 0					○		0 / 1							○	1 / 2								0 / 0						
グサウオ科		2 / 2		◎					0 / 0								0 / 0								0 / 0						
ネズツボ科		0 / 0					○		9 / 16		◎	○	◎	○	◎		4 / 6		◎	◎	○	◎			0 / 0						
ヒラメ科		0 / 0				○			0 / 3							○	1 / 3								0 / 0						
メイトガレイ属		0 / 0							0 / 0						○	○	1 / 1								0 / 0						
マコガレイ		2 / 3	○				○		0 / 0								0 / 0							◎	◎	3 / 8			◎	◎	○
ヤナギムシガレイ		0 / 0							0 / 0								0 / 0							◎	○	0 / 0					
カレイ科		1 / 3		○					0 / 0								2 / 3							○	○	0 / 1		○		◎	
アミメハギ		0 / 0						○	6 / 14	○	◎	◎	○	○			0 / 1								0 / 0						

注 1) 年度欄の「運転開始前」は温排水放水前の調査であることを示す。

注 2) 表中の◎は主な出現種に計上されたことを示し、○は調査で出現したことを示す。

注 3) 平成 17 年度～令和 2 年度の 16 年間は、それぞれの出現状況を
(主な出現種に計上された回数) / (調査で出現した回数) で示す。

(7) プランクトン

調査位置：St. 23、30、32～35（6 調査点、図－1.6 参照）

発電所稼働状況：停止中

a. 動物プランクトン

調査結果を表－3.12 に、過去の調査結果範囲を表－3.13 に、主な出現種の状況を表－3.14 に示す。

① 第 1 四半期

出現種類数は 43 種類、出現した平均個体数は 5,120 個体/m³、主な出現種は nauplius of COPEPODA 等であり、過去同期と同様の傾向であった。

② 第 2 四半期

出現種類数は 74 種類、出現した平均個体数は 9,206 個体/m³、主な出現種は *Penilia avirostris* 等であり、過去同期と同様の傾向であった。

③ 第 3 四半期

出現種類数は 65 種類、出現した平均個体数は 7,291 個体/m³、主な出現種は copepodite of *Paracalanus* 等であり、過去同期と同様の傾向であった。

④ 第 4 四半期

出現種類数は 49 種類、出現した平均個体数は 2,052 個体/m³、主な出現種は nauplius of COPEPODA 等であり、過去同期と同様の傾向であった。

表－3.12 動物プランクトン調査結果

調査年月日 項 目	第1四半期		第2四半期	
	令和7年5月27日		令和7年8月21日	
出現種類数	43		74	
平均個体数 (個体/m ³)	5,120		9,206	
主な出現種	節足動物		節足動物	
	Nauplius of COPEPODA	48.8%	<i>Penilia avirostris</i>	18.9%
	Copepodite of <i>Oithona</i>	13.6%	Nauplius of COPEPODA	10.5%
	Copepodite of <i>Pseudocalanus</i>	10.5%	Copepodite of <i>Paracalanus</i>	8.9%
	Copepodite of <i>Paracalanus</i>	9.7%	Copepodite of <i>Oncaea</i>	6.7%
			原生動物	
			<i>Sticholonche zanclea</i>	9.4%

調査年月日 項 目	第3四半期		第4四半期	
	令和7年11月20日		令和8年2月20日	
出現種類数	65		49	
平均個体数 (個体/m ³)	7,291		2,052	
主な出現種	節足動物		節足動物	
	Copepodite of <i>Paracalanus</i>	29.3%	Nauplius of COPEPODA	54.1%
	Nauplius of COPEPODA	23.8%	Copepodite of <i>Oithona</i>	23.4%
	Copepodite of <i>Oithona</i>	11.4%	<i>Oithona similis</i>	5.3%
	Copepodite of <i>Clausocalanus</i>	10.8%		
	<i>Oncaea media</i>	5.7%		

注 1) 主な出現種は、総個体数の 5% 以上出現かつ上位 5 種のものとした。

表－3.13 過去の動物プランクトン調査結果範囲

調査時期 項 目	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
出現種類数	28～52	42～81	48～91	34～57
平均個体数 (個体/m ³)	2,216～40,681	4,346～30,009	3,109～19,863	630～6,541

注 1) 過去の調査結果範囲は、四半期ごとに下記の期間である。

第 1 四半期、第 2 四半期：平成 16 年度～令和 6 年度

第 3 四半期、第 4 四半期：平成 15 年度～令和 6 年度

表-3.14 動物プランクトン調査における主な出現種の状況

調査時期	第1四半期							第2四半期							第3四半期							第4四半期								
年度	運転開始前 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	運転開始前 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	運転開始前 H15 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	運転開始前 H15 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7		
<i>Sticholonche zanclea</i>		0 / 4	○	○		○		○	2 / 13	○	◎	○	○	◎	○	8 / 16	◎	○	◎	○	○	○	○	○	2 / 14	○	○	○	○	○
<i>Parafavella denticulata</i>	○	1 / 5	○	○	○	○	○		0 / 0						○	0 / 0								0 / 5			○	○	○	
<i>Oreosira</i> sp.		0 / 0						○	0 / 7	○	○	◎	○	○		0 / 5		○						0 / 0						
<i>Evadne spinifera</i>		0 / 0						○	1 / 15	○	○	◎	○	○		0 / 1								0 / 0						
<i>Penilia avirostris</i>		0 / 0						◎	3 / 15	○	○	○	○	◎	○	0 / 3		○		○				0 / 0						
Copepodite of <i>Paracalanus</i>	◎	3 / 16	○	◎	◎	◎	◎	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	◎	15 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	1 / 16	◎	○	○	○	○
Copepodite of <i>Clausocalanus</i>	○	2 / 16	◎	○	○	○	○	○	0 / 13	○	○	○	○	○	○	9 / 15	○	◎	◎	◎	◎	○	○	1 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	
Copepodite of <i>Pseudocalanus</i>	◎	15 / 16	◎	◎	○	○	◎		0 / 0							0 / 4					◎	◎	◎	6 / 16	◎	○	○	○	○	
<i>Oithona similis</i>	○	4 / 16	○	○	○	○	○	○	2 / 16	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	○	○	◎	◎	◎	10 / 16	○	○	○	○	◎	
Copepodite of <i>Oithona</i>	◎	15 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	○	13 / 16	○	○	○	○	◎	◎	10 / 16	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	
<i>Oncaea media</i>		0 / 12	○	○	○	○	○		6 / 16	◎	○	○	◎	○	○	8 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	1 / 16	○	○	◎	○	○	
<i>Oncaea</i> sp.		0 / 12	○	○	○	○			0 / 7	○						2 / 15	○	○	○	○		○	○	1 / 15	○	○	○	○	○	
Copepodite of <i>Oncaea</i>	○	0 / 11	○		○	○	○	○	9 / 16	◎	○	○	◎	◎	◎	8 / 16	◎	○	○	○	○	◎	◎	1 / 16	○	○	○	○	○	
<i>Microsetella norvegica</i>	○	0 / 16	○	○	○	○	○	○	2 / 16	◎	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	○	○		○	○	0 / 16	○	○	○	○	○	
Nauplius of COPEPODA	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	
<i>Fritillaria borealis</i>		1 / 2		○					0 / 0							0 / 0								0 / 2						
<i>Fritillaria</i> sp.	○	1 / 13	○	○	○	○	○	○	0 / 12	○	○	○	○	○	○	0 / 11		○	○	○	○	○	○	1 / 14	○	○	○	○	○	
<i>Oikopleura dioica</i>		0 / 6	○	○	○	○	○	○	1 / 14				○	○		0 / 3			○	○				0 / 7	○	○	○	○	○	
<i>Oikopleura</i> sp.	○	2 / 13	○	◎	○	○	○	◎	3 / 16	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	○	○	○	
<i>Doliolum</i> sp.		0 / 0							2 / 16	○	○	○	○	○		0 / 4	○							0 / 0						
DOLIOLIDAE		0 / 0						◎	0 / 1			○				0 / 0								0 / 0						

注 1) 年度欄の「運転開始前」は温排水放水前の調査であることを示す。

注 2) 表中の◎は主な出現種に計上されたことを示し、○は調査で出現したことを示す。

注 3) 平成 17 年度～令和 2 年度の 16 年間は、それぞれの出現状況を（主な出現種に計上された回数）／（調査で出現した回数）で示す。

b. 植物プランクトン

調査結果を表－3.15 に、過去の調査結果範囲を表－3.16 に、主な出現種の状況を表－3.17 に示す。

① 第1四半期

出現種類数は54種類、出現した平均細胞数は337,450細胞/L、主な出現種は *Leptocylindrus danicus* 等であり、過去同期と同様の傾向であった。

② 第2四半期

出現種類数は71種類、出現した平均細胞数は214,075細胞/L、主な出現種は *Skeletonema costatum* 等であり、平均細胞数は過去同期の範囲を上回っていたが、過去と同様の出現傾向にあり、変化はみられなかった。

③ 第3四半期

出現種類数は54種類、出現した平均細胞数は23,880細胞/L、主な出現種は THALASSIOSIRACEAE 等であり、過去同期と同様の傾向であった。

④ 第4四半期

出現種類数は58種類、出現した平均細胞数は70,923細胞/L、主な出現種は THALASSIOSIRACEAE 等であり、過去同期と同様の傾向であった。

表－3.15 植物プランクトン調査結果

調査年月日 項 目	第1四半期		第2四半期	
	令和7年5月27日		令和7年8月21日	
出現種類数	54		71	
平均細胞数 (細胞/L)	337,450		214,075	
主な出現種	黄色植物 <i>Leptocylindrus danicus</i> <i>Cerataulina pelagica</i> クリプト植物 CRYPTOPHYCEAE	53.1% 6.6% 7.5%	黄色植物 <i>Skeletonema costatum</i> <i>Chaetoceros compressum</i> <i>Nitzschia</i> spp. ハプト植物 HAPTOPHYCEAE 渦鞭毛植物 GYMNODINIALES	19.7% 11.0% 7.2% 8.9% 7.3%

調査年月日 項 目	第3四半期		第4四半期	
	令和7年11月20日		令和8年2月20日	
出現種類数	54		58	
平均細胞数 (細胞/L)	23,880		70,923	
主な出現種	黄色植物 THALASSIOSIRACEAE クリプト植物 CRYPTOPHYCEAE ハプト植物 HAPTOPHYCEAE 渦鞭毛植物 GYMNODINIALES 緑藻植物 PRASINOPHYCEAE	23.8% 19.3% 10.8% 7.1% 7.1%	黄色植物 THALASSIOSIRACEAE <i>Thalassiosira</i> sp. <i>Skeletonema costatum</i> クリプト植物 CRYPTOPHYCEAE	21.7% 7.6% 6.6% 10.8%

注 1) 主な出現種は、総細胞数の 5% 以上出現かつ上位 5 種のものとした。

注 2) 平均細胞数における下線部は、過去同期の範囲外の値であることを示す。

表－3.16 過去の植物プランクトン調査結果範囲

調査時期 項 目	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
出現種類数	25～76	43～81	36～80	35～64
平均細胞数 (細胞/L)	2,480～1,439,620	11,935～182,730	2,575～56,405	3,075～500,500

注 1) 過去の調査結果範囲は、四半期ごとに下記の期間である。

第 1 四半期、第 2 四半期：平成 16 年度～令和 6 年度

第 3 四半期、第 4 四半期：平成 15 年度～令和 6 年度

表-3.17 植物プランクトン調査における主な出現種の状況

調査時期 年度	第1四半期							第2四半期							第3四半期							第4四半期								
	運転開始前 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	運転開始前 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	運転開始前 H15	H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	運転開始前 H15	H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7
CRYPTOMONADACEAE		0 / 0							0 / 0								1 / 1							0 / 0						
CRYPTOPHYCEAE	◎	11 / 16	◎	○	○	○	◎	◎	10 / 16	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	15 / 15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	13 / 16	◎	◎	◎	◎	◎
<i>Proocentrum minimum</i>		1 / 3						○	0 / 9	○		○	○	○	○	○	0 / 4							0 / 9		○	○		○	
GYMNODINIALES	○	1 / 16	○	○	○	○	○	○	9 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	6 / 16	◎	◎	◎	○	◎	○	○	4 / 16	◎	○	◎	○	○
PERIDINIALES	○	4 / 15	○	○	○	○	○	○	6 / 15	○	○	○	○	○	○	○	2 / 15	○	○	○	○	○	○	○	5 / 15	◎	○	◎	○	○
<i>Phaeocystis</i> sp.		0 / 0							1 / 2				○				0 / 0				○			0 / 0						
HAPTOPHYCEAE		0 / 10	○		○	○	○	○	12 / 16	◎	◎	◎	◎	◎			15 / 15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	0 / 14	○	○	○	○	○
<i>Skeletonema costatum</i>	○	0 / 4	○	○		○	○	○	0 / 9	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	0 / 14	○	○	○	○	○	◎	◎	3 / 15	○	◎	◎	◎	◎
<i>Leptocylindrus danicus</i>	◎	2 / 8	○	○	◎	◎	◎	◎	0 / 10	○							0 / 7	○					○	0 / 4	○	○			○	
<i>Leptocylindrus mediterraneus</i>		0 / 2				○		○	2 / 12	○	○	○	○	○			0 / 8	○	○	○	○	○	○	0 / 11	○	○	○	○	○	
<i>Leptocylindrus minimus</i>	○	0 / 3	○	○	◎	○	○	◎	0 / 8								0 / 1						○	0 / 0						
<i>Thalassiosira</i> sp.		3 / 15	○	○	○	○	○		0 / 15	○	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	○	○	○		9 / 16	○	◎	◎	○	◎	
THALASSIOSIRACEAE	○	2 / 11	○	○	○	○	○	○	0 / 8	○					◎	◎	6 / 14	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	11 / 15	◎	◎	◎	◎	◎
<i>Rhizosolenia delicatula</i>	○	0 / 11	○	○	○	○	○	○	1 / 7	○	○	○	○	○		○	0 / 4						○	0 / 6	○					
<i>Rhizosolenia fragilissima</i>	◎	9 / 15	◎	◎	◎	○	○	○	2 / 16	○	○	◎	◎	◎	○	○	0 / 7	○						0 / 8		○	○	○	○	
<i>Rhizosolenia imbricata</i>		0 / 1							0 / 8	○	○	○	○	○			0 / 11	○		◎	○	○		0 / 4	○					
<i>Rhizosolenia phuketensis</i>		1 / 12	○	○	○	○	○		2 / 13	○	◎		○	○			0 / 12	○	○	○	○			0 / 11	○	○	○	○	○	
<i>Rhizosolenia</i> sp.	○	0 / 1						○	1 / 1								0 / 2						○	0 / 1						
<i>Bacteriastrium varians</i>		2 / 13	◎	○	○		○		1 / 10	○			◎				0 / 5				○	○		0 / 1						
<i>Chaetoceros compressum</i>	◎	0 / 12	○	○	○	○	○	○	3 / 12	○	○	○	◎	◎			0 / 8	○	○	◎	○	○	○	0 / 9	○		○	○	○	
<i>Chaetoceros debile</i>		0 / 6	○	○	○	○	○		0 / 5				○				0 / 5				○	○	○	0 / 15	○	○	○	○	○	
<i>Chaetoceros decipiens</i>		1 / 11	○	○	○	○	○		0 / 2	○			○				0 / 10	○	○	○	○		○	0 / 10	○		○			
<i>Chaetoceros diadum</i> v. <i>protuberans</i>		0 / 9	○	○	○		○		1 / 10		○	○	○				0 / 6	○		○	○			0 / 1						
<i>Chaetoceros radicans</i>		0 / 8	○	○	○	○	○		1 / 3								0 / 2						○	0 / 5		○			○	
<i>Chaetoceros sociale</i>	○	2 / 10	◎	◎	○	○	○	○	0 / 1	○			○	○	○	○	1 / 12	○	○	○	○	○	○	0 / 7	15 / 15	○	○	◎	◎	
<i>Chaetoceros (Hyalochaete)</i> sp.	○	0 / 1						◎	0 / 1								0 / 1						○	0 / 1						
<i>Chaetoceros</i> sp.		0 / 8	○	○	○	○	○		1 / 13	◎	○	○	◎	◎			0 / 10	○	○	○	○	○		0 / 9	○	○	○		○	
<i>Geratulina pelagica</i>	○	5 / 12	○	○	○	○	◎	○	0 / 12	○			○	○	○	○	0 / 2	○						0 / 1					○	
<i>Asterionella glacialis</i>		0 / 3	○		○	○	○		0 / 8		◎						0 / 11	○	○	○			○	1 / 12			○	○	○	
<i>Asterionella karana</i>		1 / 4							0 / 0								0 / 1							0 / 5		○		○	○	
<i>Thalassionema nitzschioides</i>	○	1 / 12	○	○	○	○	○		0 / 16	○	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	○	○	○	○	5 / 16	○	○	○	○	○	
<i>Thalassiothrix frauenfeldii</i>		0 / 6	○			○		○	1 / 9	○	○	○	○	○	○	○	0 / 11	○	○	○	○	○		0 / 6						
<i>Neodelphinella pelagica</i>		1 / 3				○	○		0 / 1				○	○	○	○	0 / 3	○			○	○		0 / 5				○		
<i>Achnanthes longipes</i>		0 / 0							0 / 0								0 / 2							0 / 0						
<i>Nitzschia</i> spp.		3 / 13	◎	○	◎	◎	○	○	9 / 16	○	○	○	◎	◎			4 / 15	○	○	○	○	○		1 / 15	○			○	○	
<i>Cylindrotheca closterium</i>	○	0 / 16	○	○	○	○	○	○	0 / 15	○	○	○	○	○	○	◎	2 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	0 / 16	○	○	○	○	○
PENNALES	○	0 / 1						○	0 / 2						○	○	0 / 3						◎	◎	0 / 4		○			
PRASINOPHYCEAE	◎	4 / 16	○	○	○	○	○		10 / 16	○	○	◎	○	○	◎	◎	11 / 16	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	5 / 16	○	○	○	○	○

注 1) 年度欄の「運転開始前」は温排水放水前の調査であることを示す。

注 2) 表中の◎は主な出現種に計上されたことを示し、○は調査で出現したことを示す。

注 3) 平成 17 年度～令和 2 年度の 16 年間は、それぞれの出現状況を（主な出現種に計上された回数）／（調査で出現した回数）で示す。

注 4) 微小鞭毛藻類は、種が特定できないため除外した。

(8) 海藻草類

調査位置：LineA～D（4 調査測線、図－1.7 参照）

発電所稼働状況：停止中

調査結果を表－3.18 に、過去の調査結果範囲を表－3.19 に、主な出現種の状況を表－3.20 に示す。

a. 第 1 四半期

出現種類数は 62 種類で、主な出現種はサビ亜科等であり、過去同期と同様の傾向であった。

b. 第 2 四半期

出現種類数は 56 種類で、主な出現種はサビ亜科等であり、過去同期と同様の傾向であった。

c. 第 3 四半期

出現種類数は 51 種類で、主な出現種はサビ亜科等であり、過去同期と同様の傾向であった。

d. 第 4 四半期

出現種類数は 57 種類で、主な出現種はサビ亜科等であり、過去同期と同様の傾向であった。

表－3.18 海藻草類調査結果

調査年月日 項 目	第1四半期		第2四半期	
	令和7年5月14日～22日		令和7年8月8日～19日	
出現種類数	62		56	
主な出現種	紅藻植物	サビ亜科 ユカリ マコンブ アカモク ケウルシグサ	紅藻植物	サビ亜科 ヨレクサ イギス科 マコンブ

調査年月日 項 目	第3四半期		第4四半期	
	令和7年11月23日～12月7日		令和8年2月9日～14日	
出現種類数	51		57	
主な出現種	紅藻植物	サビ亜科 ヨレクサ ハリガネ マコンブ アカモク	紅藻植物	サビ亜科 ヨレクサ マコンブ

注 1) 主な出現種は、いずれかの調査測線で被度が 25% 以上のものとした。

表－3.19 過去の海藻草類調査結果範囲

調査時期 項 目	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
出現種類数	58～74	50～75	48～71	55～69

注 1) 過去の調査結果範囲は、四半期ごとに下記の期間である。

第 1 四半期、第 2 四半期：平成 16 年度～令和 6 年度

第 3 四半期、第 4 四半期：平成 15 年度～令和 6 年度

表－3.20 海藻草類調査における主な出現種の状況

調査時期	第1四半期							第2四半期							第3四半期							第4四半期							
	運転開始前 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	運転開始前 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	運転開始前 H15 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	運転開始前 H15 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	
スガモ	○	11 / 16	◎	○	○	○	○	○	9 / 16	○	○	○	○	○	○	7 / 16	○	◎	○	○	○	○	○	7 / 16	○	○	○	○	○
アオサ属	○	2 / 16	○	◎	○	○	○	○	2 / 15	○	◎	○	○	○	○	0 / 14	○	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	○	○	○
エゾヤハズ	○	0 / 15	○	○	○	○	○	○	1 / 15	○	○	○	○	○	○	0 / 13	○	○	○	○	○			0 / 4	○	○	○	○	○
アマシグサ	○	0 / 9				○	○	○	0 / 10	○	○	○	○	○	○	1 / 15	○	○	○	○	○	○	○	0 / 7	○	○	○	○	○
フクリンアミジ	○	0 / 15	◎	○	◎	○	○	○	1 / 16	○	○	○	○	○	○	5 / 16	◎	◎	◎	○	○	○	○	3 / 16	◎	◎	○	○	○
コモンダサ		0 / 9	○		○	○	○	○	1 / 11				○	○	○	1 / 14	◎	○	○	○	○	○	○	1 / 11	○	◎	○	○	○
ウルシダサ	○	1 / 16	○	○	○	○	○	○	0 / 6						○	0 / 0						○	0 / 14	○			○		
タバコダサ	○	3 / 15	○		○	○	○	◎	9 / 13	○	○					0 / 1						○	0 / 13					○	
ケウルシダサ	○	14 / 16	◎	◎	◎	◎	◎		0 / 5							0 / 0						○	3 / 16	○	○	○	○	○	
ワカメ	◎	10 / 16	◎	◎	◎	◎	◎		3 / 16	○	○	○	○	○		0 / 1						○	1 / 16	○	○	○	○	○	
スジメ	◎	7 / 16	○	○	○	○	○	○	3 / 10		○					0 / 1						○	0 / 16	○	○	○	○	○	
マコンブ	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	◎	16 / 16	○	◎	◎	◎	◎	◎	15 / 16	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	10 / 16	○	◎	◎	◎	◎
ウガノモク	◎	3 / 16	○	○	○	◎	○	○	2 / 16	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	○	○	○	○	○	1 / 16	○	○	○	○	○
フシスジモク	○	1 / 16	○	○	○	○	○	○	1 / 16	○	○	○	○	○	○	2 / 16	○	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	○	○	○
アカモク	○	6 / 16	○	○	○	○	◎	○	0 / 15	○				○	○	1 / 16	○	○	○	◎	○	○	3 / 16	○	○	○	○	◎	
ダルス	○	1 / 16	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	◎	○	○	
ヤハズシコロ	○	3 / 16	○	○	○	○	○	○	3 / 16	○	○	○	○	○	○	7 / 16	○	○	○	○	○	○	○	2 / 16	○	○	○	○	○
イソネリ	○	0 / 16	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	○	○	○	○	1 / 16	○	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	○	○	○
ゼリヒバ	○	0 / 16	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	○	○	○	◎	0 / 16	○	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	○	○	○
サビ重利	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎
ヨレクサ	○	1 / 13	○	○	○	○	○	○	9 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	○	8 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	3 / 16	◎	◎	◎	◎	◎
オバクサ	○	1 / 16	○	○	○	○	○	○	0 / 15	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	○	○	○	○	○	7 / 16	○	○	○	○	○
カギノリ	○	1 / 16	○	○	◎	◎	○	○	0 / 1							0 / 2						○	1 / 15	○	○	○	○	○	
アカバギンナンソウ		8 / 12	○		○	○	○	○	0 / 11	○	○	○	○	○	○	0 / 11	○	○	○	○	○	○		2 / 12	○	○	○	○	○
クロトサカモドキ	○	3 / 12	○						0 / 10						○	0 / 5						○	0 / 14	○			○	○	
ホソバノトサカモドキ	○	0 / 7						○	3 / 15						○	1 / 14						○	0 / 15						
トサカモドキ属	○	0 / 16	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○					○	0 / 16	○	○	○	○	○	○	○	2 / 16	○	○	○		
ハリガネ	◎	8 / 16	○	○	○	○	○	◎	14 / 16	◎	○	○	○	○	◎	16 / 16	◎	○	○	○	◎	◎	◎	14 / 16	○	○	○	○	○
ユカリ	○	0 / 16	○	○	○	◎	◎	○	0 / 16	○				○	○	0 / 16	○	◎	○	○	○	○	○	2 / 16	◎	◎	◎	◎	○
サエダ	○	3 / 16	○	○	○	○		○	2 / 16		○	○	○	○	○	1 / 16	○	○	○	○	○	◎	5 / 16	○	○	○	○	○	○
クシベニヒバ	○	0 / 16	○					○	0 / 12			○			○	0 / 13		○				○	○	1 / 16					
イギス科	◎	1 / 16	○	○	○	○	○	○	2 / 16	○		○	○	◎	○	0 / 16	○	○	○	○	○	○	○	1 / 16	○	○	○	○	○
ハイウスバノリ属	○	9 / 16	○	○	○	○	○	○	3 / 16	○	○	○	○	○	◎	5 / 16	○	○	○	○	○	○	○	10 / 16	○	○	○	○	○
ハブタエノリ	○	3 / 16	○					○	7 / 16	○	○	○	○	○		0 / 16	○	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	○	○	○
スズシロノリ	○	1 / 16	○	○	○	○	○	○	2 / 16	○	○	○	○	○	○	0 / 16	○	○	○	○	○	○	○	1 / 16	○	○	○	○	○

注 1) 年度欄の「運転開始前」は温排水放水前の調査であることを示す。

注 2) 表中の◎は主な出現種に計上されたことを示し、○は調査で出現したことを示す。

注 3) 平成 17 年度～令和 2 年度の 16 年間は、それぞれの出現状況を（主な出現種に計上された回数）／（調査で出現した回数）で示す。

(9) 底生生物（メガロベントス）

調査位置：LineA～D（4 調査測線、図－1.7 参照）

発電所稼働状況：停止中

調査結果を表－3.21 に、過去の調査結果範囲を表－3.22 に、主な出現種の状況を表－3.23 に示す。

a. 第 1 四半期

出現種類数は 9 種類、出現した平均個体数は 15 個体/m²、主な出現種はキンコ科等であり、過去同期と同様の傾向であった。

b. 第 2 四半期

出現種類数は 8 種類、出現した平均個体数は 7 個体/m²、主な出現種はキタムラサキウニ等であり、過去同期と同様の傾向であった。

c. 第 3 四半期

出現種類数は 9 種類、出現した平均個体数は 10 個体/m²、主な出現種はキタムラサキウニ等であり、過去同期と同様の傾向であった。

d. 第 4 四半期

出現種類数は 8 種類、出現した平均個体数は 17 個体/m²、主な出現種はキンコ科等であり、過去同期と同様の傾向であった。

表－3.21 底生生物（メガロベントス）調査結果

調査年月日 項 目	第1四半期		第2四半期	
	令和7年5月14日～22日		令和7年8月8日～19日	
出現種類数	9		8	
平均個体数 (個体/m ²)	15		7	
主な出現種	棘皮動物 キンコ科 キタムラサキウニ	67.6% 22.5%	棘皮動物 キタムラサキウニ キンコ科 イトマキヒトデ 原索動物 マボヤ	51.9% 23.1% 13.0% 7.4%

調査年月日 項 目	第3四半期		第4四半期	
	令和7年11月23日～12月7日		令和8年2月9日～14日	
出現種類数	9		8	
平均個体数 (個体/m ²)	10		17	
主な出現種	棘皮動物 キタムラサキウニ キンコ科 イトマキヒトデ 原索動物 マボヤ	51.6% 25.5% 5.7% 13.4%	棘皮動物 キンコ科 キタムラサキウニ	57.1% 33.8%

注 1) 主な出現種は、総個体数の 5% 以上出現かつ上位 5 種のものとした。

表－3.22 過去の底生生物（メガロベントス）調査結果範囲

調査時期 項 目	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
出現種類数	5～15	6～12	6～17	6～14
平均個体数 (個体/m ²)	5～48	3～33	3～24	3～24

注 1) 過去の調査結果範囲は、四半期ごとに下記の期間である。

第 1 四半期、第 2 四半期：平成 16 年度～令和 6 年度

第 3 四半期、第 4 四半期：平成 15 年度～令和 6 年度

表－3.23 底生生物（メガロベントス）調査における主な出現種の状況

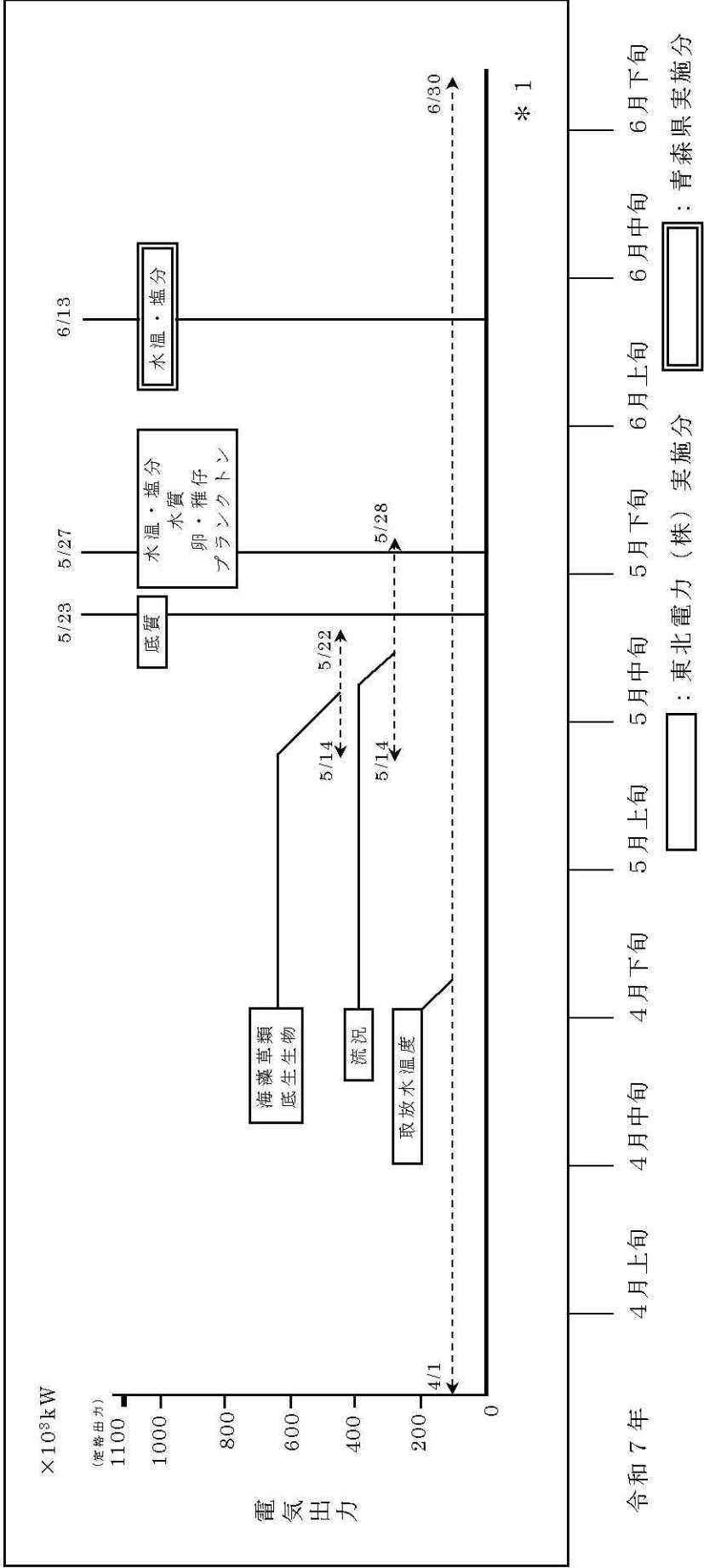
調査時期	第1四半期							第2四半期							第3四半期							第4四半期									
	運転開始前 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	運転開始前 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	運転開始前 H15	H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	運転開始前 H15	H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7	
イソギンチャク目		0 / 4	○	○	○		○		4 / 12	◎	○	○	○	○			1 / 6	○	○	○	○	○			1 / 8			○	○		○
エソアワビ		0 / 13					○	○	2 / 14	○	○				○	○	2 / 14		○			○	○	○	○	1 / 13					
エソボラ属		0 / 3							1 / 3								0 / 5								0 / 2						
イタボガキ科		0 / 1							0 / 1								0 / 0				○				1 / 2						
裸鰓目		0 / 2							1 / 2								0 / 2					○			0 / 0						
イトマキヒトデ	○	0 / 5	○	○	◎	○	○	○	2 / 7	◎	◎	◎	○	◎	○		1 / 9	◎	◎	◎	◎	◎			2 / 6	○	◎	○	◎	○	
ヒメヒトデ属		0 / 5		○					1 / 9				○	○			0 / 6							○	0 / 3	○					
エソバファンニ	○	0 / 7							1 / 5							○	0 / 4						○		1 / 9						
キタムラサキウニ	○	13 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	
キンコ科	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	◎	15 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎	
マボヤ	○	3 / 13	○	○	○	○	○	◎	7 / 13	○		○	◎	◎	◎	◎	8 / 15	○	○	○	◎	◎	◎	◎	6 / 14	○	○	○		○	
海鞘亜綱(単体ホヤ類)	○	1 / 10	○	○					3 / 11	○	○		○	○	○	◎	4 / 12	○			○		○	○	0 / 11	○	○				

注 1) 年度欄の「運転開始前」は温排水放水前の調査であることを示す。

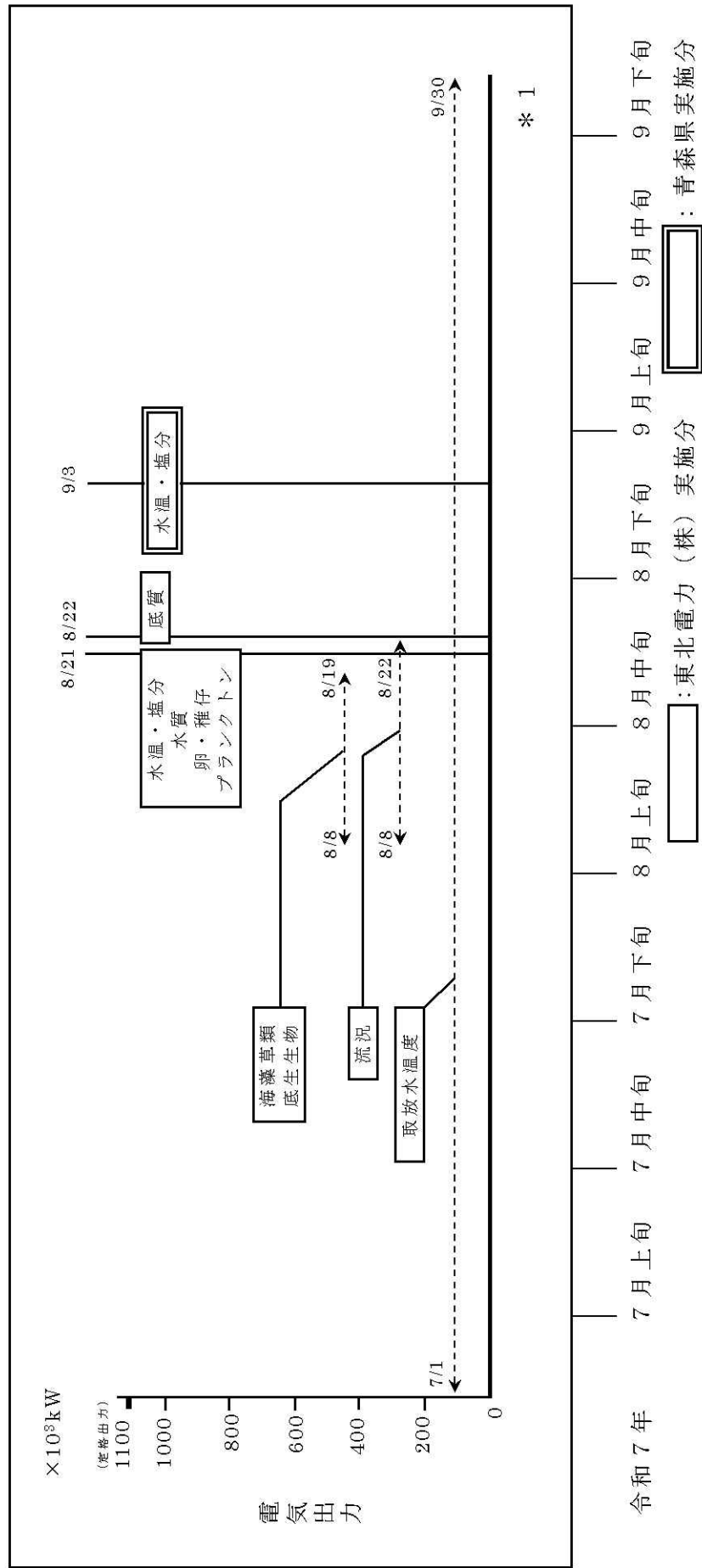
注 2) 表中の◎は主な出現種に計上されたことを示し、○は調査で出現したことを示す。

注 3) 平成 17 年度～令和 2 年度の 16 年間は、それぞれの出現状況を（主な出現種に計上された回数）／（調査で出現した回数）で示す。

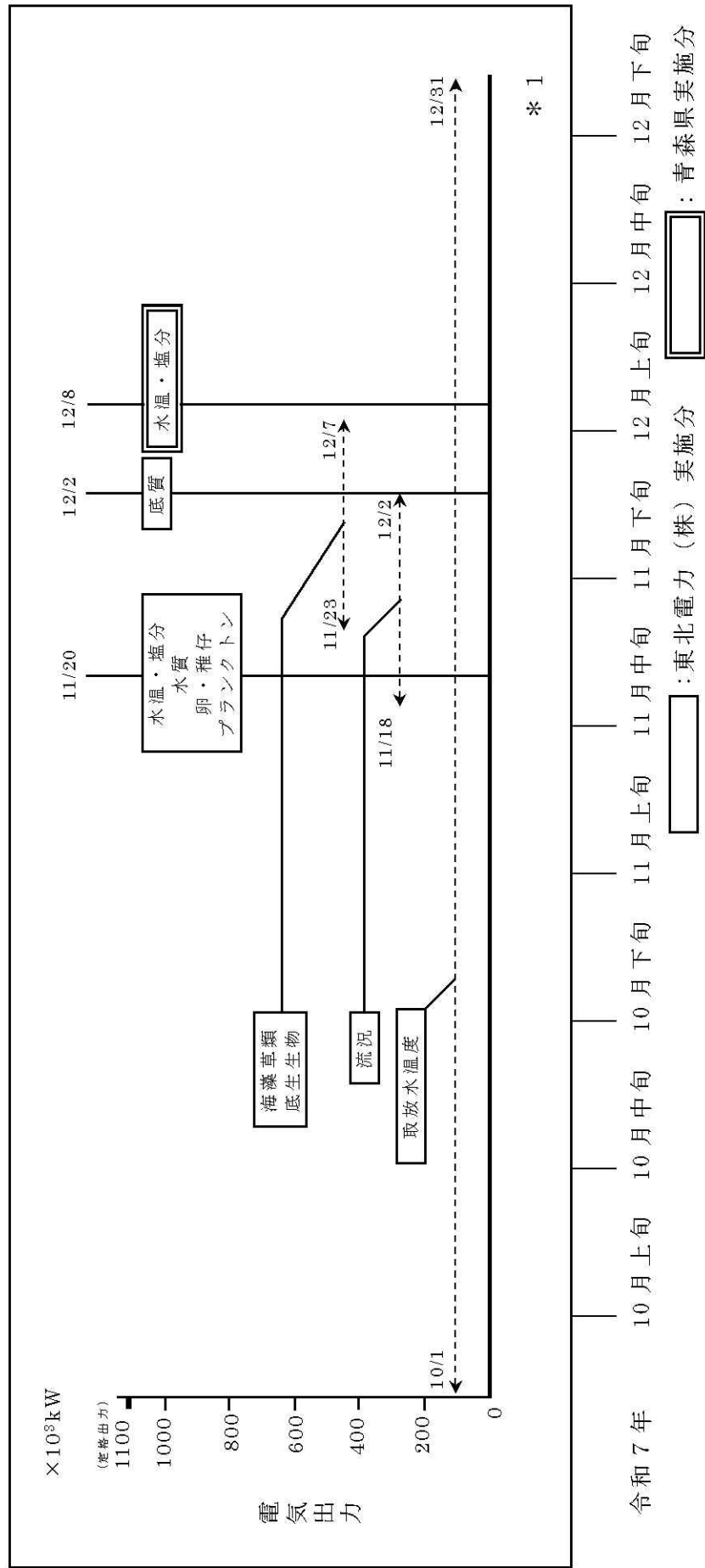
(10) 運転状況・調査スケジュール



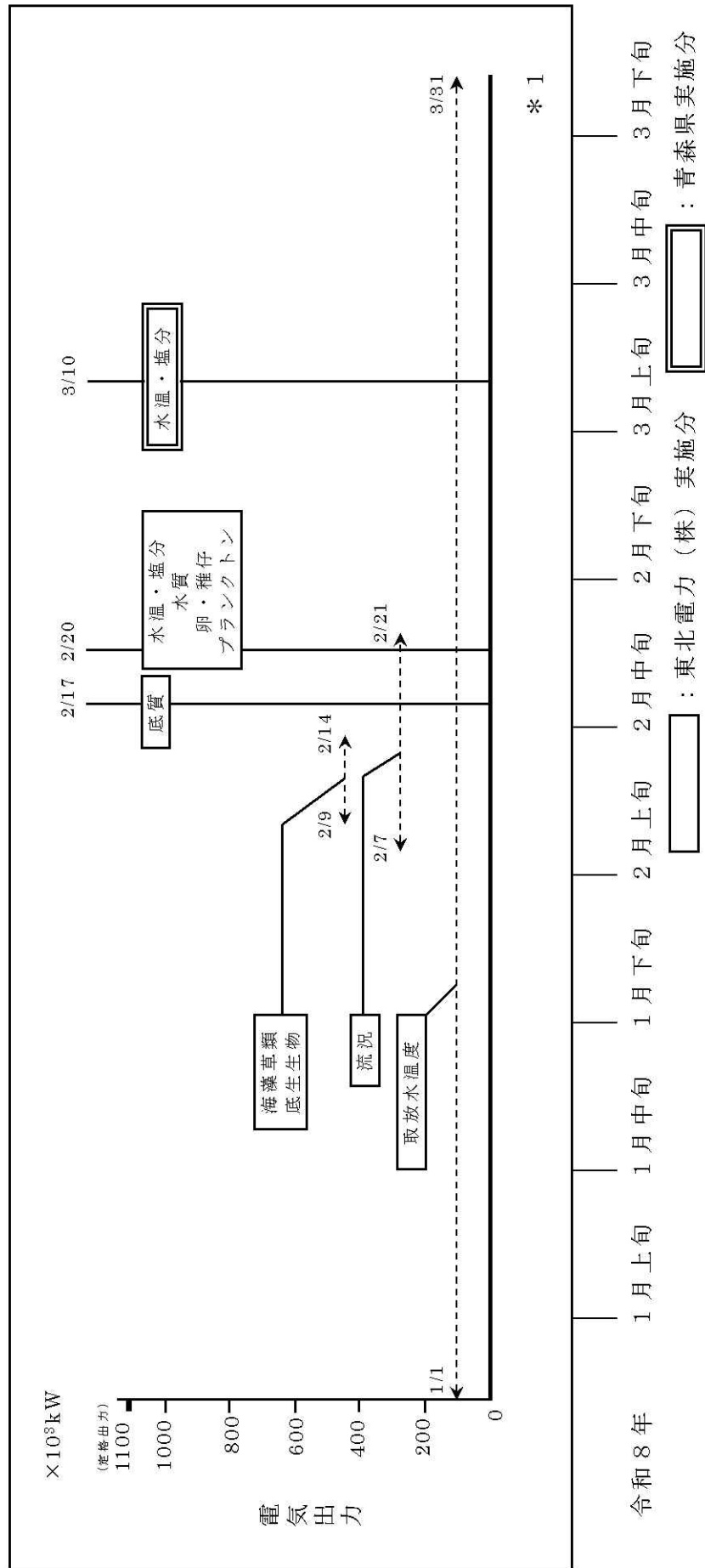
* 1：平成23年2月6日より第4回定期事業者検査中のため、発電を停止しているので電気出力は0kWとなっている。



* 1：平成 23 年 2 月 6 日より第 4 回定期事業者検査中のため、発電を停止しているので電気出力は 0 kW となっている。



* 1：平成23年2月6日より第4回定期事業者検査中のため、発電を停止しているので電気出力は0 kWとなっている。



※1：平成23年2月6日より第4回定期事業者検査中のため、発電を停止しているので電気出力は0kWとなっている。

東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書

(令和7年度報)

発 行 令和8年8月

青森県農林水産部水産局水産振興課

〒030-8570 青森市長島一丁目1番1号

電話 (017) 722-1111 (内線 4660)

FAX (017) 734-8166